



SUPER GLOBAL
HIGH SCHOOL

平成27年度指定
スーパーグローバルハイスクール
研究開発実施報告書
(第5年次)



令和2年3月

愛媛県立宇和島南中等教育学校

グローバルからグローバルへ

愛媛県立宇和島南中等教育学校
校長 河野 昇治

平成 27 年度から文部科学省より S G H 事業の指定を受けて 5 年目、いよいよ最終年度を迎えることとなりました。今年は、研究の総決算ということもあり、生徒たちも先生方も今まで以上に一層力が入っていたように思います。また、5 年間の積み重ねは、宇和島南の生徒たちに多くの財産をもたらしてくれました。課題研究発表会や国内外フィールドワークでの臆することのない言動、ホームステイ・短期語学留学・アジア高校生架け橋プロジェクト留学生を通じた外国人との交流、そして大学の先生方や地域の関係者の方々との人脈等々。こういったレガシーは、大学生や社会人になってからもきっと役立つことでしょう。スタートした時には考えられなかった南校生の活躍は、今や本校の魅力の一つとなっています。各地区で行われる学校説明会において、本校を志望する児童やその保護者が一番目を輝かせるのが S G H を紹介する場面です。おそらく、世界へと飛び出し生き生きと活躍する先輩方の姿に、自分を重ね合わせているからでしょう。

私は、現在本校以外に 3 校のスーパーハイスクール（宇和島東 S S H，宇和島水産 S P H，愛媛大学附属 S G H）の運営指導委員をしています。前述したことはどの学校においても同様で、おそらく生徒の成長は教員の予想をはるかに上回る成果となって表れているに違いありません。そのことを先日、西予市文化会館に置いて開催されたスーパーハイスクールコンソーシアムでの発表を見て確信しました。この大会では、スーパーハイスクール以外にも各学校が取り組む様々な事業の内容を発表していました。どの発表も、今時の高校生のたくましさを感じさせ、地域貢献への無限の可能性を感じさせるものでした。

さて、本校での S G H 事業は本年度末を持って終了しますが、事業を通じて培ったノウハウは、来年度以降も継承していかなければならないと考えています。もちろんその内容については精選する必要がありますが、さらにより良いものにしたいと思っています。その一つとして、文部科学省の後継事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」への参画を検討しているところです。これまでの実績を踏まえて、「夢・挑戦・感動 つむぐ宇和島南グローバル・イノベーション～宇和島のうみ・やま・まちを世界の中で考え、仲間とともに創る～」をテーマとし、より一層生徒の感性・共感力・確かな学力・他社との協調性・人生を切り開く態度を培い、持続可能な地域創生に貢献する人材を育てる教育へと発展させていきたいと思っています。

34 年前、私の教員生活は、ここ宇和島でスタートしました。そして南予地域を中心にいくつかの学校に勤務し、一筆書きの最後として宇和島の地で教員生活を終えようとしています。宇和島の魅力を再発見し、かつての活気を取り戻すために、中高生の力は欠かせません。宇和島南中等教育学校にどれだけのことができるのか、私の最後に与えられた課題と思い、全力で取り組んで参りたいと思います。

終わりになりますが、S G H 事業を通じて御尽力いただいたすべての関係者の皆様に感謝申し上げます、御挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

目 次

巻頭言

I	令和元年度SGH研究開発完了報告書（別紙様式3）	1
II	令和元年度SGH研究開発の成果と課題	19
1	教育課程の編成	19
2	外国語教育	21
3	国内海外研修	29
4	国内外の大学や企業・国際機関等との連携	36
III	研究開発の内容	42
1	令和元年度SGH年間事業計画	42
2	令和元年度SGH事業実績	44
3	実施報告	47
(1)	課題研究の取組	47
(2)	課題研究以外の取組	63
(3)	グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組	65
IV	関係資料	78
1	令和元年（平成31年）度教育課程表	78
2	運営指導委員会の記録	79
3	ループリック評価表	82
4	活動の様子	85
5	SGH便り	89
V	アンケート調査結果	97

令和2年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 様

住 所 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2
管理機関名 愛媛県教育委員会
代表者名 教育長 三好 伊佐夫 印

令和元年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成31年4月1日（契約締結日）～令和2年3月31日

2 指定校名

学校名 愛媛県立宇和島南中等教育学校

学校長名 河野 昇治

3 研究開発名

宇和島のうみ・やまから世界を考える ～Global Leader Project from the Local Area～
県立中等教育学校のSGチャレンジ

4 研究開発概要

(1) グローバル人材を育成するための課題研究プログラム開発（SGアクション）

行政、研究機関、企業及び大学等の外部機関との緊密な協力関係を築き、国内外でのフィールドワーク（FW）を含む課題探究学習等を行うことにより、問題発見能力、論理的思考力・分析力、世界に売り込む企画立案力・交渉力及び異文化理解力等を高める。

(2) コミュニケーション能力を高めるための教育課程の開発（グローバル・スキル）

ア 英語によるコミュニケーション能力の向上

学校設定科目「グローバル・スキル」のカリキュラム開発を行う。

イ グローバル社会で通用する批判的思考力、発信力・表現力等の向上

ディベート、CLIL（内容言語統合型学習）、TBLT（タスクベース型授業）、プレゼンテーション等を実施する。

(3) グローバルマインドの向上

海外の学校（永豊高級中学(台湾)、カワナナコア中学（アメリカ・ハワイ）、プナホウ高校（アメリカ・ハワイ）、チャペルヒル高校、イーストチャペルヒル高校（アメリカ・ノースカロライナ））との国際交流の促進を図るとともに、海外への留学や進学志向を高める。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業に対する指導助言	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
経理事務の管理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
事務職員の雇用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会						○						○
えひめスパートスクールプログラム											○	

(2) 実績の説明

ア 職員体制における支援

- (ア) 海外研修や海外との交流実績を有する教員の配置
- (イ) SGH担当教員のための教員の加配（非常勤講師1人）
- (ウ) SGH担当非常勤実習助手（1人）
SGH活動のための事務的作業（外部連絡、アンケート集計及び対外広報等）
- (エ) ALT（外国語指導助手専任）の配置（1人）

イ 取組内容に関する支援

- (ア) アデレード海外短期留学プログラムにおける引率教員経費負担（1人）
- (イ) ALTの資質向上支援（外国語指導助手招致事業費）
- (ウ) 高校生海外留学フェア（5年生2人）
- (エ) 生徒のディベート力の向上支援（英語ディベート・コンテスト開催事業費）
- (オ) 生徒の国際交流支援（高校生国際交流促進事業費）
- (カ) アデレード海外短期留学プログラム参加生徒15人への補助金交付（グローバル人材育成推進事業費）
- (キ) 研究にかかる費用を優先して令達

ウ 関係機関との連絡調整等

- (ア) 高大連携プログラム等を円滑に実施するため愛媛県（愛のくにえひめ営業本部、農政企画局ブランド戦略課）、研究機関（愛媛県農林水産研究所等）、大学及び企業等との連携支援
- (イ) 海外FW（フィールドワーク）における現地との交渉（株伊予銀行、裕毛屋及び日本台湾交流協会等）

エ 運営に関する支援

運営指導委員会の開催

年2回実施（9月16日、3月13日）、運営指導委員延べ7人、参加教職員延べ20人

オ 成果普及のための取組

えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 南予の開催（2月4日、発表と意見交換）発表校15校

SGH指定校（宇和島南）、SSH指定校（宇和島東）、SPH指定校（宇和島水産）、
高等学校地域協働推進事業（三崎）、地域の魅力発信高校生サイクリング推進事業（川之石、南宇和）、
地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業（大洲農業、八幡浜、三瓶、宇和、野村）、
高校生まちおこしプロジェクト（小田、大洲、吉田、北宇和）

参加生徒約1,000人

カ SGH対象生徒数

4年生151人、5年生154人、6年生152人

※ 所要経費外事業（SGアクションBasic、グローバル・スキルBasic等）の対象
1年生143人、2年生117人、3年生157人

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
SGアクション	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバル・スキル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海外とのテレビ会議交流 (スカイプ)		○										
海外とのビデオ交流 (グーグルGドライブ等)			○				○					
CLIL									○			○

(2) 実績の説明

ア 課題研究

学校設定科目SGアクションⅠ・Ⅱ・Ⅲを設定し、グローバル時代に対応する持続可能な地域社会を支える人材育成の研究に取り組んだ。

(ア) SGアクションⅠ（4年生）

① ローカルな課題及びグローバルな課題に関する研究Ⅰ【共通分野】の内容

4年生全員(151人)を対象に計4回の講演会を実施した。地元宇和島の現状を把握し、愛郷心の育成を図るとともに、課題研究への興味・関心の喚起及び地域の基幹産業等の知識を習得させた。

実施日	講演内容	講師	対象生徒
5/23(木)	宇和島の歴史と文化	宇和島市教育委員会学芸員 廣瀬 岳志	4年生
6/13(木)	愛媛みかんの現状とみかん 研究所の取組	愛媛県農林水産研究所果樹研究センター みかん研究所室長 藤原 文孝	4年生

6/20(木)	宇和島の水産業について	愛媛県農林水産研究所水産研究センター 研究企画室長 渡邊 昭生	3・4年生
9/19(木)	愛媛県産柑橘の海外での販路拡大について	愛媛県農林水産部農政企画局 ブランド戦略課技師 中村 優太	全校生徒

② ローカルな課題及びグローバルな課題に関する研究Ⅰ【コース別分野】の内容

生徒が4～5人の班（全32班）を作り、「水産業」「柑橘業」「まちづくり（防災）」「企業」「文化」の5コースの中から興味・関心の高いテーマを選択した。本校教諭が継続して指導するほか、適宜、大学及び研究機関の先生方から指導助言を受けながら課題研究の深化を図った。その研究成果については、ポスター作成及び研究発表を行い、普及に努めた。

課題研究コース	指導者	指導回数	対象生徒
水産業の現在	愛媛大学南予水産研究所研究センター：高木 基裕 教授 県農林水産研究所水産研究センター研究企画：渡邊 昭生 室長	11回	6班 28人
柑橘業の現在	愛媛県農林水産研究所果樹研究センターみかん研究所：藤原 文孝 室長 愛媛大学農学部：山田 寿 教授	8回	5班 25人
地域の力 （まちづくり・防災）	愛媛大学社会連携推進機構：坂本 世津夫 教授 愛媛大学法文学部：米田 誠司 准教授 愛媛大学防災情報研究センター：山本 浩司 教授	17回	11班 43人
地域の企業	松山大学経営学部：東淵 則之 教授	6回	5班 29人
アジアの文化	愛媛大学国際連携推進機構：村上 和弘 教授 愛媛大学法文学部：石坂 晋哉 准教授	14回	5班 28人

※ 課題研究指導延べ56回、上記の指導者10人の他、生徒現地調査・インタビュー等で指導助言を受けた外部機関延べ61か所

③ 海外FW（台湾、シンガポール）※5年生も含む。

海外の愛媛県関連企業等を訪問し、各企業が日本とは異なる文化や歴史、法律や習慣等の壁を乗り越えながら、どのように現地で経済活動を行っているのかを学んだ。また、台湾の高校生やシンガポールの大学生と交流することで、お互いの考え方や物事の捉え方の多様性を認識した。研究成果の発表や質疑応答を通して、プレゼンテーション力・語学力・コミュニケーション力の伸長を図った。

行き先	台湾	シンガポール
訪問時期	令和2年1月18日～22日	令和2年1月18日～22日
訪問人数	生徒10人、教員2人	生徒10人、教員2人
主な訪問先と内容	現地スーパー（裕毛屋） ・県産品の販売及び市場調査 日本台湾交流協会 ・日台関係の歴史や現状についての講義 姉妹校（永豊高級中学）訪問 ・研究発表及び交流等 台北市内アンケート調査 防災科学教育館 ・台湾の防災事情についての講義	現地スーパー（Habitat by Honestbee） ・最先端販売システムの視察 現地企業（㈱伊予銀行） ・東南アジアと愛媛の経済的つながりについての講義 グローバルリーダープログラム ・シンガポール大学生との英語での交流 ニューウォータービジターセンター ・水資源施設の視察と講義

※ 参加生徒は、志望理由書、小論文及び面接審査により選抜した。

④ 国内（県外）FW

訪問時期	訪問先	訪問施設等	訪問人数
7月12日～15日	島根県隠岐郡	「まちづくり甲子園」参加	3人
8月4日～6日	愛媛県八幡浜市 ・大分県別府市	道の駅みなとオアシス八幡浜みなと・ 黒い商店街・亀の井バス株式会社・別府 温泉宣伝協会等	10人

⑤ 国内（県内）FW

えひめ飲料株式会社、愛媛大学（愛媛大学附属高等学校課題研究代表者発表会）を訪問した。その他企業への訪問生徒数は延べ259人であった。

(イ) SGアクションⅡ（5年生）

SGアクションⅠで学んだ知識や技術を生かし、地域の活性化につながる新たな研究課題を見付け、解決のための実践的な研究を行った。

○ローカルな課題及びグローバルな課題に関する研究Ⅱの内容

【講義・講演】

実施日	講演内容	講師	参加生徒
2/13(木)	揺れるヨーロッパ-ブレグジットの背景にあるもの-	福岡女子大学教授 馬場 優	4年・5年SGⅡ型195人

【課題研究】

① SGⅡ型を対象としたSGアクションⅡ（週2時間）

対象の44人の生徒は、適宜、大学教員等の専門家の指導を受けながら、一人一人が設定した課題研究に取り組み、ポスターを作成するとともに、2月6日（木）には校内発表会を行った。指導する教員は、研究について計画段階から丁寧に指導し、見通しを立てさせながら、生徒の研究がより客観的・具体的にまとめられるよう努めた。

② SGⅠ型を対象としたSGアクションⅡ（週1時間）

生徒は、一班4～6人からなるチーム（全24班）を編成し、SGH推進本部、担任、副担任及び各教科の教員の指導助言のもと、課題研究に取り組み、ポスター作成を行った。担当となった教員は、協働して研究する上で必要なことを教えるとともに、できる限り市内の各事業所を訪問させることで、地域の現状を重視する指導を行った。次年度に全校生徒に向けての研究発表会を実施する。

(ウ) SGアクションⅢ（6年生）

5年次のSGアクションⅡにおける研究成果について、生徒同士でディスカッションを行いながら内容をまとめ、論文を作成した。

○ローカルな課題及びグローバルな課題に関する研究Ⅲの内容

① 全6年生（152人）を対象としたSGアクションⅢ（週1時間）では、校長をはじめとする全教員（36人）を指導者として割り当て、本年度は班活動としたため、教員一人当たり1～2班を受け持ち、論文作成に取り組んだ。

② 論文152編の中から優秀な作品を選び、生徒研究論文集を作成した。加えて、それ以外の生徒の論文はクラス研究論文集としてまとめ、生徒一人一人に配布した。

(エ) 校外活動

各種の地域イベントに参加し、地域に対する関心を高めたり愛郷心を高めたりするとともに、地域の課題を把握し、地域づくりのための理論や方法を実践を通して身に付けた。

行事の名称	主催	参加生徒
虹色さくらまつり	さくらまつり実行委員会	17人
うわじま子ども観光大使基礎講座	うわじま子ども観光大使	5人
宇和島インフォメーションボード	宇和島市	18人
英語による宇和島市観光動画	宇和島市	7人
「高校生まちづくり課」プロジェクト	宇和島市	7人
防祭～未来のウワジマ防衛タイ～	宇和島市	4人

(オ) S G H事業を推進するための教員研修

S G H事業の効果的な実施のために、本校教員をS W G全国高校生フォーラムに派遣した。帰校後、その研修内容を全教職員に伝達する報告会を行い、情報共有を図った。

(カ) 前期生（1～3年生）は本事業の対象ではないが、4年次からスムーズに活動できることでより事業の成果を高められるよう、S GアクションBasicを行った。

学年	名称	内容
1年	「宇和島学」	市内探訪（伊達博物館、宇和島城、市歴史資料館）
2年	「世界学」	アジア地域の文化、産業等についての学習
3年	「キャリア学」	地場産業と地域の企業についての学習

イ コミュニケーション力を育成するための取組

○グローバル・スキル（G S）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

学校設定教科・科目としてG SⅠ・Ⅱ・Ⅲを設定し、英語4技能の育成に努めた。

(ア) 実用的な英語能力の向上

G SⅠでは、スピーチ練習やエッセイライティング、G T E C対策、英検二次試験に向けた模擬練習を実施し、実践的な英語の習得に努めさせるとともに、検定で一定の成果を収め自信をつけさせるよう工夫した。G SⅡでは、スピーチ、日常会話演習、ディスカッション、エッセイライティングを実施し、「話す」「聞く」技能の強化に努めた。特に、「断る」ことや「苦情を述べる」ことなど、日本人が苦手とする状況においても、論理的に問題解決できる経験を積ませる授業を心掛けた。G SⅢでは、即興スピーチ、エッセイライティング、スカイプ交流及びビデオレター交流等を実施し、英語で即応できる能力の育成に努めた。4技能の中では特に、「書く」技能と「話す」技能を伸ばすことを目標とした。また、外部検定試験受験に向けた演習も実施した。

(イ) 留学生との交流

本年度、アジア高校生架け橋プロジェクトとして、インドネシアの留学生（女子）を1名受け入れた。5年生として2学期から3学期まで在籍し、該当クラスや学年のみならず、他学年でも自国の文化を紹介し合う活動を行い、活発な異文化交流ができるよう工夫した。

(ウ) 海外とのテレビ会議システム（スカイプ）交流

6年生のG SⅢにおいて、アメリカ合衆国ハワイ州のプナホウ高校とスカイプを使用して、双方向のコミュニケーションを行った。また同国ノースカロライナ州のチャペルヒル高校及びイーストチャペルヒル高校の生徒と動画を通し、お互いの文化を紹介し合う交流を行った。

(エ) 内容言語統合型学習（CLIL）の取組

4年生の「現代社会」(Contemporary Society)の授業として、インドネシアからの留学生が、東南アジアの歴史・文化についての講義を行った。5年生の「世界史A」において、「The World History: History of Southeast Asia」という内容で、留学生・ALT・本校の地歴公民科講師による授業を3月に実施予定であったが、新型コロナウイルス対策に伴う臨時休業のため実施できなかった。

(オ) タスク・ベース型授業（TBLT）の取組

5年生で「海外に地元宇和島の魅力を紹介する」というタスクを設定し、実際にハワイ大学からのインターン生にプレゼンテーションを行った。

ウ 海外語学研修及び国際交流等

(ア) 海外留学・研修

留学・研修先	名 称	期間	生徒数
ハワイ	修学旅行	5日間	12人
ハワイ	えひめ高校生ハワイ派遣事業	6日間	1人
アデレード	アデレード短期留学プログラム	17日間	16人
台湾	台湾永豊高級中学交換留学プロジェクト	4日間	1人
アメリカ	国際ロータリー2670 地区青少年交換学生派遣事業	22日間	1人
ニュージーランド	留学（4年生）	1年間	1人
ドイツ	短期留学（5年生）	2か月	1人

(イ) 外国人留学生等との交流

期 日	内 容	留学生数	生徒数
6月11日	ハワイ大学インターン生との交流	2人	44人
7月9日	アメリカ高校生との交流(2019 Short Term Youth Exchange to Japan by Rotary District 7475)	2人	154人
8月2日～3月19日	アジア高校生架け橋プロジェクト留学生（インドネシア）との交流	1人	722人
7月23日	イングランド高校生との交流	1人	43人

(ウ) 対外コンテスト

- SGH全国高校生フォーラムポスターセッション発表（文部科学省 筑波大学共催）
- SGH甲子園ポスター発表（文部科学省 関西学院大学共催）※新型コロナウイルス対策のため中止（以下、「中止」と記す。）

(3) 成果の普及のための取組

SGH指定後、次のア～キの取組を積み重ねたことで、外部からの本校への関心が増し、取組に関する問い合わせ、またホームページへのアクセスが増加し、まちづくりへの協力を依頼されるようになった。

ア 研究成果報告・発表会

研究成果については、ポスターの作成及びプレゼンテーション発表をすることで、語学力、コミュニケーション力及び思考力・判断力・表現力・分析力の養成を図った。

○校内（6回）

SGH校内ポスター発表会、SGHコース別発表会3回（3～5年生）、夏季FW報告会（3～6年生）、令和元年度SGH研究成果発表会（全校生徒、外部関係者等）※中止

○校外（7回）

SGH全国高校生フォーラム

えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 南予（愛媛県教育委員会主催）

宇和島水産高校SPH研究成果発表会

宇和島東高校SSH研究成果発表会 ※中止

地域へ向けた課題研究ポスター展覧会

SGH甲子園 ※中止

令和元年度SGH研究成果発表会の地元ケーブルテレビでの放送 ※中止

イ SGH活動報告の発行 年4回（5月、1月、2月、3月）

ウ 学校HPへの掲載回数 年79回（4月～2月）

エ 愛媛県教育委員会HP「県内高校・中等教育学校魅力化の取組」への掲載回数 年8回

オ 新聞社（愛媛新聞）への活動に関する記事掲載

カ テレビ局（NHK）ニュース番組内での活動紹介

キ 宇和島市「高校生まちづくり課」プロジェクト事業への参加 年5回

7 目標の進捗状況、成果及び評価

(1) 文部科学省による本校SGH中間評価への改善・対応状況

【指摘1】

宇和島の文化について知識理解を深める方策について一層の工夫が望まれる。

<改善・対応状況>

本年度は、宇和島市観光協会の依頼を受け、JR宇和島駅の観光案内所横に、海外からの旅行者を対象とした英語によるインフォメーションボードを制作し、約2週間ごとに宇和島の旬の情報を書き込んだ。生徒は、取り上げたい情報を、フィールドワークを行いながらまとめていく過程で、新たな視点で地元を見つめ直し、改めて地元への理解を深めることができた。また、昨年度から宇和島市によって取り組まれていた、明治150年を記念して宇和島の明治期の遺産を英語で紹介する事業で、本校SGH部員を中心とした宇和島の高校生の視点による紹介VTR作りも、地元宇和島についての研究成果を宇和島市に還元する活動として非常に有効であり、次年度以降も継続する予定である。

【指摘2】

海外校との交流事業は、フィールドワークの時期だけ行うのではなく、インターネット電話などの情報通信技術の利用も検討するなど、普段の授業の中にも取り入れる工夫が必要である。

<改善・対応状況>

昨年度に引き続き、ハワイの高校生と、スカイプによる交流を行った。お互いの地元を紹介し合う中で、それぞれの地域が抱えている問題点などをディスカッションし、課題解決的な話し合いを行うことができた。ノースカロライナ州のチャペルヒル高校、イーストチャペルヒル高校とは、グーグルGドライブを利用して、互いの映像をネット上にアップしておき、都合のよい時にその映像を見て返信するという方法での交流活動を行った。情報通信技術の利用法を

工夫することで、地方からでもグローバルな課題を解決する議論にアクセスできる環境を整えることができている。

(2) SGアクションの成果と評価

SGH事業の三期生である現6年生の3年間の成果及び評価について述べる。

ア ローカルに対する理解と愛情

【アンケート結果】 (6年)	4年7月		6年SG I型2月		6年SG II型2月		増減 (6年SG II型-4年)
	ある	ややある	ある	ややある	ある	ややある	
項目							
地元の水産業に関心がある (%)	9.2	24.1	6.7	39.0	4.7	46.5	+17.9 P
地元の柑橘業に関心がある (%)	5.7	25.5	9.5	42.9	18.6	46.5	+33.9 P
地元の企業に関心がある (%)	6.4	22.7	13.3	48.6	9.3	48.8	+29.0 P
宇和島の文化や歴史に関心がある (%)	9.9	19.9	10.5	36.2	9.3	46.5	+26.0 P

イ 異文化理解力・共感力

【アンケート結果】 (6年)	4年7月		6年SG I型2月		6年SG II型2月		増減 (6年SG II型-4年)
	ある	ややある	ある	ややある	ある	ややある	
項目							
東アジア・東南アジアに関心がある (%)	7.1	22.9	10.5	26.7	20.9	53.5	+44.4 P
外国の文化や歴史に関心がある (%)	19.3	41.4	13.3	38.1	20.9	48.8	+9.0 P
国際社会の諸問題に関心がある (%)	19.3	38.6	16.2	45.7	9.3	72.1	+23.5 P

ウ 企画立案力・交渉力

【アンケート結果】 (6年)	4年7月		6年SG I型2月		6年SG II型2月		増減 (6年SG II型-4年)
	ある	ややある	ある	ややある	ある	ややある	
項目							
企画する力がある (%)	7.1	25.7	10.5	40.0	27.9	48.8	+43.9 P
交渉する力がある (%)	15.7	23.6	15.2	40.0	25.6	37.2	+23.5 P

エ 論理的思考力・分析力

【アンケート結果】 (6年)	4年7月		6年SG I型2月		6年SG II型2月		増減 (6年SG II型-4年)
	ある	ややある	ある	ややある	ある	ややある	
項目							
論理的思考力がある (%)	4.3	26.4	8.6	43.8	11.6	30.2	+11.1 P
意見を論理的に主張する (%)	6.4	27.1	6.7	44.8	11.6	37.2	+15.3 P

3年間で、全ての項目においてポイントが増加した。これは例年同様であり、SGH事業に伴って開発してきたプログラムが順調に機能していることを示している。本年度、「企画する力」が高まったと答えた生徒のポイントが43.9%に達しているのは、昨年度の西日本災害を受け、地元のつながりに興味を持って研究に取り組んだ生徒が、地元再生のためによりよい提案を行おうとする中で、結果としてその力が付いたと感じたと考えられる。また、地元再生と絡めて、インバウンドとして宇和島市をよく訪れる東アジア・東南アジアの人々を念頭に置いたことで、「東アジア・東南アジアに関心がある」と答えた生徒も44.4%に達したと考えられる。

(3) グローバル・スキルの成果と評価

ア GTEC の結果

下表は、ここ4年間の4年生におけるトータルスコア比較である。本年度も、例年と同様の平均スコアを記録した。グローバル・スキルで行うスピーキングやライティングの断続的な経験や、異文化交流プログラムでの即興的なコミュニケーション活動によって、実践的英語運用能力が、生徒に着実に定着していることがわかる。

【成績】

	R 元年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度
GTEC 平均スコア	428.9	437.1	419.2	408.7

イ 実用英語技能検定の結果（2級以上の取得者）

SGH指定後、グローバル・スキルという科目を設定し、エッセイやディスカッションなど、実用的な英語運用能力を高めた結果、生徒の英語に対する意識が高くなり、受験者数が伸びたことはもちろん、実用英語技能検定2級以上の取得者が大幅に増加した。

学年	5年次	6年次	計	取得率（対比学年生徒数）
R元年度卒業（SGH三期生）	19人	18人	37人	24.3%
H30年度卒業（SGH二期生）	21人	11人	32人	20.5%
H29年度卒業（SGH一期生）	15人	10人	25人	15.9%
H28年度卒業	12人	9人	21人	13.7%

(4) 評価について

- ア 課題研究ルーブリック評価 イ 生徒アンケート（年2回） ウ 保護者アンケート
エ 教員アンケート オ 海外FWアンケート

8 5年間の研究開発を終えて

(1) 教育課程の研究開発の状況について

指定初年度より、学校設定教科・科目として「SGアクションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「グローバル・スキル（以下GS）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定した。SGアクションは、急激に過疎化の進む地域の現状の中から問題や課題を見付け、それらの解決に向け日本各地で行われている先進的な事例を学習するとともに、政治的・経済的にグローバル化する世界と共生できるよう、国際的な課題を解決する資質や能力を育成するための科目であり、4年次は2単位、5年次は類型によって1又は2単位、6年生は1単位でそれぞれ設定した。GSは、グローバルリーダーに欠かせない英語力を、「英語学習に対する積極性」「世界に通用する語学力・表現力」とともに身に付けさせることを目的とし、より実用的な英語によるコミュニケーションを図ることができる能力を育成する科目として、4、5年次は1単位、6年次は選択制で3単位を設定した。

H28年度は、5年次にSG類型1クラスを設けて研究を行っていたが、H29年度からは、後期課程の全クラスをSG類型とし、5年次にⅠ型かⅡ型のいずれかを選択し、6年次に引き継ぐという現在の形に変更した。このことにより、生徒全員が6年生まで中断することなく一貫して課題研究に取り組めることとなり、学校全体で事業に取り組む気運がより高まる中で、生徒たちの論文の質が高まったとともに、グローバルな視点から地域を見つめ直すことの重要性への認識が深まった。

【4年生】

SGアクションⅠ（2単位）における主な活動

1学期	夏季休業	2学期	冬季休業	3学期
・地域を知る講演会 ・課題を見付ける	・市内FW	・課題研究開始 ・教授による指導	・県内FW	・海外FW ・研究のまとめ ・ポスター発表会 ・研究成果発表会

GSⅠ（1単位）における主な活動

ミニスピーチ、ミニディベート、エッセイライティング（身近な話題）
海外高校生とのスカイプ交流等

【5年生】

SGアクションⅡ（Ⅰ型1単位・Ⅱ型2単位）における主な活動

	1学期	夏季休業	2学期	冬季休業	3学期
Ⅰ型（1単位）	[班活動] 課題研究開始	・市内FW	・課題研究 ・教員による指導	・県内FW	・海外FW ・研究のまとめ (発表会は次年度当初)
Ⅱ型（2単位）	[個人活動] 課題研究開始		・課題研究 ・教授による指導		・海外FW ・研究のまとめ ・ポスター発表会 ・研究成果発表会

GSⅡ（1単位）における主な活動

スピーチ、ディベート、プレゼンテーション、エッセイライティング（世界的な課題）
海外高校生とのスカイプ交流等

【6年生】

SGアクションⅢ（1単位）における主な活動

Ⅰ型の生徒は、4月にポスター発表会を行う。その後、Ⅰ型には一班ごとに、Ⅱ型には一人ずつに教員を割り当て、研究をまとめる小論文の指導に当たる。

GSⅢ（選択制3単位）における主な活動

GSⅠ・Ⅱに対して、即興的な要素が加わったスピーチ、ディベートとなる。

GSⅠ・Ⅱに対して、エッセイライティングのテーマが深化し、分量が増える。

海外高校生とのビデオレター交流等

(2) 高大接続の状況について

○大学の研究者による講座の聴講

指定年度より、例年大学教授を招聘し、4年生または5年生に対する講義を企画してきた。

年度	所属大学・氏名	テーマ
R元年度	福岡女子大学 馬場 優 教授	「揺れるヨーロッパ・ブレグジットの背景にあるもの」
H30年度	福岡女子大学 馬場 優 准教授	「国際社会情勢を知ろう」
H29年度	愛媛大学病院 高橋 敏明 副センター長	「南予を知って元気にする」
	熊本大学医学部附属病院 川上 史 教授	「自らの夢を実現するために」
H28年度	東北大学大学院工学研究 三木 貴博 准教授	「製鉄スラグからのリンの分離と回収」
H27年度	愛媛大学国際連携推進機構 伊月 知子 准教授	「教科書の中の日本・日本人～中国の日本語教科書をのぞいてみると～」

各大学で、最先端の研究に従事している研究者からの講義は、生徒に一味違った刺激を与えることとなった。自らの視野を広げ、物のとらえ方に変化が現れた生徒が多数存在した。

(講演後の生徒の感想)

- ・今まで私は、勝手に中国をイメージして中国はこんな国であると決めつけてしまっていたと感じた。中国人からの日本人のイメージは、意外とよかったのが驚いた。しかし、日本人に対してよいイメージを持っている外国人にも、日本人のだめな行動や悪いところもしっかり教えていると聞いて、それは大切なことだと感じた。これからは、自分の勝手なイメージで決めつけることなく、まず相手や相手の国について知ることから始めたい。
- ・将来の夢が医療にかかわることなので、今回の公演はとても興味深いものでした。県外へ行く医師の数が多いいけれども、地域にいる高齢者のためにも、県内にとどまる医師になりたいと思いました。
- ・前十字靭帯手術において、関節の間に手術の部品を組み立てることで削る骨を少なくするという発想に驚きました。最新の研究は、地方でもできるのだとわかりました。
- ・歴史の勉強をするときは、語句だけでなく、その出来事の詳しい内容や他の出来事との関係性を考えることが必要だとわかりました。過去のことを学び、未来につなげるということ大切にしたいと思いました。

○課題研究評価ワーキンググループ

愛媛大学は愛媛大学附属高校とともにルーブリック評価による課題研究の高度化を進めてきた。本校も、大学教育再生加速プログラム高大接続推進委員会「課題研究」評価ワーキンググループに参加し、共同してルーブリック評価の改善に取り組んだ。課題研究には、ワーキンググループが作成したルーブリック評価を、本校の現状に合わせて生徒がより使いやすいものにした宇和島南版簡易ルーブリックを使用し、生徒同士及び生徒本人、教員が評価を行ってきた。ルーブリック評価を導入することで、研究・発表の課題が、客観的に浮き彫りになるため、自分の研究に役立ったと8割の生徒から肯定的な評価を得た。

○関西学院大学SGH推薦入試を利用し、5年間で、3名の生徒が、その研究が認められ、同大学に入学した。

○大学の単位履修制度については、本校では設定していない。

(3) 生徒の変容について

生徒について、H27年度に4年次（高校1年相当）であった生徒の3年後の変容を示すアンケート結果（以下「H29年度」と記す）、同様にH28年度、H29年度4年次であった生徒のアンケート結果（以下「H30年度」「R元年度」と記す）を、それぞれ比較して分析し、生徒の変容を5項目に分けてまとめる。

ア コミュニケーション力・交渉力の向上

【生徒へのアンケートで、「向上した」・「やや向上した」と答えた割合】

	R元年度	H30年度	H29年度
コミュニケーション力が向上しましたか。	66.2%	68.4%	58.7%
人と交渉する力が向上しましたか。	57.5%	66.2%	49.6%

【教員へのアンケートで、生徒に「あった」・「ややあった」と答えた割合】

	R 元年度	H30 年度	H29 年度
生徒の交渉力の育成に効果がありましたか。	93.8%	92.3%	88.5%

5年間のSGH事業の取組を通して、コミュニケーション力や交渉力が向上したという実感を持つ生徒が、H29年度に比べH30年度には9.7ポイント、R元年度には7.5ポイント増加した。「生徒に交渉力が身に付いた」と感じる教員も5.3ポイント増加しており、SGH事業の中で、大学教授から指導を受けたり、自分たちでフィールドワークを行ったり、仲間と研究について協働したりする経験の積み重ねが、生徒のコミュニケーション力や交渉力を向上させていることがわかる。

イ 世界を身近に感じられるようになった生徒の増加

【生徒へのアンケートで、「高まった」・「やや高まった」と答えた生徒の割合】

	R 元年度	H30 年度	H29 年度
外国の文化や歴史に関心が高まりましたか。	53.4%	64.6%	49.7%
異文化理解力が高まりましたか。	60.1%	69.9%	57.3%
国際社会で起こっている諸問題への関心が高まりましたか。	66.9%	65.4%	52.4%

【自主的に留学または海外研修に行った生徒数（全体）】

R 元年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度	H27 年度
53 人	40 人	48 人	47 人	24 人

【保護者・生徒へのアンケートで、「思う」・「やや思う」と答えた割合】

	R 元年度	H30 年度	H29 年度
将来留学をしたいと思いますか。（生徒回答）	49.4%	57.1%	43.5%
将来子どもを留学させたいと思いますか。（保護者回答）	50.0%	69.5%	57.9%

SGH事業の取組として、海外フィールドワークや台湾姉妹校へのホームステイ、オーストラリアへの短期語学留学などを企画し、毎年多くの生徒が海外を訪れ、視野を広げさせることができた。それら以外にも、国事業である「トビタテ！留学Japan」や県主催の「愛媛県高校生ハワイ派遣事業」などに応募し、選抜される生徒も増えてきた。特に、本年度は「アジア高校生架け橋プロジェクト」でインドネシア人留学生1名を受け入れ、半年間日常的に交流を続ける中で、生徒たちは、海外への関心をますます高めた。

ウ 地域活性化に関心を寄せる生徒の増加

【生徒へのアンケートで、「高まった」・「やや高まった」と答えた割合】

	R 元年度	H30 年度	H29 年度
地域おこしや町おこしについて関心が高まりましたか。	67.6%	70.8%	61.4%

「宇和島のうみ・やまから世界を考える」というテーマを掲げ、5年間取り組んできた本校であるが、「地域おこしや町おこしについて関心が高まりましたか」という質問に対しては、H30年度では9.4ポイント、R元年度では6.2ポイントと、いずれもH29年度に比べ、「ある・ややある」と答えた生徒が増加した。SGH事業を通し、過疎化する地域の課題に目を向け、地域活性化のために活動する意識が、確実に生徒に根付いてきている。

エ 英語の運用能力の向上

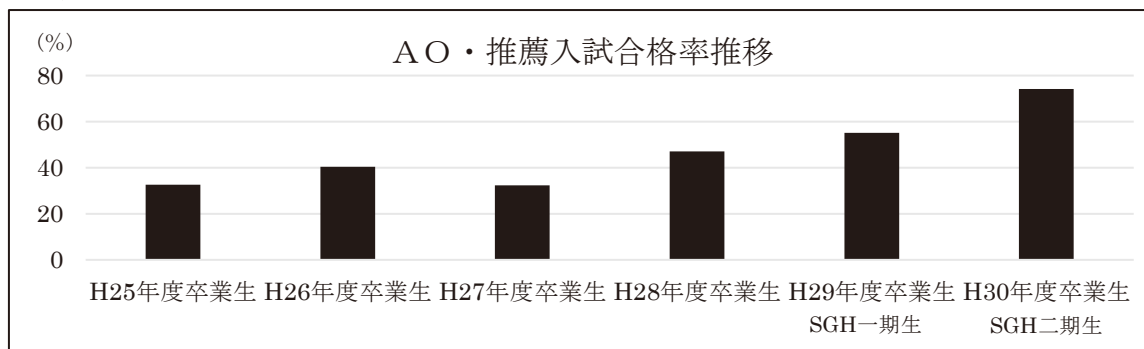
【GTEC 各年度における4年生の結果】				
	R元年度	H30年度	H29年度	H28年度
GTEC 平均スコア	428.9	437.1	419.2	408.7

【実用英語技能検定の結果（2級以上の取得者）】				
学年	5年次	6年次	計	取得率（対比学年生徒数）
R元年度卒業（SGH三期生）	19人	18人	37人	24.3%
H30年度卒業（SGH二期生）	21人	11人	32人	20.5%
H29年度卒業（SGH一期生）	15人	10人	25人	15.9%
H28年度卒業	12人	9人	21人	13.7%

GTECスコアや実用英語検定合格者数の変化からは、SGH指定後の本校設定科目であるグローバル・スキルⅠ・Ⅱ・Ⅲで行うスピーキング活動やライティング活動、異文化交流プログラムでの即興的なコミュニケーション活動の経験が、生徒の実践的英語運用能力を確実に高めていることが推測できる。また、検定試験や異文化交流プログラムに申し込む生徒数も大幅に増加していることから、身に付けた英語力を試したいという意識の高まりを読み取れ、SGH事業によって、コミュニケーションにおける英語力の重要性への意識が生徒に身に付いてきたと思われる。

オ 課題研究に関連した学部学科へ進学する生徒の増加

SGH事業の活動も年度を追うにつれ、自らが研究した課題を、大学でも続けて研究し、解決したいと考える生徒が増え、自分の行った研究を用いて、AO入試や推薦入試を積極的に受験するようになった。H29年度、H30年度は、SGHとなつての一期生、二期生がそれぞれ大学等に進学する年であったが、次のグラフに示すように、AO・推薦入試合格率が急激に伸びている。グローバルな視点から地元を見つめ、真剣に取り組んだ研究と、その過程で生徒が身に付けたコミュニケーション力や交渉力、表現力や確かな英語力が、大学においても効果的であったと言える。



【主な進学先】

H29 年度 卒業生	愛媛大学社会共創学部産業イノベーション学科（AO入試） 愛媛大学医学部看護学科（一般公募推薦） 高知大学医学部看護学科（一般公募推薦） 広島大学情報科学部情報科学科（AO入試） 関西学院大学法学部政治学科（SGH推薦）
H30 年度 卒業生	愛媛大学社会共創学部産業イノベーション学科（AO入試） 愛媛大学社会共創学部産業マネジメント学科（AO入試） 愛媛大学教育学部学校教育教員養成課程初等教育コース（一般公募推薦） 広島大学教育学部第五類心理学系コース（AO入試） 愛媛県立医療技術大学保健科学部（一般公募推薦） 京都大学総合人間学部（特色入試）※過年度 長崎大学教育学部学校教育教員養成課程小学校教育コース（一般公募推薦） 宇都宮大学国際学部国際学科（一般公募推薦） 高知大学教育学部学校教育教員養成課程（一般公募推薦） 関西学院大学教育学部初等教育コース（SGH推薦）

(4) 教師の変容について

【教員アンケートより、とても思う・思うと答えた割合】				
	R 元年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度
生徒のグローバル化への対応が必要だと思ふようになりましたか。	77.1%	74.3%	73.7%	70.8%
グローバルに対するあなたの意識が変わったと思ふますか。	70.9%	71.8%	63.9%	58.1%

H28 年度と比べ、R 元年度ではグローバル化への対応の必要性を感じるようになった教員の割合が 7.1 ポイント増え、自らの意識が変化したと答えた割合も 12.9 ポイント増加した。生徒と教職員が一体となってSGH事業を推進する中で、生徒の目覚ましい変化を目の当たりにした多くの教員が、事業開始当初に感じていた事業効果への懐疑心や、取組への困難さを、やりがいへと変化させていったことの証拠であろう。教員もまた過疎化する地域住民の一人であり、生徒とともに学び、協働し、グローバルな視点を身に付ける中で、地域の今を担うリーダーであるという意識が一層高まったと感じている。

(5) 学校における様々な変化について

ア 授業に関する変化

(ア) コミュニケーションを重視した授業の増加

SGH事業を推進することによって、授業にも変化が見られた。講義形式から、よりコミュニケーションを重視した形式に変化したのである。国語や英語などの従来からコミュニケーションを必要とする教科だけでなく、理科や社会といった教科においても、ペアやグループで、課題に対し、他の生徒と意見を交換したり、協働したりしてアプローチするという方法が、授業の相互参観期間や、研究授業等でよく見られるようになった。これは、年に数回行っていたCLILでのALTとのチームティーチングの経験をきっか

けに、教員自身がコミュニケーション型の授業の必要性を感じたことも、一つの要因であろう。そして何より、生徒たちが、このSGH事業での取組を通じて、予想を上回るコミュニケーション力を付けてきたことにより、教員がそれに対応した結果であるとも言えよう。

(イ) ICT機器を活用した授業の増加

SGH事業での取組を通して、ICT機器を活用した授業が増加した。例えば、学校設定科目「グローバル・スキル」での、海外の高校生とのスカイプ交流や、動画メールのやり取りでは、タブレットを駆使しての授業となった。また、課題研究では、生徒はパワーポイントを用いて、パソコンで自分たちの発表を行うことができるようになった。ICT機器に関しては、H26年度までは、生徒は情報の時間に基礎的なパソコンの使い方を習得する程度であったが、H27年度以降は、3年間を通して活動に使用することができるようになった。

イ 保護者について

指定年度当初より、SGH事業を推進することに関しては、おおむね肯定的な反応をいただいていた。この事業に対する期待は大きなものであったことがわかる。一方で、生徒への負担が増えることへの懸念がアンケート結果に見られたため、「SGHだより」の配布や、「課題研究成果発表会」への参観の呼びかけなど、生徒の活動内容を徹底して広報し、生徒の成長を感じることができる機会を多く設けることで、年度を重ねるごとに、SGH事業が生徒に与える学びの大きさを認識する保護者が多くなった。それだけではなく、留学生のホストファミリー希望者説明会に多くの家庭が参加するなど、SGH事業は、生徒だけにとどまらず、保護者の意識にも確実に変化を与えている。

(6) 課題や問題点について

SGH事業を終えるに当たり、今後の課題を五つ挙げる。

ア 課題研究成果を地域振興に生かすためのコンソーシアムづくり

この5年間を通し、生徒たちの課題研究は質の高いものとなり、研究成果を発表する機会を30回以上持つことができた。また、宇和島市や地元企業、県内の大学や近隣の高校とも、個々につながりを築く機会も多くあった。今後は、これらの個別のつながりを環状につなぎ、商工会議所や地元NPO団体との協働も加えて、生徒の斬新なアイデアを地元還元するためのコンソーシアム化を積極的に図っていく必要がある。

イ 教養を高めるカリキュラム作り

課題研究の過程では大学の教授が研究分野ごとに、また最終的に研究を論文にまとめる際には本校教員が生徒一人一人を指導するなど、生徒の課題研究指導に関する工夫を行ったが、個々の生徒によって、研究のスタートラインにばらつきがあり、それがそのまま研究の深まりに反映されてしまうことがわかった。このことから、課題の本質を見極め、研究を発展させるための思考力や、自分の考えを効果的に伝える表現力を身に付けさせるためにも、その素地となる教養の部分を全体として底上げしていくカリキュラムの開発が必要であると考える。

ウ 異文化理解を促すツールとしての英語習得を目指す継続したアウトプット活動づくり

SGH事業の取組の一つとして本校で設定した科目である「グローバル・スキル」内での活動や海外フィールドワークなどで、生徒に、実用的な英語の必要性を認識させることができたのは一定の成果ではあるが、都市部と比べ、英語によるアウトプット体験の数はまだまだ

だ不足していると感じている。本年度より、海外からの留学生を受け入れ、多くの生徒が異文化に触れることで、海外の人々と交流したいという機運が高まる中、留学生の母校とのスカイプ交流など、新たに持続可能なアウトプット活動を展開することで、生徒の中に芽生えた英語習得への熱を消さぬよう工夫していかなければならないと考える。

エ 組織内のより適切なシステムづくり

本校は、全校体制でSGH事業に取り組んできた。しかしながら、生徒の活動が軌道に乗るにつれ、その評判を聞きつけて、「協力してほしい」という外部からの要請が増加したことにより、一部の教員に負担を強いてしまったことは否めない。そこで、今後は、組織の見直しを図り、担当者の役割をもう一度検討し直すことで、教員と生徒の双方がより効果的に活動できる環境を再構築する必要がある。外部機関とのコンソーシアム化を図る上でも、大変重要になってくる部分であるため、慎重に検討していきたい。

オ 研究成果の効率的なアーカイブ化

5年間の生徒の研究を、次年度の生徒へよりよく還元するために、研究テーマごとに、詳細なタグ付けを行い、検索方法を工夫してファイル化したアーカイブを整備する必要がある。過年度生の研究を引き継いだり、参照したりして、生徒が効率よく研究を進められる研究環境の整備を行いたい。

(7) 今後の持続可能性について

SGH事業が終了する次年度からも、学校評議員・学校関係者評価委員、同窓会役員及びPTA役員によって組織される運営指導委員会を設置し、本校SGH事業の要となっていた、「グローバルな視点を持って、地域の人々と連携協働しながら地域課題の解決を目指す」というコンセプトをさらに推進するため、宇和島市や宇和島市商工会及び高等教育機関などと強固に連携し、SGH事業5年間を通して開発してきたカリキュラム等に改善を加えながら、以下のア～ウの活動を中心に、取組を継続開発していくことができる。

ア 「宇南グローバル・アクティビティ (GA)」

グローバルな視点による地域課題の研究と課題解決のための活動を行う。

(主な活動)

- 地域課題（産業・まちおこし・防災等）研究（「総合的な探求の時間」等で実施）
- 国内・海外フィールドワーク（休業日及び夏季休暇等において実施）
- 研究成果発表会開催（市施設及び校内で実施）
- 研究成果論文集作成

イ 「宇南グローバルスキル (GS)」

異文化理解と世界に通用する語学力・表現力・コミュニケーション能力、そして教養を育成する。

(主な活動)

- 学校設定教科・科目「グローバル・スキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ」
- テレビ会議システム（スカイプ）活用授業による海外高校生とのディスカッションの実施
- 内容言語統合型授業（CLIL）
- 校外スピーチコンテストへの参加

ウ 「宇南グローバルチャレンジ (GC)」

グローバル対応力を伸長させる。（異文化体験・学習及び外国語研修）

（主な活動）

○海外短期語学研修プログラムの実施

○文部科学省「アジア高校生架け橋プロジェクト」への参加（海外留学生の受け入れ）

○愛媛県「えひめ高校生ハワイ派遣事業」「えひめ高校生次世代人材育成事業」への参加

○校外の海外留学生等との交流会の実施

なお、活動の経費については、PTAからの支援による「宇和島南グローバル基金（仮称）」を充てることを予定している。

【担当者】

担当課	高校教育課	T E L	089-912-2954
氏 名	矢野 重禎	F A X	089-912-2949
職 名	指導主事主幹	e-mail	yano-shigeyoshi@pref.ehime.lg.jp

II 令和元年度SGH研究開発の成果と課題

1 教育課程の編成

グローバル人材を育成するための課題研究プログラム（SGアクション）の実施とコミュニケーション能力を高めるための教育課程（グローバル・スキル）の開発を実施する。

(1) SGアクション

ア 教育課程の特例措置（学校設定教科・科目）

- (ア) 4年次は、「社会と情報」（1単位）と「総合的な学習の時間」（1単位）を減じ、SGアクション（SGA）Ⅰ（2単位）に代替

「情報」の代替措置として、研究成果のプレゼンテーション実施を通して、情報の収集やプレゼンテーションソフトの活用、データ処理などのICT技術に関する学習をさせたことに加え、情報の教員が、記憶媒体の管理、著作権、個人情報管理及び情報モラル等について適宜指導した。

「総合的な学習の時間」の代替措置として、課題研究を通して、自ら課題を見付け、よりよく問題を解決する資質や能力の育成に努めた。

- (イ) 5年次スーパーグローバルⅠ型（SGⅠ型）は、「総合的な学習の時間」（1単位）を減じ、SGAⅡ（1単位）に代替

「総合的な学習の時間」の代替措置として、課題研究のポスター作成や課題研究への取組を通して、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てた。

- (ウ) 5年次スーパーグローバルⅡ型（SGⅡ型）は、「保健」（1単位）と「総合的な学習の時間」（1単位）を減じ、SGAⅡ（2単位）に代替

「保健」の代替措置として、食と健康の保持増進や食事と栄養、地域医療等について、本校の栄養教諭による授業を行い学習した。また、医療・健康等の課題研究を行った生徒のポスター発表を視聴させ、知識を深めさせた。

「総合的な学習の時間」の代替措置として、課題研究のポスター作成や課題研究への取組を通して、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てた。

- (エ) 6年次は、「総合的な学習の時間」（1単位）を減じ、SGAⅢ（1単位）に代替

「総合的な学習の時間」の代替措置としてSGAⅢを実施し、課題研究の論文作成を通し、問題の解決や探究活動に主体的に取り組みせ、自己の在り方や生き方を考えさせた。

イ 対象人数

- (ア) SGAⅠは、4年生全員151人を対象に行った。1クラスを8班（1班4～5人）に分け、五つのコース（水産・柑橘・まちづくり・企業・文化）から課題を選択させ、グループによる課題研究に協働して取り組ませた。全32班による多様な課題研究を行わせ、研究成果ポスターを作成させた。

- (イ) SGAⅡは、5年生SGⅠ型110人が週1時間、SGⅡ型44人が週2時間実施した。SGⅠ型は、5～6人を一班（全22班）として、グループによる課題研究に協同して取り組ませた。SGⅡ型は、個人による研究として取り組ませた。

- (ウ) SGAⅢは、6年生全員を対象に5年次に実施した課題研究をもとに、152人がそれぞれ課題研究論文を作成した。作成に当たっては、全教員（36人）を指導者として割り当て、全校体制で論文作成に取り組んだ。完成した多様な論文の中から、優秀な作品を「生徒研究論文集」としてまとめるとともに、クラス論文集も作成・配布し、成果の普及に努めた。

- (エ) I～Ⅲから構成されるSGアクションは、本校の規模及び施設・設備面の現状を勘案しながら、各学年ともに最大限の取組を行ない、成果を上げることができた。

なお、内容の詳細は、「4 国内外の大学や企業・国際機関等との連携」を参照

(2) グローバル・スキル（学校設定教科・科目）

ア 教育課程の特例措置（学校設定教科・科目）

- (7) 4年次は、「コミュニケーション英語Ⅰ」を1単位減じ、「グローバル・スキルⅠ(G SⅠ)」を履修

スピーチ及びミニディベート等の活動を実施し、「話す」「聞く」「読む」の3技能の育成に重点を置いた。

- (イ) 5年次は、「コミュニケーション英語Ⅱ」を1単位減じ、「グローバル・スキルⅡ(G SⅡ)」を履修

即興スピーチ、インタビュー、ディベート及びエッセイライティング等を実施するとともに、「話す」「聞く」「書く」の3技能を育成するために、アクティブ・ラーニングを積極的に導入し、授業改善に努めた。

- (ウ) 6年次は、選択科目として「グローバル・スキルⅢ(G SⅢ)」を設定した。SG文科系及び人文総合類型は、「G SⅢ」(3単位)を「数学研究Ⅱ」(3単位)と、SG理科系は、「G SⅢ」(2単位)を「地理B」(2単位)との選択で履修

エッセイライティング、即興プレゼンテーション、海外とのテレビ会議交流及び海外とのビデオ交流等をアクティブ・ラーニング的手法で実施し、覚える英語から考えて話す実践的な英語力の育成に努めた。

イ 対象人数

- (7) G SⅠは、4年生全員151人を対象に行った。

- (イ) G SⅡは、5年生全員154人を対象に行った。

- (ウ) G SⅢは、6年生の選択科目として実施し、27人を対象に行った。

- (エ) グローバル・スキルは、アクティブ・ラーニング的手法を積極的に取り入れ、各学年とも効果的な内容となっている。

なお、内容の詳細は、「2 外国語教育」を参照

2 外国語教育

外国語教育においては、「世界に通用する語学力・表現力の育成」と「異文化理解・共感力の育成」を目指す言語活動を行う。

(1) 世界に通用する語学力・表現力の育成

ア グローバル・スキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ

【仮説】

- ・ スピーチ、プレゼンテーション、ディベート等の方法について体験的に学ぶとともに、4年次にGTEC(Basic)、5年次にGTEC(Advanced)を受検することで、英語学習へのモチベーションを高め、国際人として活躍できる英語力を身に付けることができる。
- ・ 学習者に達成させるべき課題(タスク)を与え、その達成のためのツールとして英語を使い、実践的運用力を育成しようとするアプローチであるタスク・ベース型授業 TBLT (Task-based Language Teaching)、英語を他教科の学習手段として使うことで実践力を伸ばし、学習スキルの向上が意図される内容言語統合型学習 CLIL (Content and Language Integrated Learning) 等の授業を通じてコミュニケーション力を高め、自分の考えたことを発信する語学力・表現力を身に付けることができる。

【実践】

(ア) グローバル・スキルⅠ (4年次)

4年次では、スピーチ練習、エッセイライティング、GTEC対策、英検二次試験に向けた模擬練習及びCLILを実施した。CLILでは、4年生の「現代社会」(Contemporary Society)の授業として、インドネシアからの留学生による東南アジアの歴史・文化についての講義を実施した。

(イ) グローバル・スキルⅡ (5年次)

5年次では、スピーチ、日常会話演習、ディスカッション、エッセイライティングを実施し、「話す」「聴く」技能の強化に努めた。CLILでは、世界史Aにおいて、「The World History: History of Southeast Asia」という内容で、留学生・ALT・本校の地歴公民科講師による授業を3月に実施予定であったが、臨時休業のため実施できなかった。

また、「地元を紹介し合う」というタスクを設定し、ハワイ大学からのインターン生とお互いの地域について英語で学び合うアクティブ・ラーニング形式によるコミュニケーション活動を行った。

- 1学期 「印象的なエピソード」をテーマにしたスピーチ作成と発表活動、会話表現を用いたスキット作成及び発表活動、エッセイライティング練習及び定期考査におけるライティング評価
- 2学期 新聞記事とSDGsを関連させたディスカッション活動及び定期考査におけるライティング評価
- 3学期 「断る」「苦情を言う」「苦情に対応する」といったシチュエーション別会話演習及び定期考査におけるライティング評価

(ウ) グローバル・スキルⅢ (6年次)

6年次では、即興スピーチ、エッセイライティング、スカイプ交流及びビデオレター交流等を実施した。4技能の中では、特に「書く」と「話す」技能を伸ばすことを目標とした。また、外部検定試験受験に向けた演習も実施した。

- 1学期 プナホウ高校(ハワイ)とのスカイプ交流、GTECとTOEICに向けた問題演習、エッセイライティング講座及び定期考査におけるライティング評価
- 2学期 エッセイライティング講座、定期考査におけるライティング評価、即興スピーチ練習、ビデオレター作成と交流活動

【評価】

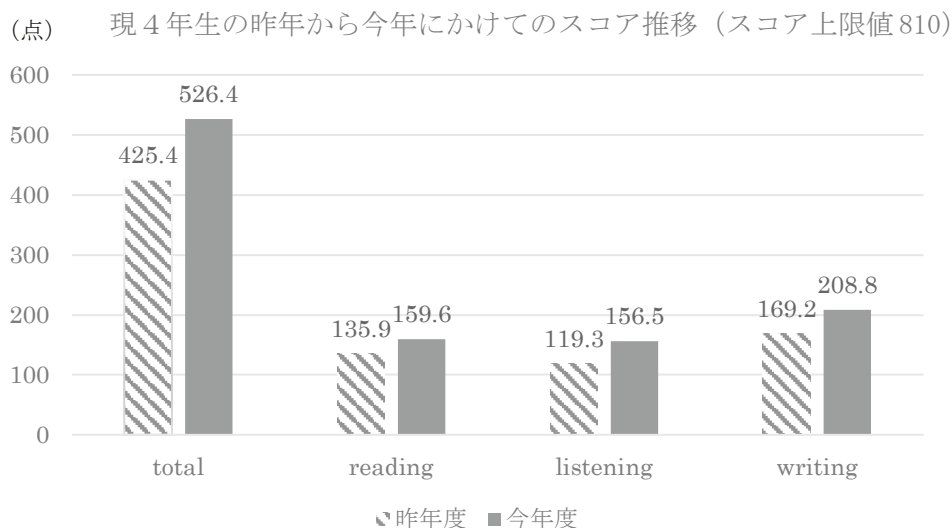
(ア) GTEC の結果

GTEC の結果を用い、以下の三つの観点から、グローバル・スキルの効果を検証する。

- ・ GTEC 希望受験者数の推移
- ・ 現 4 年生の昨年から今年にかけてのスコア推移
- ・ 現 4 年生と現 5 年生の 4 年次平均スコア（全体）との比較

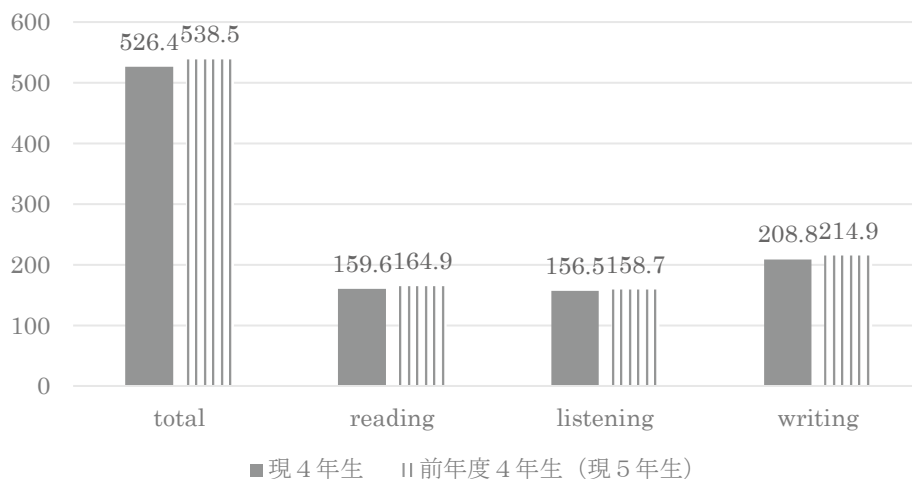


GTEC のオフィシャルスコアを取得できる検定試験を、2017 年から、希望者を対象として本校で実施している。グローバル・スキルの授業の中で、英語をアウトプットすることの大切さを繰り返し伝えてきた所であるが、徐々に生徒の中にもそのような意識が浸透してきたと感じる。GTEC には、ライティング・スピーキングに関する問題が含まれており、希望受験者数の増加から、それらを自分たちの学びの成果を試すチャンスと見る生徒が増えていることが分かる。2017 年と比べ、4 倍以上の受験希望者の増加は一つの成果と言えるだろう。こうした英語検定試験に向けた意識の高まりが、生徒個人の進路実現に繋がっていくことを期待したい。



現4年生は、昨年度に受験したGTECスコアを100点以上上回る結果を残した。これは、SGH事業において導入されたグローバル・スキルの実施内容が精選され、例年同様、本年度も良好な成果を挙げていることを示している。特に、ライティングセクションでの点数の向上が顕著であり、40点近くの向上が見られる。グローバル・スキルで特に重点的に行われるアウトプット活動の成果によるものと考えられる。

(点) 現4年生と現5年生の4年次平均スコア(全体)との比較(スコア上限値810)



現4年生と現5年生の平均スコアは、やや5年生のスコアが高いものの、ほぼ同様の結果であった。グローバル・スキル導入から、継続的に効果的な指導法についての研究を行ってきた中で、その方法や知見を教員間で共有することができていることを示していると考えられる。一方で、今後、より教育効果の高い授業の在り方を研究していくことが求められているとも言える。大学入試共通テストにおける4技能民間試験の導入は見送られたものの、今後も4技能検定の存在感が大学入試において増していくことは疑う余地がない。また、昨今の国内外の情勢を考慮すると、英語を用いた海外とのコミュニケーションに対する需要は一層高まることが予想される。生徒の進路実現を図りつつ、社会のニーズを満たしていけるような活動・実践・研究が求められている。

(イ) 生徒の変容及び教員の指導法の改善

グローバル・スキルⅠ・Ⅱ・Ⅲを通した生徒の変容と教員の指導法の改善については、それぞれ次のとおりである。

a グローバル・スキルⅠ(4年次)

(a) 開始時における生徒の様子

- ・ 前期課程でグローバルスキル・ベーシックを履修していたこともあり、英語を使うことへの抵抗は少ない様子であった。
- ・ 取り組む姿勢は前向きである生徒が多いように感じた。
- ・ 自分たちの力だけで英文を作る作業は、時間がかかり難しい様子であった。

(b) 実施中・実施後における生徒の変容

- ・ 当初は自分たちの考えを伝えられるエッセイを書くことに難しさを感じていた生徒達も、簡単な表現であれば徐々に適切に書けるようになった。
- ・ ライティングやスピーキングに前向きに取り組もうとする生徒が増えたと感じる。

- (c) 教員の指導法の改善
 - ・ 話すことを重視した指導をすると、一つ一つの英文の精度が落ちてしまう。その場で言い間違いを正したり、使用が予想される表現を予め板書したりするなど、具体的な方法を実践できるようになった。今後さらに研究したい。
 - ・ 英検を受験する生徒も増えているが、合格者がなかなか増えない。一次不合格となる生徒も多く、全体的に基礎力を向上させる必要があるが、同時にエッセイライティングの指導を充実させたい。
 - ・ ALTとの連携について、事前の打ち合わせを充実させるなど更に工夫を加えたい。
- b グローバル・スキルⅡ（5年次）
 - (a) 開始時における生徒の様子
 - ・ 4年次からの指導の成果として、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った生徒が多い。
 - ・ 即興での英語による対応は、経験不足のために困ってしまう生徒が多い。
 - (b) 実施中・実施後における生徒の変容
 - ・ 英語を用いて人前で話すことに対する抵抗感が薄れていった。
 - ・ 自分の意見を形式にのっとり、話したり書いたりすることに慣れてきた。
 - ・ グループで協力させることで、即興での英語によるスピーキングに対する抵抗感が薄れ、対応力が向上した。また、一人一人がより実用的な英語の運用を体験することで、フィードバックの際に知識が定着しやすくなった。
 - (c) 教員の指導法の改善
 - ・ 英語で情報や考えを伝える機会を増やし、英語での発信に慣れさせていくことを心掛けた。
 - ・ グループ内やテスト全体での発表機会を設けたり、即興での英語によるスピーキング活動を全員に実施するための方法を工夫したりすることで、英語でコミュニケーションを図ろうとする態度が育成され、一層努めるようになった。
 - ・ 授業中の活動を適正に評価するため、定期考査問題及び評価方法を工夫した。
- c グローバル・スキルⅢ（6年次）
 - (a) 開始時における生徒の様子
 - ・ 英語に対して苦手意識を持った生徒や積極性にやや欠ける姿勢を持つ生徒が、やや多いように感じた。
 - ・ 英語の習熟度について集団の中で大きな差があり、二極化しているような印象であった。
 - (b) 実施中・実施後における生徒の変容
 - ・ 「失敗してもいいから、まずは自分の考えを表現してみよう。」ということを繰り返し伝える中で、少しずつ肯定的な姿勢で活動に参加する生徒が増えていった。
 - ・ ビデオレターの活動では、ペアになったアメリカの高校生の存在が大きな励みになり、自分の担当部分の他にも校内の様々な施設を紹介する動画作成に積極的に関わるなど、言葉を伝える相手の存在をはっきりと意識しながら望ましい英語表現について考えようとする姿勢が見られた。
 - ・ 論理的思考法を繰り返し経験する中で、読み手に効果的に考えを伝えるエッセイを書ける生徒が増えた。
 - (c) 教員の指導法の改善
 - ・ 生徒の発話をいかに促すかを考え、教材の活用方法の工夫に一層努めるようになった。

- ・ 生徒の持つ英語の力を多面的に分析し、その評価を工夫した。
- ・ ICT 機器のもつ可能性を感じ、活用方法についての研究をさらに深めた。

(2) 異文化理解・共感力の育成

【仮説】

海外提携校とのテレビ会議システムによる交流や留学生との交流などにより、自国の文化の特性を理解するとともに、外国人のものの考え方や感じ方を理解し、異文化に対する寛容さと共感力を持つことができる。

【実践】

(ア) ホームステイ

夏休みを利用し、台湾へのホームステイを実施した。

(イ) 留学生交流

8月から、インドネシアからの留学生を5年団のクラスに配属し、様々な活動において生徒との交流を図った。

(ウ) インターネットを用いた海外の学生との交流

ハワイのプナホウ高校とのテレビ会議システム（スカイプ）や、アメリカ合衆国ノースキャロライナ州のチャペルヒル高校・イーストチャペルヒル高校とのビデオレター交換による交流を実施した。

月 日	実 施 行 事	参 加 者
5月9日	プナホウ高校とのスカイプ交流	生徒27名
6月7日	プナホウ高校からのビデオレター視聴・メッセージ送信	生徒27名
6月11日	ハワイ・インターン生との交流会	インターン生2名 生徒40名
10月8日 1月8日	チャペルヒル高校・イーストチャペルヒル高校とのビデオレター視聴・作成	生徒27名
8月4日～9日	台湾永豊高級中学生徒との交流（ホームステイ）	生徒1名
8月26 ～3月5日	留学生（インドネシア）との交流	留学生1名 全校生徒

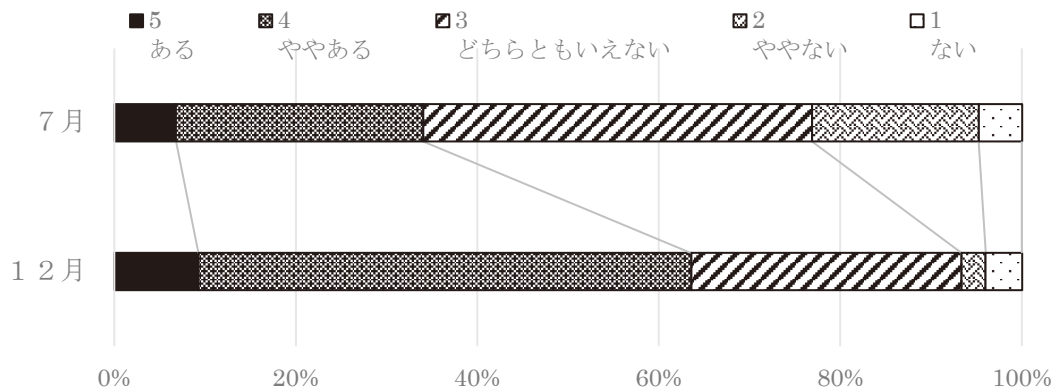
【評価】

○ 仮説検証につながるアンケート調査（対象生徒：4年生、5年生）の結果は次のとおりである。アンケートの回答基準は次の5段階とした。

5：ある、4：ややある、3：どちらともいえない、2：ややない、1：ない

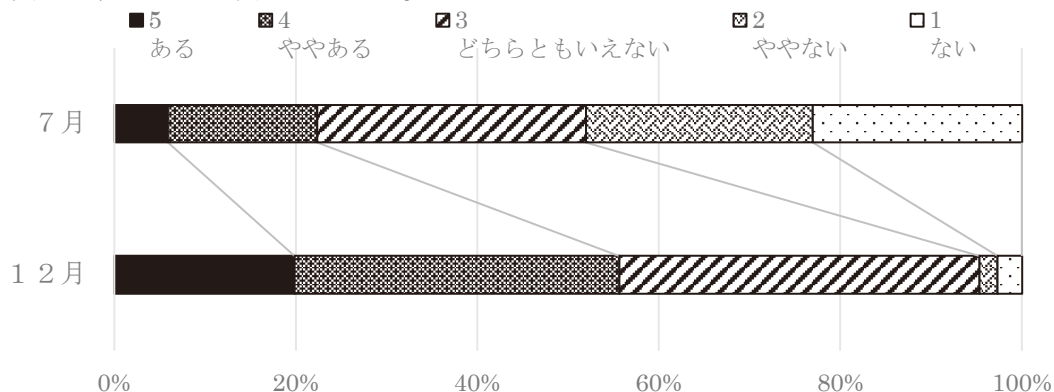
〔4年生〕

① ものごとを多角的にみる力があるか。

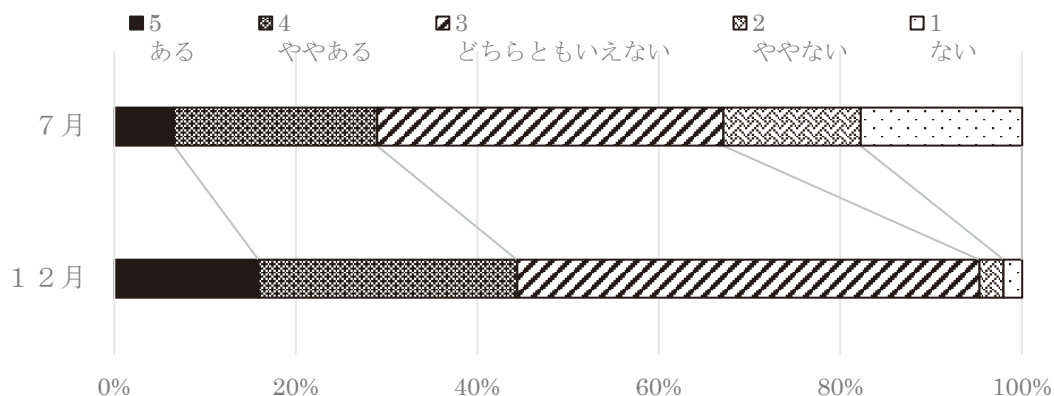


〔5年生〕

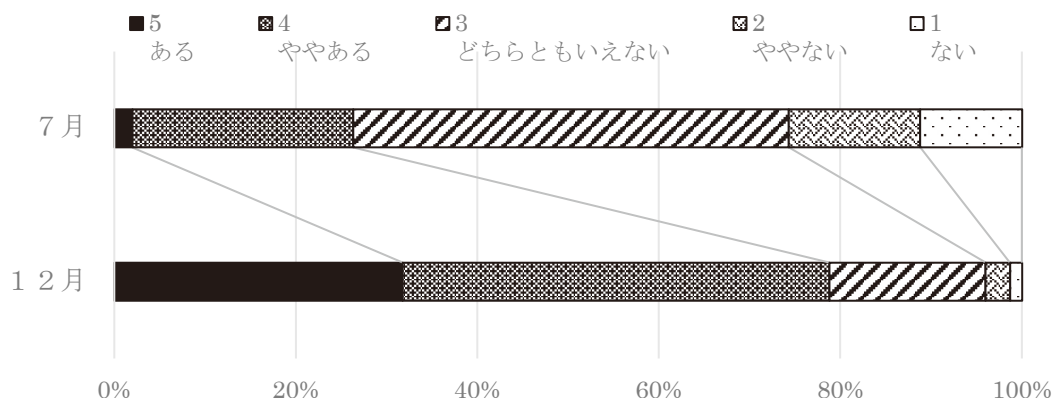
② 外国の文化や歴史に関心があるか。



③ 宇和島（もしくは出身地）の歴史や文化に関心があるか。



④ 自分と違う意見にも耳を傾ける気持ちがあるか。



グラフ①では、4年次に生徒達が多様な価値観を受け入れる素地を身に付け始めている様子が見て取れる。7月の時点では、「ある」または「ややある」と答えた生徒は半数に満たなかったが、12月時点では倍近くまで増加している。海外の異文化に直接・間接的に触れる経験が、このような柔軟な視点や価値観の獲得を後押ししていると考えられる。

グラフ②、③、④では、5年生の大幅な変容が見て取れる。特に本年度は、5年生のクラスにインドネシアからの留学生が半年以上在籍しており、日々の生活の中で生徒達は自分の文化や価値観を相対的に見つめなおす機会を得た。グラフ②では、7月にはおよそ半数の生徒が外国の文化・歴史に対する関心が「ややない」あるいは「ない」と答えたのに対し、12月にそのように答えた生徒の数は1割を下回るほど、大きく減少していることが分かる。グラフ③では、自分たちの持つ文化・歴史に興味がある生徒が、約15ポイント増加したことが示されている。また、「ややない」または「ない」と答えた生徒は約20ポイント減少している。海外の文化に目を向けることで、少しずつ自分達の持つ文化についても関心が高まっていると考えられる。グラフ④では、特に大きな変化が見られる。12月の時点では、およそ8割の生徒が、自分と異なる意見に耳を傾けると答えており、その数は7月と比べると倍以上に増加している。多様性を受け入れる柔軟性が、海外文化との交流やグローバル・スキルでの演習を通して養われていると言えよう。

様々な海外との交流を通して、生徒の変容が見られたが、特に本年度の5年生において例年以上の変容が確認された。これは留学生との交流によるところが大きいと考えられ、仮説を十分に支持するものである。インターネットを介した間接的な、あるいは直接的な異文化交流体験が、自国や他国の文化に対する関心を高め、前向きな学習態度の獲得につながる。こうした指導を継続的に行うことで、生徒たちの国際的な視野を広げていけることが期待できる。

○ 仮説を裏付ける生徒アンケート（自由記述一部抜粋）

- (インドネシアからの留学生との交流)
- ・ 一緒にディベートの練習をしてみて、もっと英語を頑張りたいと思った。
 - ・ 英語の発音には自信が無かったが、一生懸命話した内容を相手に伝えらえた時には嬉しく思った。
 - ・ 英語の他に複数の言語を話せるのが凄いと思った。
 - ・ 外国から来た人とお話しするのは、やっぱり楽しいと思った。
- (ハワイのプナホウ高校とのスカイプ・動画交流)
- ・ 英語を話す人の中にも、見た目は全然自分たちと変わらない人がいて驚いた。
 - ・ ハワイの日系の高校生たちは、英語はもちろんのこと、日本語もすごく上手で、同じ

年ながら刺激を受けた。

(ノースキャロライナ州・チャペルヒル高校との動画交流)

- 日本語がすごく上手いわけではないけど、一生懸命伝えようとしてくれていることが伝わってきて嬉しかった。
- 色々な文化的な背景を持つ人がいることを実感した。着ている服なども自由で、文化の違いを強く感じた。
- こちらも上手く英語を話せるわけではないけど、ベストを尽くして、間違っても良いから、とにかく話してみることが大切。頑張ればなんとかなる、ということを学んだ。
- 好きなアイドル、ゲームなどのエンターテイメントについては共通の話題もあり、新鮮な感じがした。日本のことに興味を持ってくれたことに対してありがたく思った。

3 国内・海外研修

(1) 国内研修

【仮説】

先進的な取組や実績を上げている地域や企業へのフィールドワークを通して、地域社会を支える人物像や地元宇和島のまちづくりの方向性を探ることができる。

【実践】

ア 国内フィールドワーク（FW）のための選考試験

島根県隠岐郡海士町及び愛媛県八幡浜市・大分県別府市で行う国内FW参加者は、申込調書、小論文、面接、SGアクションへの取組及び学業成績で、総合的に判断し決定した。

イ 国内FWのための事前研修

国内2カ所で開催するFWをより有意義なものにするため、事前に、隠岐郡海士町、八幡浜市・別府市での先進的なまちづくりと、宇和島でのまちづくりについて、それぞれリサーチを行った。さらに、各訪問先で質問する内容を精選するなど、主体的なFWとなるよう準備を行った。

ウ 国内FWの内容

島根県隠岐郡海士町及び愛媛県八幡浜市・大分県別府市のまちづくりの取組から、地域社会を支え、地元宇和島を活性化させるためには、どのようなことをしていけばよいのか、その手がかりを探った。

隠岐でのFWでは、「まちづくり甲子園」に参加した。地域活性化の成功例として有名な海士町のまちづくりについて知り、全国から集まった他校の生徒たちと、まちづくりに求められるものについて考えるグループワークに参加した。そして、最終日にはグループでまとめた意見を発表し、考えを共有した。

八幡浜・別府のFWでは、初日は八幡浜において、「道の駅みなとオアシス八幡浜みなと」 「黒い商店街」を訪れた。「道の駅みなとオアシス八幡浜みなと」では、この道の駅が、県外観光客の訪れる場という役割だけでなく、八幡浜市民の憩いの場となっていることを肌で感じた。また、「黒い商店街」では、商店街の人々が町を盛り上げようと、アイデアを出し合い、それを実行に移すというフットワークの軽さを感じた。これらのことから、持続可能な地域活性化を図るためには、外に目を向けるだけではなく、市民に愛されるまちづくりを意識する必要があることを学んだ。2日目以降は、別府と由布院において、「別府観光の父」である油屋熊八氏の業績をたどるとともに、先進的なまちづくりについて学んだ。現在、別府と由布院が名高い観光地となっている背景には、油屋熊八氏の、時代を先読みする能力と、人々を魅了する人柄によって、当時の地元の人々との意見の相違を乗り越えられたということを知り、生徒たちは、まちづくりに必要な資質に気付き、学ぶことができた。

訪問時期	訪問先	訪問施設等
R1. 7. 12～15	島根県隠岐郡海士町	「まちづくり甲子園」(海士町内施設)
R1. 8. 4～7	愛媛県八幡浜市 大分県別府市	道の駅みなとオアシス八幡浜みなと 亀の井バス株式会社、亀の井別荘湯 など
R1. 12. 23	愛媛県松山市	えひめ飲料株式会社
R2. 2. 8	愛媛県松山市	愛媛大学附属高等学校 (令和元年度課題研究代表者発表会)

(2) 海外研修

【仮説】

海外フィールドワーク（FW）を体験することで、コミュニケーション能力を高めることができる。また、世界と日本、世界と宇和島をそれぞれ比較し、グローバルな視点から物事を見て、考えることができる。

【台湾FW実践】

ア 海外FWのための選考試験

申込調書、小論文、面接、SGアクションへの取組及び学業成績で総合的に判断し、海外FW参加者を決定した。

イ 海外FWのための事前研修

昨年度の台湾FWの研修報告内容を確認した上で、本年度は「防災」、「食文化」という二つの研究テーマを設定し、それぞれ研究を進めた。

防災班は、宇和島市役所危機管理課に協力を依頼し、現在の宇和島市の防災事情を教えていただいた。そして、台湾の防災事情と比較するためのアンケートを作成し、準備を整えた。また、姉妹校提携をしている永豊高級中学において、手作り防災グッズ(新聞紙スリッパ)を製作する準備を行った。

食文化班は、昨年度の研修報告の中の、「台湾の人々は外食する頻度が高い」という考察に興味をもち、実際にその点を調査するためのアンケートを作成するなどして準備を行った。

ウ 海外FWの内容

二日目は、スーパー裕毛屋で行われた「愛媛フェア」に参画し、習ったばかりの中国語を使い、積極的にコミュニケーションを図りながら販売補助に奮闘した。

三日目は、日本台湾交流協会を訪れ、日本と台湾との歴史を学びながら、今後の交流について考える良い機会を得た。その後、台湾一の繁華街である西門町で街頭アンケートや市場調査を行った。また、台湾の食事を体験する中で、台湾は環境保護に対する意識が高いことに気が付いた。

四日目は、永豊高級中学を訪れ、英語でのプレゼンテーションやARを活用したクイズ大会などを通して、交流を深めた。また、手作り防災グッズ(新聞紙スリッパ)を共に製作し、交流を図りながら防災意識の高揚を図った。その後、阪神淡路大震災を契機に建造された防災科学教育館を訪問し、台湾の防災事情を知ることで、防災の重要性を再確認した。

【台湾FW日程】

期 間：令和2年1月18日(土)～1月22日(水)（4泊5日）

生徒数：10人（教員2人）

月日(曜)	地 名	現地時刻	内 容
第1日 1/18(土)	宇和島南	発 7:10	貸切バスで宇和島から松山空港へ NH584便
	松山空港	発 9:35	
	羽田空港	着 11:00	NH853便 専用車でホテルへ移動 [台北 泊]
	羽田空港	発 12:40	
	台北空港	着 15:50	
第2日 1/19(日)	ホテル	発 7:30	専用車で移動 裕毛屋1号店(公益店) ※愛媛フェア
	台中市	着 9:30	
	台中市	発 17:00	専用車でホテルへ移動 [台北 泊]
	ホテル	着 20:00	

第3日 1/20(月)	ホテル 台北市	発着	8:30 9:30	専用車で移動 (公財)日本台湾交流協会 台北事務所 台北市慶城街28号 通泰商業大樓 台北市内市場調査 龍山寺・中正記念堂視察 専用車でホテルへ移動 [台北 泊]
	ホテル	発着	11:00 15:00 17:00 20:00	
第4日 1/21(火)	ホテル 桃園市内	発着	7:00 9:00	専用車で移動 永豊高中にて生徒交流 防災科学教育館訪問 台湾台北市内湖区成功路二段376号 九分視察 専用車でホテルへ移動 [台北 泊]
	台北市内	発着	11:00 13:00 16:00 18:00 19:00	
第5日 1/22(水)	ホテル	発着	10:00	専用車で移動 NH852便 NH599便 貸切バスで松山から宇和島へ
	台北空港	着	11:30	
	台北空港	発着	13:30	
	羽田空港	着	17:30	
	羽田空港	発着	19:35	
	松山空港	着	21:10	
	松山空港 宇和島南	発着	21:15 22:30	

【シンガポールFW実践】

ア 海外FWのための選考試験

申込調書、小論文、面接、SGアクションへの取組、及び学業成績で総合的に判断し、海外FW参加者を決定した。

イ 事前研修

シンガポールのコースでは、シンガポールの歴史や建築物について、現地でしか学ぶことのできないことに触れ、それを持ち帰ることで、宇和島のまちづくりに生かすための研究をすることになった。そこで、歴史や建築物についての事前学習を行ったり、企業訪問の際、研究テーマに則した質問をするための項目を考えたりした。また、英語を使ったコミュニケーションスキルを高める目的から、一人一人が異文化理解を深める課題を設定し、現地大学生との交流に向け、準備を行った。

ウ FWの内容

シンガポールでは、シンガポール国立博物館やシンガポール・シティーギャラリーを訪問し、建国の歴史や文化、そして近年の都市開発について学んだ。地震が少ないシンガポールならではの建築様式になっていることなど、地の利を生かした開発が進められていることについても詳しく知ることができた。三日目に実施された「グローバルリーダープログラム研修」では、シンガポール国立大学の学生による授業を受けた。国内の公用語が四つあることが、シンガポールを国際的な貿易拠点として機能させていることや、日本と比べても少子高齢化の進行が速いことなど、日本とシンガポールを対比させて考える機会をいただくことができた。また、比較的年齢が近い大学生の授業を受けたことは、今後の進路を考える上で、非常に有意義であったと感じる。また、最終日には伊予銀行シンガポール支店を訪問し、企業の海外進出についてお話を伺った。その中で、動画共有サービスを活用し、海外の人々に対する「デジタルマーケティング」を展開することで、愛媛県の経済の活性化を図っていることを知り、その精神は、生徒たちが宇和島の地域活性化を図る姿勢につながるものであると感じた。

【シンガポールFW日程】

期 間：令和2年1月18日(土)～1月22日(水) (4泊5日)

生徒数：10人(教員2人)

月日(曜)	地 名	現地時刻	内 容
第1日 1/18(土)	宇和島南	発	貸切バスで宇和島から松山空港へ JL432便
	松山空港	発	
	羽田空港	着	リムジンバスで羽田空港から成田空港へ JL711便 専用車でホテルへ移動 [シンガポール 泊]
	羽田空港	発	
	成田空港	着	
	成田空港	発	
	シンガポール	着	
第2日 1/19(日)	ホテル	発	専用車で移動 シンガポール国立博物館視察 ホーカーズにて昼食 ニューウォータービジターセンター視察 マリーナバラージ視察 夕食 専用車でホテルへ移動 [シンガポール 泊]
	シンガポール市内		
		18:30	
第3日 1/20(月)	ホテル	発	専用車で移動 グローバルリーダープログラム研修 昼食 B&Sプログラム研修 ナイトサファリ 専用車でホテルへ移動 [シンガポール 泊]
	シンガポール市内		
		22:30	
第4日 1/21(火)	ホテル	発	専用車で移動 伊予銀行シンガポール支店視察研修 シンガポール・シティーギャラリー視察 habitat by honestbee 視察 夕食 JL036便 [機中 泊]
	シンガポール市内		
		13:00	
	シンガポール	発	
第5日 1/22(水)	羽田空港	着	JL433便 貸切バスで松山から宇和島へ
	羽田空港	発	
	松山空港	着	
	松山空港	発	
	宇和島南	着	

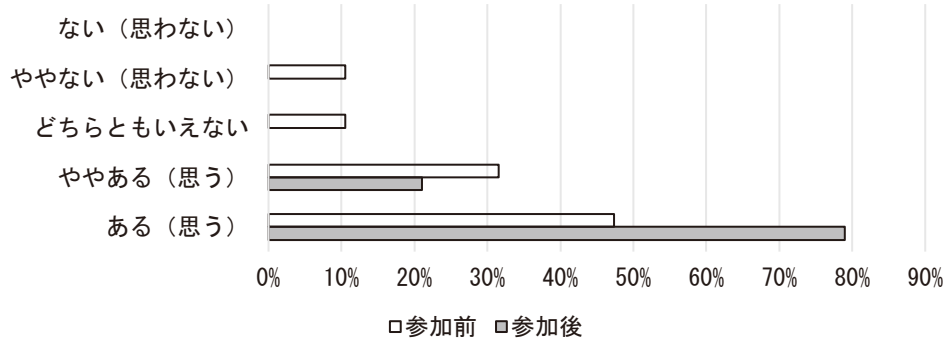
【評価】

○ 海外フィールドワーク (FW) 参加者の生徒アンケートのうち、仮説検証につながるアンケート調査 (対象生徒：台湾10名、シンガポール10名) を示す。

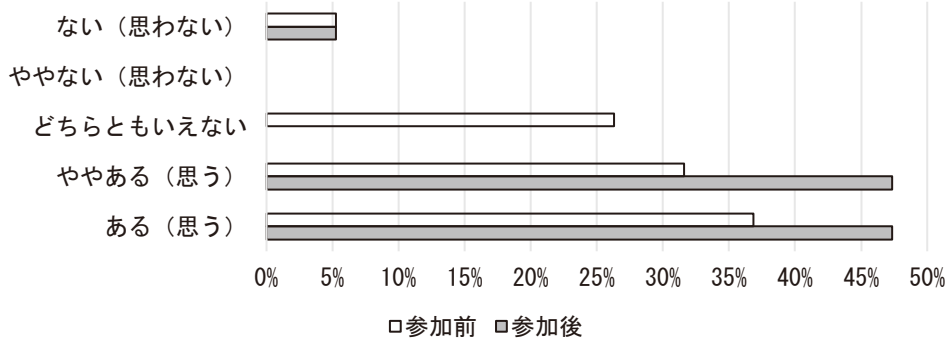
アンケートの回答基準は次の5段階。

5：思う 4：やや思う 3：どちらともいえない 2：あまりない 1：ない

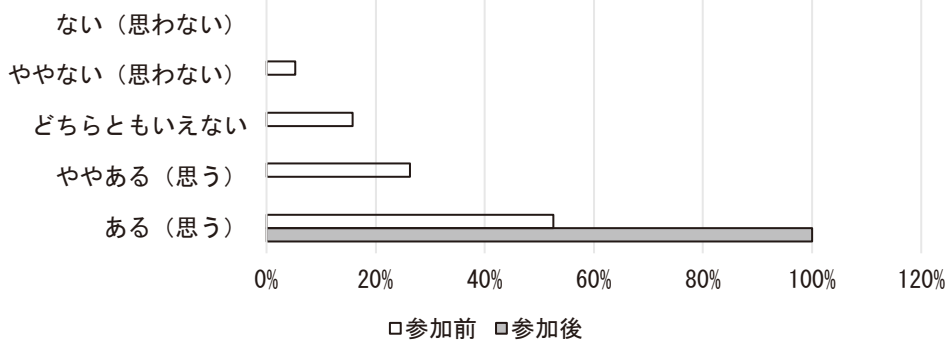
①グローバルな視点で物事を見る必要があると思いますか。



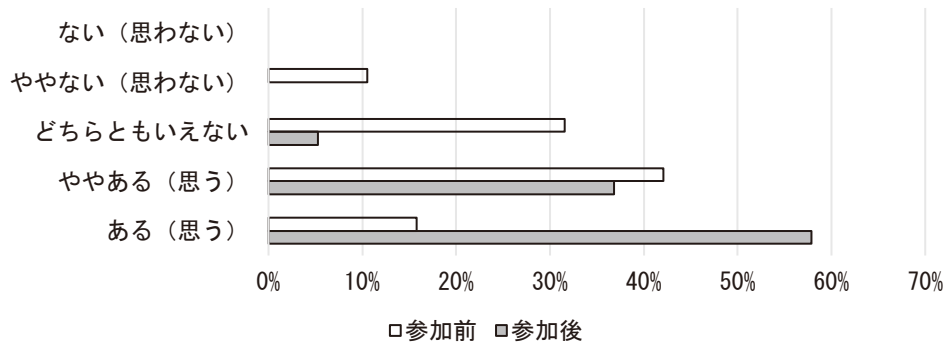
②ローカルに対する理解や愛郷心がありますか。



③外国の人とコミュニケーションをとる力が必要だと思いますか。



④外国語の学習に意欲的に取り組む気持ちがありますか。



グラフ①の「グローバルな視点で物事を見る必要があると思いますか。」とグラフ②の「ローカルに対する理解や愛郷心がありますか。」という質問について、海外FW参加後における「ある(思う)」「ややある(思う)」を合わせた数値が、参加前と比較して、それぞれ21.0ポイント、26.4ポイントと20ポイント以上の伸びが見られる。これは、FWにおいて、教科書だけでは学ぶことのできない、台湾やシンガポールの文化や習慣を肌で感じることで、自分が当たり前と考えていたことが当たり前ではないことに気付き、日本を客観的に捉えるという意識が芽生えたことを示していると考えられる。また、生徒たちは、企業訪問において、海外進出している愛媛県の企業が、海外における経営戦略に留まらず、地元愛媛県の活性化を図っていることを知った。つまり、「グローバル」な視点から「ローカル」に意識を注ぐ、いわゆる「グローバル」の考え方に触れたことで、将来地元のために働きたいと思うようになった生徒が増加したということが考えられる。

グラフ③の「外国の人とコミュニケーションをとる必要があると思いますか。」という質問について、注目すべき点は、FW参加前においては「やや思わない」「どちらともいえない」と考える生徒が一定数いたが、参加後は「思う」と考える生徒が100%となっている点である。これは、台湾のFWにおける、スーパー裕毛屋での「愛媛フェア」の販売補助や姉妹校永豊高級中学生との交流、シンガポールFWにおける「グローバルリーダープロジェクト研修」を通じて、これまであまり外国の人と接したことがなかった生徒の意識に大きな変化が生じたことが推測される。海外FW中、生徒たちは、自分の意思を伝えたい場面で、言葉の壁を感じた瞬間が何度もあったように見受けられる。将来、このグローバル社会でリーダーとして活躍するためには外国の人とのコミュニケーションが欠かせないということを強く認識したということをも裏付けている。さらに、グラフ④の「外国語の学習に意欲的に取り組む気持ちがありますか。」という質問について、海外FW参加後における「ある」の数値が、参加前と比較して、40ポイント以上伸びていることが分かる。これは、グラフ③の分析と同様の理由があると考えられ、また、「このFWを経験し、英語を話す能力の重要性を感じた。英語の授業を大切にしたいと思うようになった。」や「現地で教えてもらった中国語でコミュニケーションがとれるととてもうれしかった。英語だけではなく、中国語の勉強にも興味がわいた。」という生徒の感想からも分かるように、明らかに外国語の学習に対する意欲が高揚したことが読み取れる。

この海外FWを経験したことで、生徒一人一人の中に新たな発見や意識の変化が生じたことが分かる。今回のFWで刺激された好奇心や探究心を磨き続け、将来グローバルリーダーとしての資質をもち、活躍する人材が本校から輩出されることを期待したい。

○ 仮説を裏付ける生徒アンケート（自由記述一部抜粋）

（台湾）

- ・ 初めての海外で、日常生活で様々な文化の違いを実際に体感し、幅広い価値観を理解し、柔軟に受け入れる人になりたいと思いました。街頭アンケートや姉妹校交流など、多くの現地の人と関わり、言語の必要性を痛感させられたので、これからは英語の話す力や聞く力を身に付けられるような学習をしていこうと思います。
- ・ 様々な活動をしたときに、言語が違うので自分の伝えたいことを話すのが難しかったです。その時に共通語である英語を頑張ろうと思いました。また、過ごしている内に、日本との違いが多くあり、不安がありましたが、異文化のことについて興味を持つことができました。日本と台湾は近いですが、様々な違いがあったので、距離が遠くて環境が異なる国では、どれぐらい文化が違う、日本では当たり前だと思っていることが違うのか体験してみたいです。

(シンガポール)

- 今まで日本にいて、外の世界を見たことがなかったので、今回の経験を経て、様々な観点からの視野が広がりました。また、海外に対する抵抗感も薄れました。世界をより身近に感じることができるようになったため、物事をグローバルな見方で考えることが以前よりもしやすくなったと思います。また、英語をもっと習得したいと感じるとともに、異文化の人と交流したい気持ちが強くなりました。
- シンガポールへ行って、歴史や経済について学び、日本の現状を考えてみて、もっと日本の国際関係が発展していけば良いと考えるようになりました。だから、日本の海外に対する理解度をもっと深めてみたいと思っています。また、文化を学び、物事に対する視野も広がったように思います。

4 国内外の大学や企業・国際機関等との連携

(1) SGアクションⅠ・Ⅱ【体験と研究のステージ】

ア チャレンジ精神及び困難に耐える力の育成

【仮説】

大学等の各専門機関と共に高度な研究をすることで、学問の奥深さや面白さを知るために必要な、努力や忍耐力を身に付けることができる。また、地域活性化に成功している諸団体の活動を研究することで、チャレンジ精神の大切さ等を認識することができる。

【実践】

(ア) 講演会の実施

今年度は合計6回(4年生対象5回、5年生対象1回)の講演会を、次のとおり実施した。

○4年生対象講演会

	実施日	講演内容	講師
1	5月23日(木)	宇和島の歴史と文化	宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課 廣瀬 岳志
2	6月13日(木)	愛媛みかんの状況とみかん研究所の取組	愛媛県みかん研究所 室長 藤原 文孝
3	6月20日(木)	宇和島の水産業について	愛媛県水産研究センター 室長 渡邊 昭生
4	9月19日(木)	愛媛県産品の海外での販路拡大について	愛媛県ブランド戦略課 技師 中村 優太
5	2月13日(木)	揺れるヨーロッパ ～ブレグジットの背景にあるもの～	福岡女子大学 教授 馬場 優

○5年生対象講演会

	実施日	講演内容	講師
1	9月19日(木)	愛媛県産品の海外での販路拡大について	愛媛県ブランド戦略課 技師 中村 優太

○4年生課題研究(5コース)

コース	指導者
水産業の現在 (水産業)	愛媛大学南予水産研究所研究センター 教授 武岡 英隆 教授 若林 良和 教授 松原 孝博 教授 高木 基裕 准教授 後藤 理恵
柑橘業の現在 (柑橘・農業)	愛媛大学農学部 教授 山田 寿
地域の力 (まちづくり)	愛媛大学社会連携推進機構 教授 坂本 世津夫 愛媛大学防災情報研究センター 教授 山本 浩司
地域の企業 (経済)	松山大学経営学部 教授 東淵 則之
アジアの文化 (文化)	愛媛大学国際連携推進機構 教授 村上 和弘 愛媛大学法文学部 准教授 石坂 晋哉

(イ) 課題研究ポスター作成

本年度も課題研究ポスター作成(4年生全員[グループ32班]、5年生個人[44名])に取り組み、4年生分と5年生分とを合わせて76のポスターを作成した。

ポスター指導については、大学及び研究機関の方々に指導助言をいただき、研究内容の深化を図った。4年生は班ごとに五つのコースの研究分野に分かれて作成し、5年生は将来の進路を見据えて、各々の興味関心のある研究テーマを設定した。

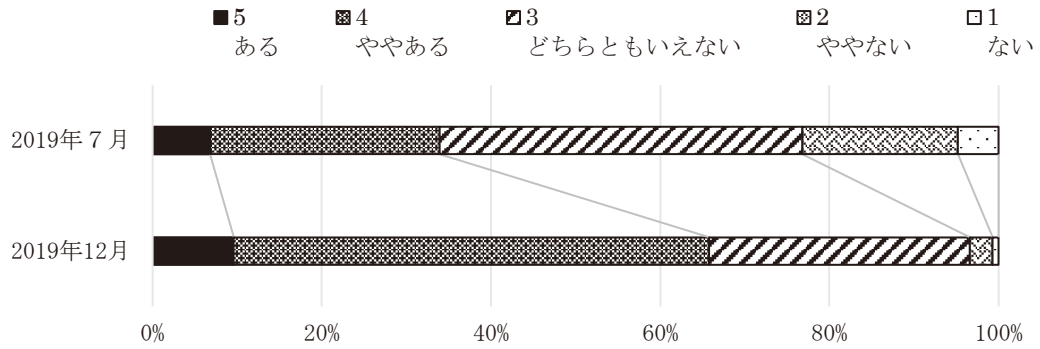
【評価】

仮説検証につながるアンケート調査（対象生徒：4年生、5年生）は次のとおりである。アンケートの回答基準は次の5段階とした。

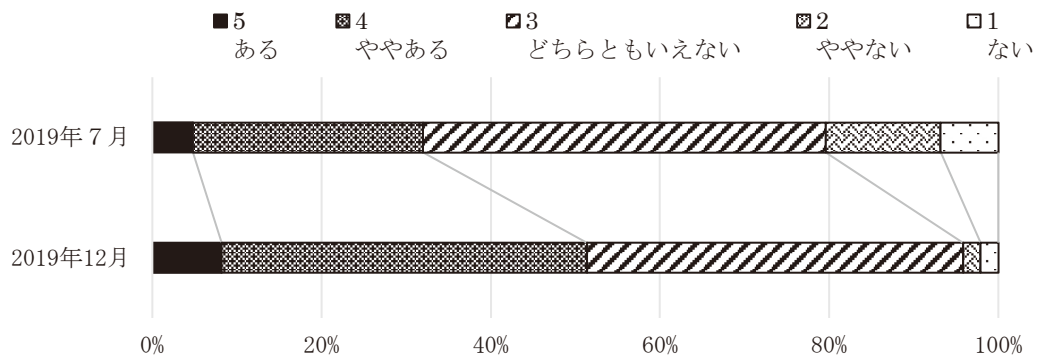
5：ある、4：ややある、3：どちらともいえない、2：ややない、1：ない

〔4年生〕

① ものごとを多角的に見る力がありますか（4年）

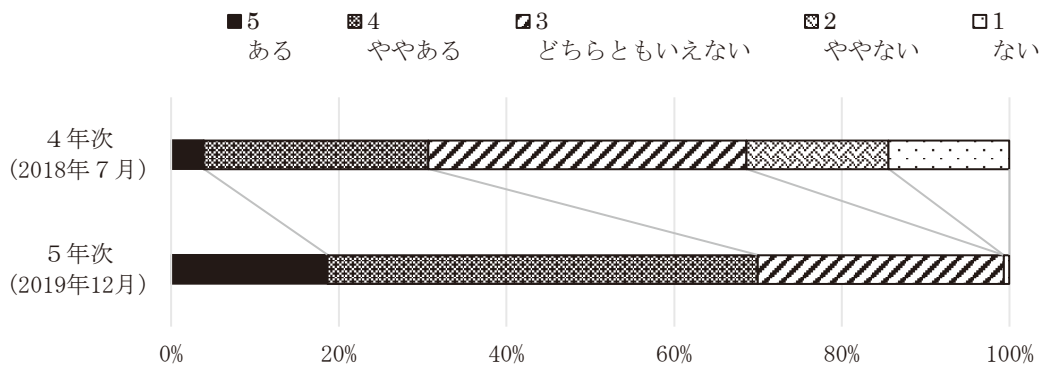


② 課題を解決する力がありますか（4年）

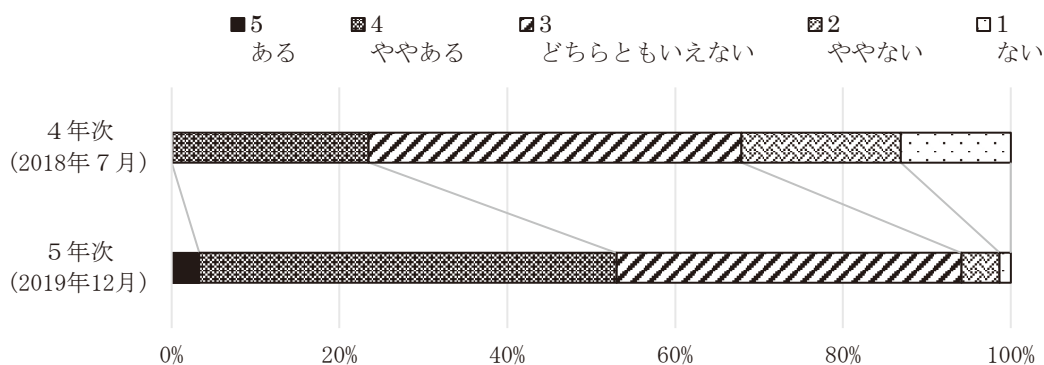


〔5年生〕

③ ものごとを多角的に見る力がありますか（5年）



④ 課題を解決する力がありますか（5年）



4年生は、グラフ①の「ものごとを多角的に見る力」について、12月時点の「ある」と「ややある」を合わせた数値が、7月時点と比較して、31.8ポイントと大きな伸びが見られる。これは、SGアクションⅠを通して、外部講師による柑橘業・水産業に関する講演会や、大学教授による各分野についての基礎講座を受講したことで、物事を多面的・多角的にとらえることができる柔軟な思考力が身に付いたことが、数値の伸びにつながったと考えられる。また、地元企業などのインタビューでは、一つの企業に止まらず、複数の企業を訪問し話を聞くことで、様々な視点から物事を捉えようとする班も多く見られるなど、チャレンジ精神を持った行動が見られた。

また、グラフ②の「課題を解決する力」について、12月時点の「ある」と「ややある」を合わせた数値が、7月時点と比較して19.4ポイントの伸びが見られる。これは、7月に地元企業へのインタビューや現地調査、国内・県内フィールドワークなどの主体的な活動が増えたことが要因の一つと考えられる。生徒たちはインタビューや各種活動を通して基本的知識を身に付け、新たに生まれた疑問や課題を解決するために本校生徒や保護者、地域の方々へのアンケート調査を実施するなど、研究を一層深化させようとする姿勢が見られた。SGアクションⅠの取組で培った力を、今後の学校生活に生かしてくれることを期待している。

5年生は、グラフ③の「ものごとを多角的に見る力」について、12月時点の「ある」と「ややある」を合わせた数値が、前年度の7月時点と比較して、39.3ポイントの大幅な伸びが見られる。これは、今年度のSGアクションⅡにおいても、4年次に身に付けた柔軟な思考力を発揮し、より発展させた実践・研究を行うことができたことを意味している。様々な調査結果やデータをもとに研究を重ね、校内ポスター発表会においては、その成果を十分に発表することができた。さらに、質疑応答の際にも、一つのデータを提示するのではなく、様々なデータを用いることで論理的で説得力のある応答がなされていたことから、ものごとを多角的に見る力が備わりつつあることがわかる。

また、グラフ④の「課題を解決する力」について、12月時点の「ある」と「ややある」を合わせた数値が、前年度の7月時点と比較して29.5ポイントと大きな伸びが見られる。4年次では課題を解決するためにどう動くべきか、またどこに調査に行くべきか指導者に助言を仰ぐなど指導者の下での活動が多く見られたが、5年次では自ら課題解決のためのプロセスを構築し、率先してインタビューや企業訪問などの主体的な活動を行っており、2年目の課題研究を行う中で、生徒自身が自分たちの成長を感じ取っていることが推察で

きる。さらに班活動では、意見の衝突などもあったが、建設的な意見交換を行うことで問題を解決しようとする場面も見られ、どんな困難にも立ち向かっていく姿勢を身に付けつつあることがわかる。この2年間の活動で培った課題解決能力をより向上させ、自分の興味のある分野をより深く掘り下げ、将来の進路に結び付けながら主体的に活動できる生徒が一人でも多くなることを期待したい。

○ 仮説を裏付けるアンケート自由記述一部抜粋

- ・ 地元企業にインタビューをする中で、様々なことを知ることができた。その中で、他社との違いにも興味がわき、何社かを訪問することができた。同じ分野の会社でも、社風や考え方に違いがあり、比較することで特徴を明確にすることができた。どの会社も、形は違うけれども地元貢献したいという気持ちは同じで、社員さんの熱い気持ちが伝わってきた。社員の声として会社の改善に生かしたいのでアンケートの調査結果をいただきたいと言われた時は、自分たちの調査結果が役立つことがとてもうれしかった。
- ・ 自分たちで作った料理の評価が知りたくて、クックパッドにレシピや写真を投稿したところ、多くの方に閲覧していただき、実際に料理をして評価してくれた人もいた。高評価していただいたことで、とても自信になった。来年はぜひ地元で売り出す企画を試してみたいと思った。

(2) S GアクションⅢ 【研究と提言のステージ】

ア 論理的思考力及び分析力の育成

【仮説】

中等5年次までの課題研究・探究の結果をレポートにまとめることで、論理的思考力、分析力、文章構成力の伸長を図ることができる。

【実践】

(ア) 全校体制での取組

4年次から大学や企業などの協力を得て進めてきた課題研究の集大成として、論文の作成を行った。論文指導では、管理職を含めた33人の教員の協力のもと、全校体制で取り組んだ。主にSGHに関わる4・5年団の教員を中心に、教員一人につき1～2人の生徒を割り振り、本校で作成した論文マニュアルなどを参考にして完成を目指した。多くの生徒にとって、論文作成は初めての経験であり、指導する側も苦戦したが、論文マニュアルなどをうまく活用し、またグラフや資料を適切に配置し説得力を持たせることで、これまでの課題研究の成果を形にすることができた。年度末には、課題研究の成果として「生徒研究論文集」を作成し、研究結果をまとめた。

(イ) 課題研究の成果

S GアクションⅢで作成した論文は、次のとおりである。

教科	指導教員	班長氏名	題 名
国	小田原寛	高田真人	宇和島のさらなる活性化をめざして
地公	佐々木進	二宮瑞葵	宇和島に健康料理教室があるの知ってる？～愛ファーマシーの取組
国	山下佳世	棟田あや	#最強の移住プラン
国	山中恵	林姫菜子	愛媛の秘境『九島』に住もう！！
国	上谷香織	兵頭和都	Come on babey 宇和島～海外から客を～
国	石丸聖也	佐竹菜穂	宇和島を変える三分間の深イイ話
国	松浦一晴	藤堂慎吾	輸出半端ないって！～やり方分からんやん普通～
国	中川さと子	金谷洸希	南楽園活性化作戦！

国	大橋文子	宇都宮結女	宇和島をスイーツで活性化
地公	大本浩之	上甲智也	商店街再生プロジェクト
地公	三好君人	河野壺世	見直そう！避難所
地公	吉田 遊	梶原颯人	婚活de問題解決☆
		壽崎沙紀	赤潮を〇〇に進化させる
地公	立石 峻	赤松倅也	鯛めしよ！世界にはばたけ
地公	堀内智文	山本暉良々	マスコットキャラクターたちと考える！～南予ツアー計画～
		尾上利空	打ち上げ花火、下から見るか？城から見るか？
数	橋本 潔	寺田圭次郎	宇和島の特産品でアジア料理作ったらおいしいんじゃないか説
数	牧野宗員	森川きらら	今日本は血に飢えている～輸血の必要性～
数	小池長八郎	脇冬陽	宇和島湾の知名度を上げたら世界湾クラブの登録も夢じゃないかも！？
数	大塚隆三	小玉美優	遊子じゃがのおいしさ広め隊！
数	山口貴史	麻田菖	すこぶるあらぶる魚嫌い
数	黒田利信	児玉壺茶	Nuclear Power Plant～見えない怖さ～
理	大久憲一	兵頭七海	Matsuri of Mikan
理	黒江崇宏	柚村くるみ	津波が来る。
理	安気智洋	竹内祐登	輸出、輸入から見た柑橘
理	工藤洋志	水野元基	宇和島の農業知名度 UP 大作戦
体	二宮成夫	田口来希	みかんを使った新しい料理
音	中井健晴	浦崎朔楽	三重を三なら重！～真珠産業成功の秘訣～
美	岩本伸治	清水順哉	新しい！日本の貿易
英	東 敏郎	栗山梨歩	アボカドプロジェクト
英	溜尾隆亮	中 颯	カネコ&宇和島の一石二鳥計画
		福井祐侍	宇和島の中小企業を盛り上げよう
英	竹田智水	鹿島真子	YOUは何しに宇和島へ？
		森口凱斗	愛媛の里いもを海外に！
英	浅尾一元	近松孝太郎	アジアの文化で宇和島を救う！！
家	梶田琴世	山下純	どんな姿も100%～みかんとともに歩む道～

イ 研究成果と進路実現との結び付き

【仮説】

中等5年次までの活動で身に付けた問題解決能力やコミュニケーション能力を発揮して、卒業後の進路実現につなげることができる。

【実践】

(7) 愛媛大学社会共創学部産業イノベーション学科への進学

水産業に関するフィールドワークや講演会に積極的に参加し、さらに、東京で開催されたOCEAN's47イベントに参加するなど、海洋汚染問題の解決に向けて精力的に活動を重ねた。その成果を生かしてAO入試により愛媛大学社会共創学部産業イノベーション学科に進学した。

(4) 愛媛大学教育学部初等教育学科への進学

5年次から健康を意識したまちづくりに関する課題研究を行った。地元企業と協力し、健康料理教室を企画・運営するなど精力的に活動した。その成果を生かして

AO入試により愛媛大学教育学部初等教育学科に進学した。

(ウ) 愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科への進学

まちづくりに強い関心を持ち、課題研究では、地元の道の駅をさらに活性化させるために様々な問題を見つけ、高校生の視点に立って解決していくことで、さらなる集客を図る方策について研究を行った。その成果を生かしてAO入試により愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科に進学した。

(エ) 愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科への進学

地域資源の活用、地域づくりなどに強い関心を持ち、愛媛大学主催「地元学ぶ地元学2019」に参加するなど、積極的にフィールドワークを行った。その成果を生かしてAO入試により愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科に進学した。

(オ) 関西学院大学文学部文学語学科への進学

まちづくりに強い関心を持ち、外国人観光客誘致のための観光プランを提案・企画し、地元のPRを図る方策について研究を行った。また、関西学院大学で実施されたSGH甲子園やSPH指定校での発表会に参加するなど、SGHの活動を通してものごとを多角的に見る力を養うことができた。その成果を生かしてSGH推薦により関西学院大学文学部文学語学科に進学した。

(カ) その他の合格・進学実績

- ・ 愛媛大学農学部食料生産学科 (AO入試)
- ・ 岡山大学工学部機械システム工学科 (一般公募推薦)
- ・ 徳島大学医学部医学科 (一般公募推薦)

Ⅲ 研究開発の内容

1 令和元年度SGH年間事業計画

4年		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		S G 課 題 研 究 シ ョ ン	項目	ガイダンス	コース選択 研究テーマ設定 講演会等		ポスター作成		夏季FW 報告会	ポスター作成		ポスター 完成 班別発表	班別 発表
				国内FW	宇和島 FW		海外FW						

【SG】 4年は、木曜日の5・6限の時間にSGアクションIとして実施する。

(1) 1学期

- ・コース選択・研究テーマ設定
4年生徒を5月までに1クラス八つの班に分け、五つのコースを選択させる。
 - ①水産業の現在
 - ②柑橘業の現在
 - ③地域力(まちづくり・防災)
 - ④地域の企業
 - ⑤アジアの文化(留学生・外国人労働者なども)
- ・講演会の実施(地域・企業・水産業・柑橘業・文化等)
各分野の講師による講演を実施し、生徒の興味・関心を喚起するとともに知識の幅を広げさせる。
- ・4年生の課題研究は、担当の講師、担任及び副担任が協力して行う。

(2) 夏季休業

- ・宇和島フィールドワーク
地元宇和島において活躍されている人へのインタビューを実施する。宇和島の二つのP(プライド&プロブレム)を見付ける。
 - ①宇和島のPRIDE
宇和島の誇るべき点を見付ける。
 - ②宇和島のPROBLEM
宇和島の問題点を見付ける。

(3) 1学期7月～2学期12月

- ・課題研究
班ごとにテーマを決め、コース別の課題研究に取り組む。担当の講師、担任及び副担任のアドバイスを参考にテーマを決め、研究に取り組む。

(4) 研究のまとめ

- ①12月中にポスター原稿を作成し、中間発表(審査)を行う。
- ②1月中に原稿を手直しした上で、ポスターにまとめて提出する。
- ③1月の班別発表で評価の高かったものを数点選び、研究発表会の代表とする。

(5) SGH研究成果発表会(南予文化会館)

3月13日(金)に研究成果発表会において、「SGH課題研究」を「海外FW報告」等とともに発表する。可能な班は英語で発表する。

5年		類型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		S G ア ク シ ョ ン	課 題 研 究 項 目	SG II型 (4組)	ガ イ ダ ン ス	コース選択 テーマ設定	ポスター作成		夏 季 FW 報 告 会		ポ ス タ ー 作 成	ポ ス タ ー 完 成	班別発表	
SG I型 (1・2・ 3組)	講演等			国内FW		海外FW	海外FW							
				コース選択 テーマ設定	ポスター作製				ポスター作成		海外FW	ポスター 完成		

【SG II型】 5年4組は、木曜日の6・7限の時間にSGアクションII(2単位)として実施し、個人で課題研究を行う。

(1) 1学期4月～5月

・コース選択・研究テーマ設定

5月末までに七つの課題研究コースを選択し、7月末までに課題研究テーマを担当の講師、担任及び副担任と決め、ポスター作成に取りかかる。

文系：まちづくり、文化、企業、海外輸出(医療、水産)

理系：水産、農業、医療

(2) 1学期6月～2学期10月

・課題研究

班でテーマを決め、コース別の課題研究に取り組む。担当の講師、担任及び副担任のアドバイスを参考にテーマを決め、研究に取り組む。

(3) 研究のまとめ

①11月中にポスター原稿を作成し、中間発表(審査)を行う。

②12月中に原稿を手直した上で、ポスターにまとめて提出する。

③12月・1月の班別発表で評価の高かったものを数点選び、研究発表会の代表とする。

(4) SGH研究成果発表会(南予文化会館)

3月13日(金)に研究成果発表会において、「SGH課題研究」を「海外FW報告」等とともに発表する。可能な者は英語で発表する。

【SG I型】 5年1・2・3組は、SGアクションII(1単位)として実施し、班単位で課題研究を行う。

(1) 1学期4月～5月

・コース選択・研究テーマ設定

5月末までに六つの課題研究コースを選択し、7月末までに課題研究テーマを担当教員、担任および副担任と決め、ポスター作成に取りかかる。

①水産業の現在 ②柑橘業の現在 ③地域の力(まちづくり) ④地域の企業

⑤アジアの文化(留学生・外国人労働者) ⑥農産物・水産物の現状と海外輸出

(2) 1学期6月～2学期11月

・課題研究

班でテーマを決め、コース別の課題研究に取り組む。担当教員、担任及び副担任のアドバイスを参考にテーマを決め、研究に取り組む。

6コースごとに担当教員を付け、昼休みや放課後等も使って指導を行う。

(3) 研究のまとめ

①1月中にポスター原稿を作成し、中間発表(審査)を行う。

②2月中に原稿を手直した上で、ポスターにまとめて提出する。

③2月の班別発表で評価の高かったものを数点選び、研究発表会の代表とする。

(4) SGH研究成果ポスター発表会(体育館)

次年度1学期に課題研究ポスター発表会を実施する。

2 令和元年度SGH事業実績

月	日	曜	実施事項	対象	講師等
4	18	木	SGH課題研究校内発表会	4～6年	SGH推進本部
	20	土	うわじま子ども観光大使基礎講座	4年5人	SGH推進本部
5	9	木	インターネットを介した国際交流 ハワイプナホウ高校	6年 1・2組	SGH推進本部
			アンケート・ガイダンス・課題研究班決め	4年	SGH推進本部
	23	木	講演「宇和島の歴史と文化」	4年	宇和島市教育委員会 学芸員 廣瀬 岳志 氏
			課題研究コース設定・テーマ決め	5年	SGH推進本部
	30	木	課題研究コース設定・テーマ決め	4年	SGH推進本部
「高校生まちづくり課」プロジェクト 開会式			4年7人	SGH推進本部	
6	6	木	課題研究コース設定・テーマ決め	4年	愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学農学部 山田 寿 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授・村上 和弘 教授 愛媛大学防災情報研究センター 山本 浩司 教授
	7	金	インターネットを介した国際交流 ハワイプナホウ高校	6年 1・2組	SGH推進本部
	11	火	ハワイ・インターン生との交流	5年4組	リリアン・アダ・マッキンタイヤー 氏 ジョゼフ・カマクア・イセリ 氏 大森 典子 氏
	13	木	講演「愛媛みかんの現状とみかん研究所 の取組」	4年	みかん研究所 藤原 文孝 室長
			課題研究コース設定・テーマ決め	4・5年	SGH推進本部
20	木	講演「宇和島の水産業について」	3・4年	愛媛県農林水産研究所水産研究センター 渡邊 昭生 研究企画室長	
7	12～ 15	金～ 月	国内（隠岐）フィールドワーク	4年3人	引率教員（1人）
	18	木	講義・課題研究	4年	愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授・村上 和弘 教授 松山大学経営学部 東淵 則之 教授
	29～ 8 /14	月～ 水	オーストラリア アデレード短期語学留学	4年16人	引率教員（1人）
8	4～ 6	日～ 火	国内（八幡浜・別府）フィールドワーク	4年10人	愛媛大学 米田 誠司 准教授 引率教員（2人）
	4～ 9	日～ 金	台湾ホームステイ （永豊高級中学との交流）	5年1人	
	5	月	高校生留学フェア	5年2人	引率教員（1人）
	8	木	OCEAN' s 47 参加	6年1人	引率教員（1人）
	19	月	「高校生まちづくり課」プロジェクト	4年7人	引率教員（1人）
	21	水	高校生アジア架け橋プロジェクト留学生 来日	5年	インドネシアからの留学生1人
	24	土	柑橘シンポジウム 2019	4・5年 20人	
9	12	木	課題研究	4年	愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授 村上 和弘 教授
	15	日	防祭～未来のウワジマ防衛タイ～	5年5人	引率教員（1人）

9	19	木	S G H夏季FW報告会 (体育館) 講演 愛媛県農林水産部 ブランド戦略課 中村 優太 技師	3～6年	愛媛大学 井上 敏憲 教授 木屋旅館マネージャー グレブ・バルトロメウス氏 愛媛県ブランド戦略課 中村 優太 技師 愛媛県教育委員会 細川 昌弘 指導主事
	26	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授 愛媛大学農学部 山田 寿 教授 愛媛大学防災情報研究センター 山本 浩司 教授 松山大学経営学部 東淵 則之 教授
	29	日	「高校生まちづくり課」プロジェクト	4年7人	引率教員 (1人)
10	3	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学社会連携推進機構 石坂 晋哉 准教授
	4・7	木・月	インターネットを介した国際交流 アメリカチャペルヒル高校・イーストチャペルヒル高校	6年 1・2組	S G H推進本部
	17	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学農学部 山田 寿 教授
	24	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授 愛媛大学防災情報研究センター 山本 浩司 教授
	31	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学農学部 山田 寿 教授 松山大学経営学部 東淵 則之 教授
11	7	木	愛媛県高等学校国際教育研究会議	4年2人 5年2人	引率教員 (1人)
	8～10	金～日	全国高校生まちづくりサミット2019 (福井県鯖江市)	4年4人	宇和島市
	16	土	「高校生まちづくり課」プロジェクト	4年7人	引率教員 (1人)
	14	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授
	21	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学農学部 山田 寿 教授 愛媛大学社会連携推進機構 村上 和弘 教授 愛媛大学防災センター 山本 浩司 教授
12	4	水	愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会	4年1人	引率教員 (1人)
	8	日	第14回エコノミクス甲子園愛媛大会	4年2人	
	16・17	月・火	インターネットを介した国際交流 アメリカチャペルヒル高校・イーストチャペルヒル高校	6年 1・2組	S G H推進本部
	19	木	課題研究	4年 5年4組	S G H推進本部
	22	日	SWG All Japan High School Forum 2019	5年2人 留学生1人	引率教員 (1人)
	23	月	県内フィールドワーク (えひめ飲料)	3年12人 4年15人	引率教員 (1人)
1	16	木	課題研究	4年 5年4組	愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授・石坂 晋哉 准教授 愛媛大学防災情報研究センター 山本 浩司 教授 松山大学経営学部 東淵 則之 教授

1	18～ 22	土～ 水	海外フィールドワーク（台湾方面・シンガポール方面）	4年・5年 20人	引率教員（4人）
	23	木	課題研究（発表練習）	4年 5年4組	S G H推進本部
	25	土	「高校生まちづくり課」プロジェクト	4年7人	引率教員（1人）
2	4	火	コンソーシアム in 南予	4年生4人 5年生3人	引率教員（3人）
	6	木	校内ポスター発表会	3～5年	愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授 愛媛大学農学部 山田 寿 教授 愛媛大学社会連携推進機構 坂本 世津夫 教授・村上 和弘 教授 石坂 晋哉 准教授
	8	土	県内フィールドワーク（愛媛大学附属高等学校課題研究代表者発表会参観）	4年22人	引率教員（1人）
	8・ 9	土・ 日	第4回中四国高校生会議	5年2人	引率教員（1人）
	13	木	講演「揺れるヨーロッパ・ブレグジットの背景にあるもの」	4年	福岡女子大学 馬場 優 教授
	20	木	アンケート	4年 5年4組	S G H推進本部

3 実施報告

(1) 課題研究の取組

ア SGアクション

5. 23 SGアクション 報告	
日 時	令和元年5月23日(木) 5限 13:50~14:40
場 所	武道場
目的・仮説	郷土の歴史を再確認することで、地元愛が生まれ、生徒のSGH事業の取組に対する意欲・関心を高めることができる。
実 践	・講演『宇和島の歴史と文化』 宇和島市教育委員会 学芸員 廣瀬岳志 氏 ・感想文作成
参 加 者	4年生 151人
評価・所感	宇和島市教育委員会の廣瀬岳志氏に、宇和島の歴史と文化について講演をしていただいた。講話を通して、古代にはじまり、戦国、江戸そして明治へとつながる長い歴史の中で育まれた宇和島の文化を、現代に受け継いだ自分たちがこれからどのように発展させていくかという課題に、多くの生徒が改めて気付いたようであった。

6. 6 SGアクション 報告	
日 時	令和元年6月6日(木) 5・6限 13:50~15:40
場 所	自教室
目的・仮説	生徒自身が興味のある分野に関して、専門家との話し合いを通して課題研究の方向性を定め、より具体的なテーマを設定することができる。
実 践	グループディスカッション 愛媛大学…高木教授、山田教授、坂本教授、村上教授、山本教授
参 加 者	4年生 151人、5年4組 44人
評価・所感	今回は、本年度初めて大学から5名の教授を講師として迎え、研究課題のカテゴリー(水産、かんきつ、まちづくり、防災、企業)ごとに分かれた生徒たちを指導していただいた。最初に、講師の方々から、課題研究を進める上で大切なことや注意点などを、プロジェクターを使って分かりやすく教えていただいた。その後、自分たちが取り組む研究課題について、講師の方々とディスカッションを行った。自分たちのアイデアが、講師の方々のアドバイスによって具体的な形になっていく経験を通し、生徒は、課題解決に向けた新たな視点を手に入れたようであった。

6. 13 SGアクション 報告	
日 時	令和元年6月13日(木) 5限 13:50~14:40
場 所	武道場
目的・仮説	宇和島のかんきつ業についての基礎的な知識を身に付けることで、地元の基幹産業であるかんきつ業を更に発展させ、衰退を回避する方策を考えることができる。
実 践	・講演『愛媛ミカンの現状とみかん研究所の取組』 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター みかん研究所育種栽培室 藤原文隆 室長 ・感想文作成
参 加 者	4年生 151人
評価・所感	かんきつについて最先端で研究している、みかん研究所の藤原文孝氏に講演をしていただいた。生徒は、かんきつ業の現状にはじまり、これから期待される新品種まで最新の情報をつぶさに知ることができた。昨年の豪雨災害により被災したかんきつ農家も多く、地域の主幹産業であり、課題研究のテーマの一つでもあるかんきつ業の復興に関心を持つ生徒たちが、真剣な眼差しで講演を聞き、理解を深めていた。

6. 20 SGアクション 報告	
日 時	令和元年6月20日(木) 5限 13:50~14:40
場 所	体育館
目的・仮説	宇和島の水産業に関する基礎的な知識を身に付け、水産業の現状を把握することで、地元基幹産業である水産業の更なる発展を促し、衰退を防ぐ方策を考えることができる。
実 践	講演『宇和島の水産業について』 愛媛県農林水産研究所水産研究センター 研究企画室 渡邊昭生 室長
参 加 者	3・4年生 308人
評価・所感	愛媛県農林水産研究所水産研究センター研究企画室長の渡邊昭生氏に、南予地域の水産業の現状や、養殖魚や養殖真珠についての最新的话题を、豊富な画像とグラフでわかりやすく講演していただいた。水産業は、南予地域において非常に盛んであるが、実際どの程度であるのか現状を把握している生徒は意外に少なかったようで、講演後の質疑応答の際には、養殖魚の新品種開発や真珠母貝の品種改良などについて、生徒から活発な質問が上がっていた。様々な取り組みで更なる発展を目指す水産業に対する生徒の興味・関心は高まっており、今後の課題研究に期待が持てる。

9. 12 SGアクション 報告	
日 時	令和元年9月12日(木) 5～7限 13:50～16:40
場 所	4年各教室、5年4組教室、第1PC室、生物教室、311教室
目的・仮説	夏季休業中に実施した宇和島フィールドワークの振り返りを行い、課題研究のより具体的な方向性を決定する。
実 践	専門家(3名)とのディスカッション 愛媛大学…坂本教授、村上教授、高木教授
参 加 者	4年生151人、5年4組44人
評価・所感	夏季休業中にすべての班が宇和島フィールドワークを行う予定であったが、1学期の急な行事予定変更などもあり、フィールドワークを実施できていない班もあった。実施した班は、フィールドワークの振り返りを行い、講師の方々や本校教員とのディスカッションを通して、課題研究内容の再検討や具体化を行った。また、実施していない班は、研究テーマを再検討し、フィールドワークを実施するための準備・計画を行った。 フィールドワークに行く際には、事前に質問項目を考え、訪問先に伝えておくと相手も対応しやすいことや、フィールドワーク実施後に、研究内容の大きな変更が必要になる場合もあることなどを講師の方々に指導していただき、本格的に研究がスタートした。

9. 26 SGアクション 報告	
日 時	令和元年9月26日(木) 5～7限 13:50～16:40
場 所	4年各教室、5年4組教室、第1PC室
目的・仮説	課題研究のポスター作りや話し合いを通して、各班の研究内容を深め、課題解決を図るようにする。
実 践	専門家(5名)とのディスカッション 愛媛大学…高木教授、山田教授、坂本教授、山本教授 松山大学…東淵教授
参 加 者	4年生151人、5年4組44人
評価・所感	各研究テーマについて、班ごとに講師の方々から指導された内容について話し合った。アドバイスをさせていただいたことを参考にしながら、研究を深めさせたい。また、班によっては研究を進めていくにつれて疑問点や問題点を抱えていたところもあった。研究の軸となる部分を見失わないよう指導をしていきたい。

10. 3 SGアクション 報告	
日 時	令和元年10月3日(木) 5・6限 13:50～15:40
場 所	4年各教室、第1PC室
目的・仮説	課題研究のポスター作りや話し合いを通して、各班の研究内容を深め、課題解決を図るようにする。
実 践	課題研究のポスター制作、専門家(石坂先生)とのディスカッション
参 加 者	4年生151人
評価・所感	研究テーマについて、インタビューやアンケートの集計結果を用いて、問題を深く掘り下げている班もあり、ポスターのレイアウトや内容構成を思案しながら楽しく作成している様子が見受けられ、ポスターの完成が楽しみである。

10. 17 SGアクション 報告	
日 時	令和元年10月17日(木) 5・6限 13:50~15:40
場 所	4年各教室、5年4組教室、第1PC室
目的・仮説	課題研究のポスター作りや話し合いを通して、各班が研究内容を深め、課題の解決を図る。
実 践	課題研究のポスター制作、専門家(山田教授)とのディスカッション
参 加 者	4年生151人、5年4組44人
評価・所感	インターネットや文献から得られた情報を鵜呑みにするのではなく、比較分析して、妥当かどうかを検討している姿が見られる。客観性の高い発表にするためにはどうすれば良いかを考えている証拠であり、情報を様々な角度から分析していることは評価できる。

10. 24 SGアクション 報告	
日 時	令和元年10月24日(木) 5~7限 13:50~16:40
場 所	4年各教室、5年4組教室、第1PC室
目的・仮説	興味のある分野について調べ、課題研究の方向性を定め、より具体的なテーマを設定することができる。
実 践	専門家(3名)とのディスカッション及びポスター制作 愛媛大学…高木教授、坂本教授、山本教授
参 加 者	4年生151人、5年4組44人
評価・所感	各コースに分かれ、班ごとに講師の方々から助言された内容について話し合った。疑問点や問題点を積極的に解決していこうという姿勢が見られた。講師の先生方からのきめ細かなアドバイスを参考にしながら、研究を進めてほしい。

10. 31 SGアクション 報告	
日 時	令和元年10月31日(木) 5~7限 13:50~16:40
場 所	4年各教室、5年4組教室、第1PC室
目的・仮説	興味のある分野について調べ、課題研究の方向性を定め、より具体的なテーマを設定することができる。
実 践	専門家(2名)とのディスカッション 愛媛大学…山田教授 松山大学…東淵教授
参 加 者	4年生151人、5年4組44人
評価・所感	各コースに分かれ、班ごとに研究内容の進捗状況を発表し、講師の方々から助言を頂いた。またPC室の学習では、インターネットでの調査やアンケート作成に一生懸命取り組んでいた。来週からはポスター制作の予定である。ポスターの完成が楽しみである。

11. 14 SGアクション 報告	
日 時	令和元年 11 月 14 日 (木) 5～7 限 13:50～16:40
場 所	4 年各教室、5 年 4 組教室、第 1 PC 室
目的・仮説	課題研究のポスター作りや話し合いを通して、各班の研究内容を深め、課題解決を図るようにする。
実 践	専門家(2名)とのディスカッション及びポスター制作 愛媛大学…高木教授、坂本教授
参 加 者	4 年生 151 人、5 年 4 組 44 人
評価・所感	各コースに分かれ、班ごとに研究内容の進捗状況を発表し、講師の方々から助言を頂いた。生徒から質問をし、研究内容を深めることができていた班もある中、本日からポスター制作に取り組み始めた。講師の方々のご指導や文献調査、アンケートを基に、よりよいポスターを作成できるように頑張ってもらいたい。

11. 21 SGアクション 報告	
日 時	令和元年 11 月 21 日 (木) 5～7 限 13:50～16:40
場 所	4 年各教室、5 年 4 組教室、第 1 PC 室
目的・仮説	興味のある分野の専門家との話し合いを通して課題研究の内容について吟味し、より具体的なテーマを設定することができる。
実 践	専門家(3名)とのディスカッション及びポスター制作 愛媛大学…村上教授、山田教授、山本教授
参 加 者	4 年生 151 人、5 年 4 組 44 人
評価・所感	各コースに分かれ、班ごとに研究内容の進捗状況を発表し、講師の方々から助言を頂いた。研究進度の速い班はある程度ポスターの内容ができ始めている。来月からは実際に発表をするようになるため、ポスターの完成に向けてあと一息頑張ってもらいたい。

12. 19 SGアクション 報告	
日 時	令和元年 12 月 19 日 (木) 5～7 限 13:50～16:40
場 所	4 年各教室、5 年 4 組教室、第 1 PC 室
目的・仮説	課題研究内容を発表し、質疑応答を繰り返すことで、さらなる課題点を見出し、より良い研究結果発表となるよう修正する。
実 践	コース別発表練習
参 加 者	4 年生 151 人、5 年 4 組 44 人
評価・所感	各コースに分かれて発表を行い、ポスターに掲載する内容を精選し、より良い発表となるための工夫を考えた。聴く側の生徒も発表を評価し、質疑応答まで行うなど、本番に近い発表となった。質問だけでなく、改善点なども話し合い、より良いものにしようという熱心に取り組むことができていた。また、聞き手によりわかりやすく伝えられるよう、それぞれの班が工夫を凝らしていた。2月の校内ポスター発表会が楽しみである。

1. 16 SGアクション 報告	
日 時	令和2年1月16日(木) 5～7限 13:50～16:40
場 所	4年各教室、5年4組教室、物理教室、第1PC室
目的・仮説	課題研究内容を発表し、質疑応答を繰り返すことで、さらなる課題点を見出し、より良い研究結果発表となるよう修正する。
実 践	コース別発表練習及び専門家(5名)とのディスカッション 愛媛大学…高木教授、坂本教授、石坂教授、山本教授 松山大学…東淵教授
参 加 者	4年生151人、5年4組44人
評価・所感	各コースに分かれ、各班がポスター発表を行った。講師の方々に専門の立場から、内容ことやポスターの体裁についての指導を受けた。ポスターの完成に向けた修正が求められる。これまでの成果が表れたポスターになることを期待する。

1. 23 SGアクション 報告	
日 時	令和2年1月23日(木) 5～7限 13:50～16:40
場 所	4年各教室、5年4組教室、物理教室、第1PC室
目的・仮説	完成したポスターで発表練習を行い、講師の方々のアドバイスを受け、よりよい研究結果発表になるよう修正する。
実 践	専門家(5名)とのディスカッション 愛媛大学…高木教授、山田教授、坂本教授、山本教授、村上教授
参 加 者	4年生151人、5年4組44人
評価・所感	各班はポスターをほぼ完成させ、時間、発表内容など本番を想定した発表練習を行った。講師の方々は各班に丁寧なアドバイスをくださり、非常にありがたかった。その話を受け、生徒たちはポスターをよりよいものにするためによく話し合い、最後の仕上げに取りかかっていた。本番の発表会に向けて、しっかりと研究のまとめをしてもらいたい。

2. 6 SGアクション 報告	
日 時	令和2年2月6日(木) 5・6限 13:50～15:40
場 所	体育館、武道場
目的・仮説	1年間かけて取り組んできた課題研究の成果を発表する。
実 践	校内課題研究ポスター発表会 愛媛大学…坂本教授、村上教授、石坂教授、山田教授、高木教授
参 加 者	3年～5年462人
評価・所感	4年生と5年生のSGⅡ型による校内課題研究ポスター発表会を行った。この1年間の研究成果をまとめた1枚のポスターを使って5分程度で発表した後、質疑応答の時間を2分程度とった。どの班も工夫を凝らした発表ができており、練習の成果が表れていた。また、ポスターを視聴する生徒も真剣に話を聞くことができていた。質問もいくつも出され、実りのある質疑応答になった。課題意識を常に持ち、幅広い視野を身に付けさせ、これまでに学んだ内容を大学などでさらに深く掘り下げて研究し、課題解決に取り組める生徒を増やしていきたい。

生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の研究テーマに引き続いて取り組んでいたもので、研究がさらに深まり、具現性の高いアイデアが出されており、素晴らしい発表でした。 ・ ポスターは見やすく、発表も分かりやすかったです。この提案を早く実現していただいて、私も参加してみたいと思いました。
-------	---

2. 13 SGアクション 報告	
日 時	令和2年2月13日(木) 5・6限 13:50~15:40
場 所	武道場
目的・仮説	現在の国際社会の情勢を知るためには、歴史を学ぶことが不可欠である。現在の社会と過去の出来事をつながり意識することで、複雑な現代社会において、より良く生きることができる。
実 践	講演「国際社会情勢を知ろう」 講師：福岡女子大学 馬場 優 先生
参 加 者	4年生 151人
評価・所感	2020年1月31日にイギリスがEUを離脱したことを受けて、今年は、イギリスのEU離脱(“ブレグジット”)に焦点を当て、講演をしていただいた。前半は、EUの設立経緯と特色について、身近なものを使って生徒に分かりやすく説明していただいた。生徒も興味を持って聞いている様子が見受けられた。後半はイギリスが抱える国際問題について説明していただいた。中には日本に通じる問題も含まれており、これからの国際社会を生きる私たちにとっての課題でもあると感じた。北アイルランドについてはバックストップを導入するというイギリスとEUとの共通認識から、歴史を学ぶことの重要性を改めて思い知った。

2. 20 SGアクション 報告	
日 時	令和2年2月20日(木) 5・6限 13:50~15:40
場 所	4年各教室
目的・仮説	一年間のSGアクションIにおける活動を振り返ることで、良かった点や反省点を共有し、来年度のSGアクションIIの活動をより良いものにできる。
実 践	振り返りシート
参 加 者	4年生 151人
評価・所感	一年間のSGアクションIの振り返りを行った。校内ポスター発表会でのルーブリック評価を各班で集計し、自分たちの良かった点や足りなかった点を話し合った。おおむね好評であったが、中には鋭い指摘をいただいた班もあり、今後の課題研究に向けてよい振り返りができた。次年度はさらに研究を深化させ、地元宇和島を元気にするような提案・企画を期待したい。

イ 課題研究フィールドワーク

7. 12～15 国内課題研究フィールドワーク 報告	
日 時	令和元年7月12日（金）～15日（月）
場 所	島根県隠岐
目的・仮説	大胆な行政改革と産業創出に取り組んできた海士町で、まちおこし・まちづくりのためのフィールドワークやインタビューを通して、現状と課題、その解決方法について学ぶ。全国各地の高校生が集い、友好を深めながら、「まちづくり」について考え、他県の高校生の意見を参考に、宇和島の今後について探究する。
実 践	フィールドワーク、グループワーク、発表
参 加 者	4年生3人
評価・所感	今回の「まちづくり甲子園」は、「支え合うつながりをつくる」がテーマであった。前回までは、「観光」や「一次産業」など、隠岐における課題をどのように解決するかに焦点を当てたテーマであったが、今回は隠岐に住む様々な職種の人々へのインタビューを通して、3人が三者三様で支え合うつながりをつくるという課題が各班に与えられた。隠岐には多くの移住者がいるが、なかなか横の関係が作りにくいという現状がある。そこで、生徒たちは島民や移住者が持つ特技や長所を分析し、お互いに助け合うことで新たな力を生み、そこから島の活性化につなげようと試行錯誤を繰り返した。1日目は、課題解決の道筋や今後の作戦を練るなど夜遅くまで話し合った。2日目は、朝からフィールドワークやインタビューを実施し、午後からは発表の準備に取り掛かった。本校生徒の班は、優秀賞の受賞には至らなかったが、班の中心となって意見をまとめたり、堂々と自分の考えを主張したりするなど、普段見ることのない積極的な姿を見ることができ、この2日間での成長を感じ取ることができた。
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・隠岐の最先端のまちづくりの様子を知ることができた。「ないものはない」をキャッチフレーズに、島にあるものを生かし、役場や島前高校の生徒が一丸となって特色ある島にしようとする姿勢に心を打たれた。全国から集まった仲間たちと、「つながり」をテーマに活動したこの2日間は、とても有意義な体験となった。 ・隠岐には全国から様々な特技を持った方が移住されており、その方々を結び付けることで新たな力を生み出そうとする今回の企画は、難問であったがとてもやりがいのある課題であった。優秀賞には届かなかったが、チームみんなで作成した案を、堂々と発表することができた。

8.4～7 国内フィールドワーク（八幡浜・別府） 報告	
日時	令和元年8月4日（日）～8月7日（水）
場所	愛媛県八幡浜市・大分県別府市
目的・仮説	まちづくりの分野において先進的な取組で実績を挙げている八幡浜市と別府市でのフィールドワークを通して、地域社会を支える方法を考え、それを実践できる人材の育成を図る。
実践	八幡浜市・別府市でのフィールドワーク
参加者	4年生10人
評価・所感	<p>台風によるフェリー欠航の影響で、3泊4日の日程へと変更した。前年度に引き続き、愛媛大学法文学部の米田誠司教授にも参加していただき、適宜助言をいただきながら本フィールドワークを実施した。初日は八幡浜市において、「市民に愛されるまちづくり」について学んだ。生徒たちは、「道の駅みなとオアシス八幡浜みなと」や「黒い商店街」の取組を通じて、観光客数を増加させるという視点に留まらず、市民たちが地元を盛り上げることが必要であることに気付いたようである。</p> <p>二日目以降の別府市におけるフィールドワークでは、油屋熊八氏の業績をたどるとともに、現在の別府市のまちづくりにおける取組を学んだ。「亀の井バス株式会社」や「別府温泉宣伝協会」の方に、油屋熊八氏の業績や人物像について詳しく説明していただき、生徒たちは真剣に耳を傾けていた。また、積極的に質問する姿勢も見られ、単なる受け身の研修ではなく、主体的な研修になっていたと感じる。</p> <p>このフィールドワークを通じて、感じたことや考えたことを、近い将来地元還元してくれることを期待している。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・SGアクションIの課題研究において、地域活性化の方策を研究していますが、今回のフィールドワークに参加して考えたことは、地域活性化のためにはもっと市民の声を取り入れるべきだということです。幅広い年代の方から意見を集め、よりよい宇和島をつくっていければと思いました。 ・まちづくりのために何ができるか、はっきりとした考えを持っていませんでしたが、小さなことが活性化につながることを感じ、将来まちづくりのために貢献したいと思いました。

12. 23 県内課題研究フィールドワーク 報告	
日 時	令和元年 12 月 23 日 (月)
場 所	株式会社えひめ飲料 (愛媛県松山市安城寺町 478 番地)
目的・仮説	愛媛だけでなく、全国で長年愛される POM ジュースで有名なえひめ飲料を見学することで、愛媛の産業を深く知り、今後の地域企業の在り方を考える。
実 践	フィールドワーク、質疑応答
参 加 者	4 年生 15 人、3 年生 12 人 計 27 人
評価・所感	SGH 県内フィールドワークの一環で、株式会社えひめ飲料松山工場を見学した。昨年度はみかんがトラックで工場に運ばれる様子は見学できなかったが、今回は大量のみかんを工場に搬入する様子を見ることができ、生徒たちもとても驚いた様子であった。また、ものすごい速さで絞られるみかんに圧倒され、-18℃以下の冷凍庫の中に入り、その寒さを体験することで厳重な品質管理体制を身を持って知ることができた。見学後に工場からいただいて飲んだ POM ジュースの味は格別であった。これを機に、日本を代表するみかんジュースをより好きになり、誇りに思っていたと感じた。
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・みかんがトラックで工場に運ばれる様子を見学することができた。今年のみかんが豊作で、多くのみかんが運ばれてきていた。みかんの糖度が高いときは、主に果実のまま販売し、逆に糖度が低いときはジュースなどに加工して販売するという仕組みを初めて知ることができた。 ・みかんの皮が七味とうがらしに使われていることに驚いた。また、みかんフィッシュの餌にも、ジュースを加工する際に出た皮や油を有効利用していることが分かった。

1. 18～22 海外フィールドワーク (台湾) 報告	
日 時	令和 2 年 1 月 18 日 (土) ～ 1 月 22 日 (水)
場 所	台湾 (台北市・台中市・桃園市)
目的・仮説	グローバル時代に対応する地域社会を支える人材育成のために、愛媛県産品が輸出されている海外へのフィールドワークを実施する。グローバル化する世界において、その変化に対応するために自ら考え、判断及び行動し、地域社会を活性化させることのできるグローバルリーダーの育成を目指す。
実 践	<p>○「愛媛フェア」における販売補助 台中市のスーパーマーケット「裕毛屋企業股彬有限公司(崇高店)」において、「愛媛フェア」の販売補助を行った。店頭販売において、現地の方々に中国語で声掛けをし、試食や試飲をしてもらうよう働きかけた。生徒たちは、「言葉の壁」を感じながらも、中国語や英語で積極的にコミュニケーションをとり、愛媛県産品の PR を行った。最初は恥ずかしがる様子も見られたが、中国語を覚えてくると、販売場所で呼びかけるだけでなく、自らお客さんに近づき、商品を PR するといった行動も見られた。さらに、同行していた通訳の方に、販売促進の際に役立つ中国語を尋ねるなど、主体的に考えて行動する場面も見られた。</p> <p>○(公財)日本台湾交流協会台北事務所の訪問 愛媛県庁から出向されている正岡主任より、台湾の歴史等について説明していただき、台湾が親日国である理由について、理解することができた。生徒たちは、台湾の歴史的背景に触れることで、日本と台湾との関係性について深く考えることができたようである。質疑応答の際には、今回のフィールドワークの研究テーマに則した質問にもお答えいただき、生徒たちが研究を進める上で、非常に有</p>

	<p>意義な時間となった。</p> <p>○西門町における街頭アンケート 台北の繁華街である西門町において、今回の研究テーマである「防災」と「食文化」についての街頭アンケートを実施した。このアンケートは、「日本と台湾との比較」という点を意識して作成したもので、このアンケート結果に基づき、研究成果をまとめる予定である。生徒たちはペアをつくって活動し、現地の同年代の学生や年配の方まで幅広い年代の方にアンケート回答に御協力いただくことができた。生徒は恥ずかしがることなく積極的に行動しており、前日の「愛媛フェア」における販売補助の経験が早速生かされていた。主に英語を使つてのコミュニケーションであったが、失敗を恐れることなく話しかけており、短期間のフィールドワークにおいても成長が見受けられた。</p> <p>○姉妹校永豊高級中学との交流 宇和島や本校を紹介するプレゼンテーションや、手作り防災グッズ(新聞紙スリッパ)づくりを行い、交流を深めた。このプレゼンテーションでは、宇和島の特産品や、本校の学校行事や今回のフィールドワークの研究テーマである「防災」について宇和島の手作り防災グッズづくりは、永豊高級中学の生徒にとって新鮮であったようで、非常に和やかな雰囲気の中で交流ができていた。本校の生徒たちは、自分の思いを伝えようと、自分のもっている能力を駆使して英語でのコミュニケーションを図っていた。</p> <p>○防災科学教育館の訪問 この防災科学教育館は、日本の阪神淡路大震災を契機として建造された。ここでも日本と台湾のつながりの強さを認識することができた。さらに、防災意識が高まっている台湾の防災事情について説明を受けたり、火災発生時における行動について学んだりした。この訪問は、生徒たちにとって、台湾の防災事情を知ること、自らの防災意識について改めて考える機会となった。地震や津波発生時に正しい判断をし、自ら行動できるよう普段から意識するとともに、地域や学校の防災意識の高揚を図る役割を担う存在になってほしいと感じる。</p>
参加者	4年生4人、5年生6人 計10人
評価・所感	<p>今回のフィールドワークでは、「防災」と「食文化」というテーマを設定し、宇和島市役所危機管理課の訪問等、事前学習を実施した上で研修に臨んだ。昨年度の調査結果に基づき、それを深めることを念頭に置いた研修を実施した。</p> <p>「防災」については、日本の阪神淡路大震災の発生を契機としてつくられた防災科学教育館を訪問し、台湾の防災事情について学んだ。生徒たちは、日本と台湾の防災意識が両者とも高まっていることを感じた。これを機に、家庭や学校での防災対策について改めて考えてほしい。南海トラフ地震による津波被害が予想されている宇和島市においては、私たち一人一人の防災意識の高揚を図る必要がある、今回のフィールドワークに参加した生徒たちがその一助を担ってくれることを期待する。</p> <p>「食文化」については、台湾の食事を経験する中で、様々な考察が生まれた。昨年度の調査結果において、「台湾は日本に比べて外食をする頻度が高い」というものがあり、それに基づいて調査をしていく中で、環境に対する台湾の意識の高さに気付いた。スーパーマーケットのフードコートには繰り返し使用可能なステンレス製の箸が備えてあったり、「マイ箸」や「マイストロー」を持ち運んでいたりと、日本にはあまり見られない取組が見られた。日本においても2020年7月1日より、プラスチック製買物袋の有料化が開始されるなど、環境保護に関する取組が実施される予定であるが、生徒たちには、台湾で学んだことを家庭レベル、地域レベルで実践して</p>

	ほしいと考えている。
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に海外に行ってみることで宇和島市の課題を新たに見つけることができたので、海外に行くことは自分たちの町、自分自身の課題について考えられて、とても良いことだなと分かりました。もっと色々な国に行ってみて異国の文化に触れてみたいと思うようになりました。 ・海外フィールドワークに行く前は、自分の意見を上手く相手に伝えることが苦手でした。しかし、海外フィールドワークでアンケートや実演販売を経験することで、以前に比べ、何事にも積極的に取り組めるようになり、自分の意見も伝えられるようになりました。 ・今までは、海外の文化に興味がなかったけれど、海外フィールドワークに参加して台湾の文化を体験して、学ぶ楽しさを知り、海外の文化をもっと知りたいと思うようになりました。私はあまり積極的に活動に参加したことがなかったけど、このフィールドワークを通して、いろいろなことに対して積極的に参加して、自分の知識を増やしていこうと思いました。 ・海外フィールドワークに行ってみて、町の清潔感や水の安全性、治安の良さの点において日本は本当に素晴らしい国だなと思いました。また、英語が苦手なため伝わるかどうか心配だったけど、伝えようという気持ちがあれば伝わるんだと思いました。

1. 18～22 海外課題研究フィールドワーク 報告	
日 時	令和2年1月18日(土)～22日(水)
場 所	シンガポール
目的・仮説	<p>シンガポールは様々な民族が入り交じる多文化社会であり、貿易、交通及び金融等の中心地となったビジネス先進国である。また、美しい町並みに現代的建築が立ち並ぶ観光地としても人気が高い。近年、急速な経済発展を遂げた背景に、どのような最新技術が導入されているのかを学ぶことができると考えた。また、資源の少なさを技術でどのように補っているのかも日本との比較から考えたい。以上のことから、今回の研究テーマをシンガポールの最新技術に設定した。実践と考察を通し、探究心や論理的思考力・分析力を養う。</p> <p>また、日本とは異なる文化や風習等を肌で感じることで、広い視野で物事を見る力や、自分とは異なる価値観や考え方を受け入れ、理解しようとする力を養う。</p>
実 践	<p>○シンガポール国立博物館 ネオクラシカル様式で建てられた国内最古の博物館で、シンガポールの成り立ちから現在までの歴史を知ることができた。マレーシアとの関係、中国との関係、太平洋戦争下での状況などがわかりやすく展示されていた。ラッフルズ卿に偶然発見されたところから始まり、様々な民族が移住し、現在に至ること、1965年建国という若い国であること、日本とも関係が深いことなど、生徒は初めて知ることが多かったようだ。シンガポールに対してぼんやりとしたイメージしか抱いていなかった生徒だが、しっかりとした輪郭を掴むことができ、最初に訪れることができよかったですと感じている。</p> <p>○ニューウォータービジターセンター、マリーナバラージ 水の生成に関する最新技術を英語の説明で学ぶことができた。シンガポールは国土が狭く平坦で貯水ができないこともあり、現在マレーシアから水を輸入している。そのため、安定した水の供給は、大きな課題となっていることがよく理解できる場所であった。展示はわかりやすく工夫されていたが、生徒は、英語での説明を理解することに苦労していた。施設を有効に使い、スポーツに励む人々を見て、健康寿命世界一の秘訣のようなものも実感できた。</p> <p>○グローバルリーダープログラム シンガポールの歴史と現在、日本との関係、国際化について英語による授業を受けた。難しい単語はイラストで示したり、生徒の反応を見ながら話を進めたりしていただき、生徒も講義に積極的に参加することができた。講義では、シンガポールの少子高齢化が深刻であること、それを移民が補うようになるとの話もあり、生徒にとっては日本との相違から深く考えさせられる内容が多かった。自己紹介をしたり、日本を紹介したりする際には、よくわかっているはずのことを言語化する難しさを感じ、最後に「将来世界がどのようなになってほしいか」という質問にそれぞれが英語で答える際には、漠然と心で思うことを伝える難しさを感じていた。生徒の発言をしっかり受け止めていただき、非常に有意義な時間になった。</p> <p>○企業訪問 シンガポールに支店を持つ伊予銀行を訪問した。まず、愛媛県庁から派遣されており、本校OBでもある谷中康太氏より「愛媛県の海外に向けての取組」についてお話をいただいた。SGHの活動の参考になるような具体的な説明に生徒は興味を持っていた。中でも「観光客にとって、一番の思い出は、現地の人とのふれあいで、優しくされた経験がリピーターを増やす」という話が印象的で、宇和島で自分たちにもできることがある、と思えたことは大きな収穫だった。伊予銀行の三好さんからは、シンガポールの現状を日本との比較の中で丁寧に説明いただいた。これからは、海外を考えないという選択肢はないことを聞き、英語を学ぶ重要性を実感した。また、</p>

	<p>「日本の育児制度は生ぬるい」との話にも衝撃を受けた。日本と同様に少子高齢化が進む国だが、女性の労働環境は全く異なる。育児しやすい環境でも少子化は加速していることから、少子高齢化に歯止めをかけるのは、育児のしやすさではないのかも知れないという新たな視点が生まれた。ビジネスの中心に身を置くという刺激も味わいながら全員が積極的に質問し、学びを深めることができ、有意義な時間となった。</p> <p>○habitat by honestbee</p> <p>完全キャッシュレスのスーパーで買い物を体験した。生徒は、初めての体験にもスムーズに対応できていた。日本はまだまだ現金を重視している傾向にあるが、今後、高齢者にも使いやすいものになれば人件費の削減にもつながり、便利であると感じたようだ。しかし、キャッシュレスを推奨すべきか否かについて深く考えるきっかけにもなったようで、現時点では、お金がなくなる感覚がないため破綻を引き起こしそうであるといった問題点を感じていた。</p>
参加者	4年生6人、5年生4人 計10人
評価・所感	<p>シンガポールには言語の壁がなく、英語を公用語としていることが今日の経済的発展につながっている。言葉に対する感覚が日本とは全く違うことも多くの研修を通して実感した。見学の途中、日本語を勉強しているという、現地の方に話しかけられた。日本の文化が好きで日本にも何度か訪れているということだったが、言語を学ぶ上では、このように積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大事だと思った。生徒も英語の大切さを痛感していたが、臆することなく挑戦してみる気持ちがなにより必要であると感じた。最新技術に関して、まずやってみようという姿勢が次のステップへつながるのではないかと。外からのものを積極的に受け入れること、挑戦すること、変化を恐れないことなどが「最新技術の実社会導入を推進している国」の背景にあることを様々な面から感じた。</p> <p>シンガポールは、若く小さい国である。だからこそ、国をどのように導くのかリーダーの存在が大きな影響を与える。そして資源のない国の宝は人である。教育は国の未来を築く上で最大、最強の手段と考えられている。生徒にもその自覚を促したいと強く感じた。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールの「無いなら、作る」という考え方に衝撃をうけました。私も「できないなら、解決策を考える」という人になりたいです。また日本の「あたりまえ」で物事を考えない方が良いな、と心から感じました。日本と価値観、文化、言語などたくさんの違いがあり、狭い視野だけでしか世の中を見られていなかったのが、広い視野で物事を捉えられるようになった気がします。 ・華やかな都市エリア、ローカルの雰囲気漂うエリアなどがすぐ近くに共存していたり、様々な人種の人それぞれの国の服装をしたりしていて、多民族国家であることを実感した。 ・シンガポールの文化は、それ独自というより、様々な文化が混ざって一つの文化ができた、という感じがする。また、ゴミの分別がないことに驚いた。シンガポールは地面にゴミが全く落ちていなかったのが、ゴミ問題に厳しいのかと思ったが、捨てた後のことは意外とおざなりなのかもしれないと思った。 ・シンガポールも日本と同様に少子高齢化が深刻な問題となっており、質の高い労働力確保のためにも外国人労働者の存在は必要不可欠であるが、地元の人々と外国人労働者との間でトラブルが起きやすいと聞いて、日本にも今後当てはまることではないかと予想できた。そんなとき、仲裁役になることができる、日本人と外国人との間での橋渡し役を将来務めたいと思った。異文化を偏見なく受け入れることを大切にしていきたい。全ての国と繋がることできれば、全世界での相互理解・相互扶助が可能になり、よりよい世界が実現できると思った。

令和元年度 S G H 校内ポスター発表会 課題研究一覧

ポスター番号	コース	4年 課題研究タイトル
4107	水産業	魚離れ民大幅ダウン!! ~おいしいお魚D oですか~
4205	水産業	宇和島の魚を世界へ! ~オレンジウェブ拡大なるか! ? ~
4306	水産業	未来の養殖を守ろう!!
4308	水産業	真珠広め隊 ~真珠をみなさんにお届けします~
4406	水産業	水産業のミライを考えてみた件
4407	水産業	みんなでつくる水産業 ~日本と世界を繋ぐ~
4201	柑橘業	農婚! ~愛媛のみかんを守れ~
4303	柑橘業	愛媛のみかんと愛あるクリスマスを♥
4304	柑橘業	農業という選択
4404	柑橘業	まさかの!? 柑橘とハロウィンのコラボ in Uwajima Kisaiya road
4405	柑橘業	農地をシェア!! びっちりばっちり空き農地☆
4105	まちづくり	港オアシス宇和島ささいや広場
4108	まちづくり	商店街の活性化計画 ~商店街でイベントを開こう! ~
4202	まちづくり	ミッション! 「宇和島の消滅を回避せよ!」
4207	まちづくり	世界に視野を広げ宇和島を見つめる ~集まれ! Foreigners~
4301	まちづくり	一泊きさいやおいでなせ ~宇和島空き屋民泊プロジェクト
4302	まちづくり	No children No life in Uwajima!! ~宇和島に子どもを! 上げよう! 宇和島の未来~
4401	まちづくり	トレジャーハントで観光客をハント!
4403	まちづくり	ウワジマオワール ~職で宇和島を救え~
4102	企業	WONSをやりがいのある会社へ
4204	企業	高田商店のポン酢を使ってオリジナルレシピ考案!
4208	企業	じゃこ天の番です ~給食でじゃこ天を人気メニューに~
4307	企業	恵比寿フジの活性化 ~ハッピー・フェアフェア・エピフジ~
4408	企業	南楽園を活性化!!
4101	文化	☆MATSURIを盛り上げるために☆
4104	文化	チャレンジ! 宇和島風トルコ料理
4106	文化	ウォーターアイランドで宇和島を活性化!!
4206	文化	日韓関係を良好に! ~我等にできること~
4402	文化	列車とランタンで活性化! ~予土線3兄弟 1・2・3ダー! ~
4103	防災	大災害に備えて ~避難所の環境と市民の意識の改善~
4203	防災	地域でハザードマップを作ろう ~防災意識の高いまちを作るために~
4305	防災	Boo!! Say!! 防災が宇和島の産業を救う!? ~外国人も避難しやすい街へ~

ポスター番号	コース	5年 課題研究タイトル
5409	水産業	宇和島産ヒラメをひろめよう!!!
5410	水産業	魚は嫌われてなかった ~魚離れのカギは調理に~
5412	水産業	鉄イオンで宇和海をきれいに
5413	水産業	真珠養殖で使い終わった貝の活用法はあるか?
5420	水産業	アートの方で海を救う!
5425	水産業	養殖魚と天然魚の違ってなんだろう? ~本当に美味しい魚を求めて~
5430	水産業	水産業で宇和島を豊かに
5439	水産業	魚の消費量を回復させるために
5445	水産業	魚の消費量を上げるために
5401	柑橘業	あなたの番ですin立間 ~移住体験×農家体験~
5406	柑橘業	ミカンパワーで〇〇!? ~宇和島の柑橘産業の発展と市民の健康を祈って~
5415	柑橘業	愛媛の柑橘の豊かな品種をアピール!
5421	柑橘業	みかん農家の減少に歯止めを!
5423	柑橘業	Number1 ORANGE of WORLD
5429	柑橘業	この柑橘フェスティバル、いーよかんしかしない!
5431	柑橘業	みかん大変身計画
5437	柑橘業	スイーツコンテストin宇和島
5438	柑橘業	Wedding with citrus
5444	柑橘業	みかんの知られざる成分”βクリプトキサンチン”って?
5402	まちづくり	南 ~小説家を呼ぶ方法~
5404	まちづくり	宇和島をショートムービーでPR
5408	まちづくり	香りのまち、宇和島
5416	まちづくり	都市伝説、実現します。一蛇口からミカンジュースー
5418	まちづくり	街の空き屋図書館
5419	まちづくり	うしおにキッチンカー
5424	まちづくり	”買い物弱者”にやさしい町に
5427	まちづくり	~お遍路ウォッチ~
5432	まちづくり	テレワークで地方創生
5433	まちづくり	「野宿」で宇和島を救う!!
5435	まちづくり	Ehime産人気者 ~動画で魅力を伝えよう~
5403	企業	みんなでつくる宇和島観光ホームページ
5411	企業	子どものために遊び場を
5417	企業	外国人と私たちをつなぐ架け橋 ~U-CATから考える~
5422	企業	宇和島を”食”から盛り上げる!
5428	企業	宇和島の企業を盛り上げよう! ~企業の交流~
5442	企業	バイオミクスで宇和島活性化!!
5407	文化	宇和島市に”涙活”を!!!
5414	文化	イスラム圏で離乳食を!!!
5436	文化	キャッシュレスで商店街を盛り上げよう
5440	文化	宇和島の医師の負担を軽減させる ~アジアの医師と働く~
5426	海外輸出	日本の味を海外へ!
5441	海外輸出	NBA誘致大作戦
5443	海外輸出	和食で外国人のハートと胃をゲット!?

(2) 課題研究以外の取組

5. 9 グローバル・スキル 報告	
日 時	令和元年5月9日(水) 2限 9:55~10:45
場 所	図書館
目的・仮説	海外(特にアメリカ合衆国ハワイ州)においても、日本語を外国語として学習している人々がいることを実感させたい。また、これまでに自分たちが学んできた英語が実際にコミュニケーションに役立つことを感じさせ、英語学習の動機付けを高めさせたい。
実 践	Skypeによる国際交流活動
参 加 者	6年1・2組27人
評価・所感	6年生のグローバル・スキルⅢを受講している生徒が、ハワイのプナホウ・スクールの高校生とスカイプを利用した交流活動を行った。このスカイプ交流は、タブレットを使ってビデオ通話を行うもので、本校では年間を通じて定期的実施している。本日の交流においても、積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度や、様々な話題を通じて異文化理解を深めようとする姿勢が非常に印象的であった。今後も広い視野を持って、多くのことにチャレンジしていくことを期待している。

6. 7 グローバル・スキル 報告	
日 時	令和元年6月7日(金) 4限 11:55~12:45
場 所	図書室
目的・仮説	ハワイ州ホノルル市に位置するプナホウスクールの生徒とのインターネットを介した交流活動を通して、英語を用いたコミュニケーションを実際に体験する。また、外国から日本がどのようなイメージを抱かれているのかに気づかせ、異文化理解の足掛かりとしたい。
実 践	プナホウスクールの生徒たちが作成した「自分たちの理想の日本旅行」を紹介する動画を視聴し、それに対する感想・アドバイスを英語と日本語で書いたものを送信する。
参 加 者	6年1・2組27人
評価・所感	自分たちが外国語(英語)でプレゼンテーションを行う際に、どのようなことに気を付けたらよいのかを、いつもとは異なる視点で考えさせることができたようだ。こちらの生徒達は改善のアドバイスとして、「抑揚をつけて読むこと」や、「顔を上げて堂々と発話すること」などを挙げていたが、次に自分たちが英語でプレゼンテーションを行う際には、そうした点に配慮できるようになることが期待できる。ただ、そういった基本的なことが全ての生徒について満足のいく程度にできているかどうかは不安が残る。今回の活動を思い出しながら話をする練習を行うよう指導したい。

10.8 1.8 グローバル・スキル 報告	
日 時	令和元年10月4日(木)7日(月)4限 11:55~12:45 令和元年12月16日(月)17日(火)4限 11:55~12:45
場 所	図書館
目的・仮説	外国(アメリカ合衆国)で日本語を学んでいる高校生との動画交換を通じて、実践的な英語発信力を向上させるとともに、海外での日本語教育や日本文化の受容の様子を知ることによって異文化理解を深める。
実 践	アメリカ合衆国ノースキャロライナ州のチャペルヒル高校・イーストチャペルヒル高校の生徒たちにインターネットを介して動画を送信した。相手校の生徒達は外国語として日本語の講座を選択している。日本語と英語を交えてのプレゼンテーションの様子を3分程度の動画にまとめて相互に視聴した。事前準備として2時間程度を活用し、この日に送信した。
参 加 者	6年生1・2組27人
評価・所感	より良いパフォーマンスを記録するために、何度も撮影し直す姿が多く見られた。実際に撮影するとなると、人に見られるということ意識する分、緊張を強いられるものである。パフォーマンスの際に、実際に聴衆が周囲にいるわけではないのだが、聞き取りやすい英語での発話、問の取り方、目線など、いつも以上にプレゼンテーションを意識した活動となった。その練習・実践の場としては十分機能していたように思える。本校のマスコットキャラクターの着ぐるみを用いて、友好的な雰囲気を演出するなど、それぞれの班の工夫が見られた。 残念ながら、必ずしも双方向のコミュニケーションが活発に行われたわけではなかったかもしれないが、生徒達はアメリカの高校生が懸命に日本語を学習している姿を見て、外国語学習の意義を改めて認識できたようだ。

(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程外の取組

4. 20 うわじま子ども観光大使基礎講座 報告	
日 時	平成31年4月20日(土) 10:00~12:00
場 所	津島やすらぎの里
目的・仮説	宇和島の歴史・文化についての小学生対象の授業を行い、宇和島の魅力をクイズやグループワークをとおして伝えることで、地元を好きになってもらうことを目的とする
実 践	パワーポイント・ワークシートを用いての授業
参 加 者	4年生5人
評価・所感	4月20日(土)、津島やすらぎの里で、うわじま圏域子ども観光大使実行委員会の主催する「うわじま子ども観光大使講座」が行われ、その基礎講座に本校生徒5名が講師として参加した。 うわじま子ども観光大使講座とは、宇和島圏域の魅力を体感し、宇和島圏域を誇りに思う子どもたちを育てるプロジェクトである。実行委員会の信藤明秀氏によるオリエンテーションの後、総勢53名の小学生の参加者の前で、本校生徒5名が、「わたしたちのまちをもっと好きになろう」というテーマでプレゼンテーションを行った。最初は緊張していたが、小学生たちからパワーをもらい、楽しくまた有意義な時間を過ごすことができた。
生徒の感想	・小学生の前で授業をすることは緊張したが、クイズに元気に答えてくれてうれしかった。小学生は意外と宇和島のことをよく知っていると感じ、私たちが研究してきた内容にとっても興味を示してくれたので、やりがいがあった。 ・機会があればどんどん出かけて行き、このような活動を行ってみたいと思った。

5. 30 「高校生まちづくり課」プロジェクト 報告	
日 時	令和元年5月30日(木) 17:30~18:30
場 所	宇和島市役所
目的・仮説	人口減少対策の一つとして、若者が活躍できる場所を提供することで、地域との関わりを持たせ、郷土愛を醸成することを目的としている。
実 践	第1回ワークショップ 「高校生まちづくり課」発足式
参 加 者	4年生7人
評価・所感	宇和島市「高校生まちづくり課」プロジェクト第2期生の発足式が市役所で行われた。本年度は、市内高校生24名、そのうち本校から4年生7名がプロジェクトに関わることとなり、市長から一人ひとりに委嘱状と名札、名刺が手渡された。1期生は、宇和島活性化のためのプランを確立し、この2期生はそのプランをブランドブックに仕上げ、なおかつキャラクターまで制作するのが大きな目標となる。宇和島活性化のために、この1年間積極的に活動し、後世に残るものを形作ってほしい。

6. 11 ハワイインターン生来校 報告	
日 時	令和元年6月11日(火) 5限 13:50~14:40
場 所	自教室
目的・仮説	ハワイ大学インターン生との交流を通して、愛媛県とハワイ州の友好親善を推進するとともに、国際感覚を高めることができる。
実 践	・インターン生によるハワイ及びハワイ文化の紹介 ・質疑応答
参 加 者	5年4組44人
評価・所感	公益財団法人愛媛県国際交流協会による交流事業の一環で、ハワイ大学から短期インターン生2名が来校した。2名による自己紹介とハワイについての英語によるプレゼンテーションでは、内容を理解し、英語で質問する生徒の姿がとても印象的であった。このような実際の異文化交流は、今後生徒の国際感覚を養う上で大きな糧となると感じた。

7. 29~8. 14 アデレード短期語学留学 報告	
日 時	令和元年7月29日(月)~8月14日(水)
場 所	オーストラリア アデレード
目的・仮説	短期語学留学を実施し、異文化の中に身を置くおことで、豊かな語学力やコミュニケーション能力が身に付いた、国際的に活躍できる「グローバル人材」を育成できる。
実 践	フリンダース大学における語学研修、現地家庭でのホームステイ
参 加 者	4年生16人
評価・所感	松山東高等学校と合同で、短期語学留学を行った。本年度も昨年度同様、生徒全員が現地家庭にホームステイをしたが、道に迷う、バスを乗り間違える等の緊急事態にも生徒自身で対応しやすくなるよう配慮して、二人一組でホームステイをし、行動を共にした。日中はアクティブラーニングを主体とした現地大学での語学研修、夜も各家庭でホストファミリーと英語でコミュニケーションを図る、というまさに英語漬けの2週間であった。当初は、オーストラリア人の話す英語のスピードや発音、アクセントに戸惑い、委縮していた部分もあったが、毎日英語を話さねばならないという環境に身を置いたことで、積極的に意思疎通を図るようになり、その柔軟さには目を見張るものがあった。異文化に触れることは、楽しいことばかりではなかったはずであるが、困難を自ら解決しようとする生徒達の姿に、成長とたくましさを感じた。生徒にとっては自分の成長を感じられる一生忘れられない研修となったようだ。
生徒の感想	・オーストラリアの授業と日本の授業には、たくさんの違いがありました。教室で座って勉強する時間ももちろんありますが、授業の多くの時間は教室外に出て行う活動に費やされました。最終日のプレゼンテーションに向けて、現地の大学生や日本人にできるだけたくさんインタビューを行いました。自分たちの英語が相手に通じないということがあり、苦勞もしました。英語を上達させるためには、英語を話す人しかいない環境に自分を追い込むことが必要だと思いますが、アデレードの環境は、日本語を話す機会が少なく、たくさんの生の英語に触れることができました。 ・ホームステイを通して気付いたことは、日本人とアデレードに住んでいる人々では、仕事やサービスに対する考え方が違うということです。家族全員と関わる時間が多いことから、家庭を大切にしたり、自分の余暇を楽しんだりする人が多いのではないかと思います。それに加え、ショッピングモールの営業時間や、バスサービスの在り方などから推察するに、オーストラリアには、仕事に対して日本

	<p>の「おもてなし」のような概念はなく、「与えられたことをこなし、プライベートの時間を大切にするために働く」という認識を持っているのではないかと思います。</p> <p>・アデレードに行く前は、コミュニケーションの取り方など不安もありましたが、ホストファミリーはとてもフレンドリーで、英語もゆっくりと話してくれたので安心しました。実際、オーストラリアは多民族国家で、様々な英語があふれていました。きれいな英語を話す人は多くはありません。日本人なまりの英語でも、間違いを恐れず自信を持って話すこと、そして一生懸命伝えようとする姿勢が大切だと思います。コミュニケーションは、お互いのことを理解しようとすることで成立するものだと実感することができました。</p>
--	---

8. 4～8. 9 台湾ホームステイ（永豊高級中学との交流） 報告	
日 時	令和元年8月4日（日）～8月9日（金）
場 所	台湾 桃園市
目的・仮説	海外でのホームステイを体験することで、国際的視野とグローバルマインドを養うことができる。
実 践	姉妹校提携先の生徒・家族との交流、学校関係者との交流
参 加 者	5年生1人
評価・所感	<p>本事業は、生徒の社会的スキルの育成という視点から、昨年度より引率教員をつけずに行っている。空港までは教員が引率したが、搭乗手続きや入国手続きは生徒自らが行き、問題なく出発した。台湾到着後は、現地の空港に姉妹校である永豊高級中学の職員の方や、ホストファミリーの皆さんに迎えに来ていただき、安心して研修を始めることができた。</p> <p>学校では、台湾の生徒とともに授業を受け、日台の授業スタイルの違いや生徒たちの積極性に驚いた。ホームステイでは、主に英語を使って意思疎通を行ったが、思い通りに表現できないもどかしさがありながらも、ホストファミリーの優しさに助けられ、言語外でのふれ合いの大切さを認識することができた。生徒にとって素晴らしい異文化体験となった。</p>

8. 5 高校生留学フェア 報告	
日時	令和元年8月5日(月)
場所	にぎたつ会館
目的・仮説	海外での自分たちの体験を発表し、他の人々と情報を共有することで、全県下的にグローバルマインドを定着させる。
実践	短期語学留学経験のプレゼンテーション
参加者	5年生2人
評価・所感	留学を志す県内の高校生を対象に、留学情報を提供する「留学フェア」が行われた。この会では、昨年度アデレード語学留学に参加した本校生徒のうち代表者2名が、自分たちの経験を通して感じたことや学んだことを、プレゼンテーションソフトを使って発表した。生徒たちは堂々と意見を発表し、これから留学したいと思っている高校生に対して自分たちの経験が還元できたことに満足を感じているようであった。
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて自分たちの活動を振り返ってみると、貴重な体験をしたのだと思いました。愛媛県の高校生にも、海外に出て自分で体験してみる大切さを伝えることができましたと思います。 ・いろいろな機会を利用して、高校生が海外体験をしていることを知りました。楽しいばかりではなく苦勞したことや驚いたことなども率直に発表していて、とてもおもしろかったです。

8. 8 OCEAN' s47 報告	
日時	令和元年8月8日(木)
場所	衆議院議員第一会館
目的・仮説	OCEAN' s47 イベントに参加した後、地元に戻り、「海洋プラスチックごみ問題」やSDGsなど、海洋関係で知り得た情報を、学校やその他の場所で「生徒自らが啓発・発信する」ことを目的とする。
実践	<ul style="list-style-type: none"> ・各都道府県代表の生徒との海洋ごみについての協議 ・各企業や文部科学省の方々による講義 ・各国から参加したこどもたちの環境に対する意見の傍聴
参加者	6年生1人
評価・所感	<p>午前中の活動では、海の専門家の方たちの講義を聞き、ディスカッションを行った。各大学や企業で環境問題に取り組んでいる方々から、海のプラスチック問題が深刻化していること、各企業は環境のことを考え、使う素材を工夫してごみを減らす努力をしていることを知り、海を守るために一人一人の意識がまずは大切であることを改めて認識した。</p> <p>午後からの「地球こどもサミット2019」の傍聴では、世界各国のこどもたちが話し合いに参加していた。環境について、小学生から高校生までの意識の高さを感じた。</p> <p>海の問題の解決を図ろうとする活動は世界共通での取組であり、参加した生徒たちが世界に発信したメッセージを、各県から参加した高校生たちが地元にも持ち帰り、啓発活動を地道に続けていくことが大切であると感じた。</p>
生徒の感想	各都道府県代表の生徒と環境問題について話し合う中で、他県の生徒たちは、同じ高校生とは思えないくらい豊富な知識があった。海のプラスチック問題は知っていたが、ここまで深刻な問題になっているとは気付かなかった。環境問題には、各界挙げて取り組んでいるということが分かった。イベント後、他県の生徒や企業の方と名刺交換をし、交流を深めたことは今後の大きな糧となった。

8. 19 「高校生まちづくり課」プロジェクト 報告	
日 時	令和元年8月19日(月) 14:00~17:00
場 所	パフィオ宇和島
目的・仮説	人口減少対策の一つとして、若者が活躍できる場所を提供することで、地域との関わりを持たせ、郷土愛を醸成することを目的としている。
実 践	第2回ワークショップ
参 加 者	4年生7人
評価・所感	宇和島市「高校生まちづくり課」プロジェクトの第2回ワークショップが、パフィオ宇和島で行われた。今回は、第1期生の活動の振り返りと、第2期生の今後の活動計画についての大まかな説明があった。その中で、今年のプロジェクトの柱は、ブランドブック作成であると発表があった。宇和島の九島を舞台にしたストーリーを形作っていき、その中の登場人物をご当地キャラクターにしていくのがこの2期生の使命であり、生徒たちはメモを取りながら真剣に今後のプランを聞いていた。どのようなものができるのか、1年後が楽しみである。

8. 24 柑橘シンポジウム2019	
日 時	令和元年8月24日(土) 13:30~16:50
場 所	宇和島市立吉田公民館 大ホール
目的・仮説	柑橘産業に関わる方々の講演を聞き、得られた知識を自らの課題研究に活かしていく。
実 践	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛大学大学院農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンターの副センター長による講演 ・柑橘産業の関係者によるパネルディスカッションの聴聞
参 加 者	本校生徒20人
評価・所感	愛媛大学大学院農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンターの副センター長で本校の課題研究の指導にもあたっていただいている山田寿教授の講演を聞き、柑橘産業に関する知見を深めた。パネルディスカッションでは、「南予地域の柑橘産業の更なる発展を目指して」という題目で、多方面の関係者の方々の意見を聞くことができたので、生徒の課題研究にも還元していきたい。
生徒の感想	柑橘産業発展についてのパネルディスカッションに興味があったので参加しました。実際に現場で働いている農家の方、第一線で研究されている方など、様々な立場からの意見や取り組みを聞き、視野を広げることができたと感じています。品種研究や災害復興など、愛媛や南予の柑橘産業の現状を学び、課題研究を進めていく上で必要な知識を得るとともに、モチベーションも高まりました。

8. 26～3. 19 アジア架け橋留学生プロジェクト 報告	
日時	令和元年8月26日(月)～3月19日(木)
場所	本校
目的・仮説	豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を共有し、国際社会において活躍できる「グローバル人材」を育成する
実践	アジア高校生架け橋プロジェクトでの留学生の受入
参加者	パオラ・マルティア・アディティア・プトリ (インドネシア)
評価・所感	<p>本年度からの取組として、「アジア高校生架け橋プロジェクト」に賛同し、インドネシアからの留学生1名を受け入れることとなった。受け入れに際しては、留学生、ホストファミリー、本校教員及び生徒が、お互いに適応できるか懸念もあったが、実際にやって来た留学生(通称ティラスさん)は、非常に聡明で穏やかな人物であり、日本の高校生活に優れた適応力を発揮した。日本語の習得度合いが高まるにつれ、クラスや学年を越えた国際交流を行うようになった。例えば、自国の文化を紹介するパワーポイントを自ら作成し、民族衣装を纏って1年生の全クラスで発表したり、本校が発行する新聞に、日本の生活についてのエッセイを、英語と日本語で寄稿したりするなどの積極的な行動が見られた。本校生徒にとっても、文化的背景の異なる留学生が常時学校に在籍し、いつでもコミュニケーション可能な状況にあることで、異文化を身近なものとして肯定的に捉える視点が養われた。</p> <p>留学生、本校生徒双方にとって非常に意義深いプロジェクトであり、次年度からも継続していきたいと考えている。</p>
生徒の感想	<p>私が留学先に日本を選んだ理由は、日本が私の大好きな国で、とても興味を持っており、日本という美しい国の文化について学びたいと思ったからです。</p> <p>私は、宇和島でたくさんの新しいことを体験しました。日本文化、生活様式、学校生活、自然環境など日本の様々なことを学ぶことが好きです。その中で、私が最も日本の好きなところは、日本人はみなお互いに尊重しあっているところです。</p> <p>学校でも多くの新しい友人がいろいろと助けてくれて、楽しく学校生活を送ることができました。</p> <p>また、日本の「お正月」を初めて経験しました。故郷のインドネシアのものとは違って、とても面白かったです。</p> <p>私はここでの生活を心から楽しんでます。故郷に帰っても、またいつか宇和島を訪れたいと思います。</p>

9. 15 防祭～未来のウワジマ防衛タイ～ 報告	
日時	令和元年9月15日(日) 10:00～12:00
場所	きさいや広場
目的・仮説	宇和島市の各学校の防災に関する取組を共有することで、防災意識を高め、有事の際に一人一人が迅速に行動できるようになる。
実践	プレゼンテーション
参加者	5年生5人
評価・所感	<p>各学校の代表者が集い、自校の防災に関する取組のプレゼンテーションを行った。本校は、昨年度に実施した台湾フィールドワークにおいて、研修のテーマの一つが「防災」であったため、その成果を深化・発展させる形で発表を行った。また、各学校の特色を生かした取組に触れることで、様々な観点から防災について考えるよい機会となった。今後も、一人一人の防災意識を高め、学校と地域が連携して防災に取り組んでいきたい。</p>

9. 19 夏季FW報告会 報告	
日時	令和元年9月19日(木) 5～7限 13:50～16:40
場所	本校体育館
目的・仮説	夏季FWの活動報告をし、FWを通して学んできたことを他の生徒に還元する。
実践	夏季FW報告会
参加者	3年生～6年生614人
評価・所感	<p>夏季休業中に行われたFWの活動報告の報告会が行われた。今年度は、「OCEAN's47 報告」「台湾ホームステイ」「アデレード短期語学留学」「隠岐FW」「八幡浜・別府FW」の五つの内容の発表を行った。どの発表班も、準備・練習がよくできていて、活動内容がよくわかる発表であった。国内FWの発表では、それぞれの地域のまちづくりから学んだことを、宇和島にどう生かすことができるのか、というところまで考えることができていた。発表の後の、質疑応答の時間では、活発なやり取りが行われた。特に、6年生からの質問が多く、本質を突くものばかりであった。6年生がこれまでのSGHの取り組みを通して身に付けた能力がよく分かった。発表と質疑応答を合わせて、FWの内容が参加生徒に還元できていたので、大変良い報告会であった。</p> <p>また、本報告会后、愛媛県ブランド戦略課の中村優太氏により、「愛媛県産かんきつの海外での販路拡大について」と題して講演していただいた。愛媛県産品の販路の現状と今後の展望、愛媛県産というブランドを守ることの重要性について分かりやすく教えていただき、生徒は興味・関心を持って講演を聞くことができていた。質疑応答の際には今後の課題研究に参考になるものが多くあった。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域と宇和島を比べることで、どうすれば宇和島をよりよくできるかを考えていて、素晴らしいと思った。 ・台湾やアデレードでのホームステイの様子を聞いて、海外ホームステイへの興味が高まり、チャレンジしてみたいと思った。 ・報告会後の講演で、勝手にブランドが使われてしまうと、イメージが崩れてしまう危険性があり、それによってかんきつの生産者にも多大な影響が及ぶことを知り、愛媛ブランドを守ることの重要性を学んだ。

9. 29 「高校生まちづくり課」プロジェクト 報告	
日時	令和元年9月29日(日) 14:00～18:00
場所	九島地域
目的・仮説	人口減少対策の一つとして、若者が活躍できる場所を提供することで、地域との関わりを持たせ、郷土愛を醸成することを目的としている。
実践	第3回ワークショップ(九島フィールドワーク)
参加者	4年生7人
評価・所感	<p>宇和島市「高校生まちづくり課」プロジェクトの第3回ワークショップが行われた。宇和島市活性化の目玉として九島を舞台にするプランが第1期生から出され、今回はその九島の歴史に触れ、名所を巡ることで、九島の良さを再発見する目的でフィールドワークが行われた。九島を歩くのが初めてという生徒も多く、地元の神社や景色のきれいな名所を巡り、写真に収めていった。ブランドブックのストーリーの構想を練る生徒もおり、第3回のワークショップがとても楽しみである。</p>

11. 7 愛媛県高等学校国際教育研究協議会 報告	
日時	令和元年11月7日(木)
場所	愛媛県立新居浜西高等学校
目的・仮説	広く国際知識を知り、海外事情に対する認識を深めることで、グローバル・リーダーとしての素養を身に付けることができる。
実践	・講演会「SDGsと私」の聴講 ・生徒同士による研究協議
参加者	4年生2人、5年生2人
評価・所感	<p>国際教育研究協議会は、毎年東中南予のいずれかの高校で行われる国際教育の振興を図ることを目的とした会である。今回は、新居浜西高等学校での開催であった。午前中の講演では、SDGs(持続可能な開発目標)の普及教育を行っているNPO法人えひめグローバルネットワーク代表理事の竹内よし子氏を講師にお迎えし、諸問題に、これから自分のこととしてどのように取り組んでいくかを、生徒・教員ともどもワークショップ形式でかるたを作成しながら考えた。午後からは新居浜西高校の取組が紹介され、本校生徒も積極的に質問し、見識を深めることができた。その後の分科会では、生徒は6人の班に分かれ、SDGsについてより深くお互いに意見を交換した。最後に自分たちの班の意見をまとめ、全員の前でそれぞれの班が発表を行った。</p> <p>SDGsについての見識を深め、自分たちの身近な問題に当てはめて考えることの大切さを学べた大変良い機会であった。</p>

11. 8～10 全国高校生まちづくりサミット2019 報告	
日時	令和元年11月8日(金)～10日(日)
場所	福井県鯖江市
目的・仮説	福井県鯖江市において、2014年4月からスタートした女子高校生が主役となったまちづくり推進プロジェクト「鯖江市役所JK課」の先進的な取組を視察し、宇和島の今後について探求する。また、全国からまちづくり活動を行う高校生を集め、それぞれの取組の発表と、これからの高校生の居場所と出番の更なる創出に向け、交流と意見交換による若者の主権者意識の醸成を目指す。
実践	フィールドワーク、グループワーク、発表
参加者	4年生4人
評価・所感	<p>本校生徒4人が、福井県鯖江市で行われた「全国高校生まちづくりサミット2019」に参加した。生徒たちは宇和島市主催の「高校生まちづくり課」のメンバーでもあり、鯖江市の先進的なまちづくりを視察するために選ばれた。サミットには、1府8県12団体の67名の高校生が参加し、盛大に執り行われた。1日目は、鯖江とはどんな町かを知るために、西山公園・西山動物園・めがねミュージアム・うるしの里会館を巡るツアーに参加した。生徒たちは鯖江の町を堪能し、緊張がほぐれた様子であった。夜はサバエ・シティーホテルにて開会式・夕食会があった。生徒たちも他校の生徒と打ち解け、和やかな雰囲気であった。2日目は、活動事例発表会が行われ、各地のユニークな実践例が発表され、生徒たちは真剣にメモを取っていた。生徒たちが行った「宇和島市まちづくり課」の発表も、若者が故郷に帰れるまちづくりの一例として、高い評価を受けた。3日目は、「ピカピカプラン15」に参加した。この企画は、ハロウィンが近かったということもあり、全員が仮装をして町にゴミを拾いに行くというもので、「ゴミ拾い=楽しい」と思ってもらうことを目的に行われた。生徒たちも仮装を楽しみながら明るくゴミ拾いをしており、笑い声が響き、鯖江の町全体が明るくなった。最終的に129.3キロのゴミが回収され、生徒たちの顔には達成感が表れていた。</p>

	<p>閉会式後は、仲良くなった他校の生徒と別れを惜しみながら帰路についた。鯖江市役所JK課プロジェクトは、これまでどうしても参加の少なかった高校生、特に女子を対象にまちづくりチームを結成し、自らが企画した地域活動に大人を巻き込みながら実践することを通じ、若者・女性が進んで行政参加を図っていく新たなモデル都市となることを目指しており、今回の3日間のサミットでも、企画・運営に女子高校生が積極的に携わり、鯖江市を元気にしたいと活動する姿は、本校生徒にとっても刺激を与えたと感じている。この経験を活かし、今後の「高校生まちづくり課」でも中心となって宇和島市を盛り上げることを期待する。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・鯖江の女子高校生の積極性と、街を元気にしたいという思いに終始圧倒された3日間であった。様々なイベントを企画したり、地元商店と商品を共同開発したりと活動の幅は驚くほど広く、私たちが「高校生まちづくり課」のプロジェクトを早く実現させたいと感じた。 ・全国の先進的な取組を知ることができ、刺激になった。私たちと同じように、高校生が主となって地元を元気づけている町がたくさんあることに驚いた。今回知り合った仲間は、まちづくりに関する良きパートナーでもあり、ライバルでもあるので、これからも切磋琢磨して地元、そして日本を元気にしていきたい。

11. 16 「高校生まちづくり課」プロジェクト 報告	
日 時	令和元年 11 月 16 日 (土) 14:00~18:00
場 所	宇和島市役所
目的・仮説	人口減少対策の一つとして、若者が活躍できる場所を提供することで、地域との関わりを持たせ、郷土愛を醸成することを目的としている。
実 践	第4回ワークショップ
参 加 者	4年生7人
評価・所感	「高校生まちづくり課」プロジェクトの第4回ワークショップが行われた。今回はブランドブックに入れるストーリーを考え、紙芝居に仕上げる作業を行った。前回九島をフィールドワークし、そこで見た名所や歴史をストーリーに取り入れ、独創的なストーリーが制作されていた。あわせて、メインキャラクターの制作も行われ、練り物を主体とした個性的なキャラクターが次々と出来上がった。次回は市長の前で、ストーリーを発表する予定であり、完成がとても楽しみである。

12. 4 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 報告	
日時	令和元年12月4日(水)
場所	愛媛県立伊予農業高等学校
目的・仮説	広く国際知識を知り、海外事情に対する認識を深めることで、グローバル・リーダーとしての素養を身に付けることができる。
実践	スピーチコンテストへの参加
参加者	4年生1人
評価・所感	今回の国際教育生徒研究発表会には、意見発表の部で7名、留学生スピーチに4名、研究発表の部に4校の生徒が参加した。今年はSDGsを基盤にした意見発表が多く見られた。これからのトレンドになっていきそうな気配がした。本校から出場した生徒は、前日まで考査を行っていたこともあり、スピーチの練習不足が否めない中、精一杯自分の経験した活動からの学びを、聴衆である伊予農業高校1年生たちとシェアすることができた。できれば日程を東予や南予の期末考査も加味して設定してもらえると、参加者はもっと増えるのではないかと感じた。他校の取組によって、参加生徒が大いに刺激を受けた有意義な会であった。

12. 8 第14回エコノミクス甲子園愛媛大会 報告	
日時	令和元年12月8日(日)
場所	エミフルMASAKI
目的・仮説	経済について学んできた成果を検証する。
実践	エコノミクス甲子園愛媛県大会への参加
参加者	4年生2人
評価・所感	第14回エコノミクス甲子園愛媛県大会に4年生の2名が参加した。経済分野に関する筆記テストと早押しクイズの2種目で優勝をかけて争われた。参加生徒は、現在履修中の現代社会の教科書を復習したり、プリントを解いたりして基礎知識の習得に時間を割き、今大会に臨んだ。他校のチームに食らいついたものの、残念ながら予選を通過することはできなかった。今大会を通して、他校のレベルの高さを知るとともに、経済に関する興味・関心をより高めることができたものと実感している。この経験をバネに、来年もぜひ挑戦してもらいたい。
生徒の感想	他校のレベルの高さに驚いた。筆記問題では正答できたものもある。自信になった。これからもあきらめず対策をして、ぜひ来年も挑戦したいと思った。また、将来は経済に関わる仕事に就きたいので、普段からニュースを見たり新聞を読んだりしながら、世界の動きをしっかりとつかんでおきたい。

12. 22 SWG All Japan High School Forum 2019 報告	
日 時	令和元年 12 月 22 日(日)
場 所	東京国際フォーラム(東京都千代田区丸の内)
目的・仮説	「SWG All Japan High School Forum 2019」に参加し、全国のSGH指定校、WWL事業拠点校、グローバル型指定校等の先進的な発表を聞くことで、自分たちの今後の研究に還元することができる。
実 践	ポスターセッション、英語ディスカッション(生徒交流会)
参 加 者	5年生2人、留学生1人
評価・所感	<p>全国のSGH指定校、WWL事業拠点校、グローバル型指定校等が集まり、英語によるポスターセッションや、生徒交流会(分科会)が行われた。</p> <p>本校生徒は、午前中に生徒交流会(分科会)に参加し、午後からポスターセッションを行った。生徒交流会では、SDGsに関連し、環境保護というテーマが設定され、英語でディスカッションを行った。英語のスピーキング能力が高い集団においても、どうにかして自分の意思を伝えたいという強い気持ちをもってディスカッションに参加できたことは収穫であった。</p> <p>ポスターセッションでは、「Catch Your Heart with UCAT ~Activating the Locals from Cable TV~」というタイトルで、宇和島在住の外国人の方々に焦点を当て、地元のケーブルテレビと連携した地域活性化の研究を発表した。堂々とした態度で、自分たちの研究の魅力を伝えることができた。質疑応答では、ネイティブスピーカーの方からの質問や、難しい内容の質問が出たが、自分たちの研究の工夫した部分をしっかりと伝えることができた。</p> <p>このフォーラムを通じて、同年代の高校生が普段の学校生活において、何を考え、何を学んでいるのかを感じ、非常に大きな刺激を受けたのではないかと思う。この経験を、今後の学校生活において、十分に生かしてくれることを期待している。</p>
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションはとても緊張しましたが、練習した成果を出すことができたと思います。質疑応答では、質問者の話すスピードが速かったり、内容が理解できなかつたりして、適切な応答ができなかった場面もありましたが、質問者とのコミュニケーションを増やすことで納得してもらうことができました。 ・生徒交流会では、他校の生徒の英語力の高さに驚きました。この交流会を通じて感じたことは、もっと積極的に英語を話す機会を増やすことが必要であるということです。これからも英語の勉強を頑張りたいという気持ちが強くなりました。

1. 25 「高校生まちづくり課」プロジェクト 報告	
日 時	令和2年1月25日(土) 13:00~16:00
場 所	宇和島市役所
目的・仮説	人口減少対策の一つとして、若者が活躍できる場所を提供することで、地域との関わりを持たせ、郷土愛を醸成することを目的としている。
実 践	第5回ワークショップ
参 加 者	4年生7人
評価・所感	「高校生まちづくり課」プロジェクトの第5回ワークショップが行われ、九島を舞台にした紙芝居を、市長に発表し評価していただいた。ユニークなキャラクターが九島を舞台に活躍するストーリーは、どの班も同じ流れであったが、名所や歴史、九島の産業などを取り入れることで、九島の魅力も伝わる素晴らしい紙芝居に仕上がっていた。発表後は、メインキャラクターを紙粘土で立体化させ、次の3期生につなげる作業を行った。ユニークなキャラクターと唯一無二のストーリーが出来上がったので、来年の3期生がどのように発展させてくれるのか大いに期待している。

2. 4 コンソーシアム in 南予 報告	
日 時	令和2年2月4日(火)
場 所	西予市宇和文化会館
目的・仮説	SGH・SSH・SPH指定校となっている学校や、地域との協働による高等学校教育改革推進事業のうち地域魅力化型に指定された高等学校による研究発表の場に参加し、先進的な取組を知るとともに、自らの研究成果を発表し、質疑応答を行うことで、自らの視野を広げることができる。
実 践	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH指定校としての発表(プレゼンテーション) ・地域創生パネルディスカッション参加(司会者及びパネリスト)
参 加 者	4年生4人、5年生3人
評価・所感	<p>本校生徒2名が舞台上でのプレゼンテーションを行った。「Wedding with Citrus」と題し、宇和島地域の特産物であるかんきつ類を前面に打ち出したウェディングスタイルを、リサーチやフィールドワークに基づいたデータにより提案するという研究内容である。本研究について、生徒たちはオールイングリッシュによる発表を行った。中学生も聴衆として参加していたため、できるだけ平易な表現を用いて自分たちの研究活動を紹介するよう準備段階で努めていただき、本番では多くの質問を受けることができた。</p> <p>生徒たちは、自分たちの研究を多くの人に発信し、意見を交換し合う喜びを感じることができた一日となった。</p>

2. 8～9 第4回中四国高校生会議 報告	
日 時	令和2年2月8日（土）～9日（日）
場 所	松山市青少年ふれあいセンター
目的・仮説	県内外の高校生たちとの交流を通じて、お互いに刺激を与えあい、今後の活動をより深めることができる。
実 践	・第4回中四国高校生会議 ・ディスカッション・英語ディベート・ポスター発表・交流活動
参 加 者	5年生2人
評価・所感	グループ毎にSDGsに関するディスカッションを行い、自分達なりの問題解決策を提案する活動を主として行った。二日間で合計6時間以上に渡っての協議・発表であったが、どの参加者も最後まで熱心に議論に参加し、自分の意見に責任を持つようとしていた姿勢が印象的であった。また、ディスカッションの実施前と実施後には、英語での即興ディベート練習会が行われ、ディスカッションを効果的に行うには、ディベートのスキルや経験が役に立つということを体験的に理解できるような機会が設定されていた。本校から参加した2名の生徒も、しっかりと参加していたが、大変刺激を受けた様子であり、意義深い時間になった。

2. 8 愛媛大学附属高等学校課題研究代表者発表会 報告	
日 時	令和2年2月8日（土） 9:00～12:00
場 所	愛媛大学
目的・仮説	愛大付属高校の課題研究代表者発表会を聴き、3月のSGH事業研究成果発表会の参考にする。
実 践	聴講
参 加 者	4年生22人
評価・所感	文系から理系まであらゆる分野の発表を聞くことができ、大変参考になった。どの発表者もテーマ設定の理由がはっきりとしており、質疑応答の際には質問者をたてて対応するなど、非常に素晴らしい発表であった。翌月の研究成果発表会に還元できるよう、生徒への指導を行っていきたい。

IV 関係資料

平成 31 年 度 教 育 課 程 表

愛媛県立宇和島南中等教育学校
(全日制・本校)

平成31年度進級生（後期課程）

区分	科目	標準 単位数	スーパーグローバル文教科系													スーパーグローバル理科系							
			文科系Ⅰ型				文科系Ⅱ型				理科系Ⅰ型					理科系Ⅱ型							
教科	科目	標準 単位数	4 年	5 年	6 年	計	4 年	5 年	6 年	計	4 年	5 年	6 年	計	4 年	5 年	6 年	計					
国語	国語総合	4	4			4				4				4				4					
	国語表現	3			2	2			2	2													
	現代文B	4		3	2	5			3	2	5			2	2	4							
	古典B	4		3	2	5			3	2	5			3	2	5							
地理歴史	世界史A	2		2		0・2			2		0・2			2			2	2					
	世界史B	4		4	4	0・8			4	4	0・8												
	日本史A	2				0・2					0・2												
	日本史B	4				0・8					0・8												
	地理A	2				0・2					0・2												
公民	現代社会	2	2			2			2	2			2	2	2	2	2	2					
数学	数学Ⅰ	3	3			3			3	3			3	3			3	3					
	数学Ⅱ	4	1	3		4			1	3			4	1	3		4	4					
	数学Ⅲ	5											1	4	5			5					
	数学A	2	2			2			2		2			2				2					
	数学B	2		2		2				2			2					2					
	数学研究Ⅰ	2				0・2				2							2	2					
	数学研究Ⅱ	2				0・3				△3	0・3						2	2					
理科	科学と人間生活	2				0・2				□2	0・2												
	物理基礎	2									2			2			2	0・2					
	物理	4									2	2	4	0・6			2	4					
	化学基礎	2	2			2			2		2			2			2	2					
	化学	4									2	3	5				2	3					
	生物基礎	2		2	2	4			2	2	4							0・2					
	生物	4												0・6				0・6					
	地学基礎	2	2			2			2		2			2			2	2					
	探究理科Ⅰ	2		2		2			2		2												
	探究理科Ⅱ	2				0・2				□2	0・2												
保健体育	体育	7~8	2	2	3	7			2	2	3	7		2	2	3	7						
	保健	2	1	1		2			1	1			2	1	1			2					
芸術	音楽Ⅰ	2		2		0・2			2				0・2					0・2					
	音楽Ⅱ	2				0・2								2				0・2					
	美術Ⅰ	2				0・2							0・2					0・2					
	美術Ⅱ	2				0・2												0・2					
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	2			3			2				2				2	2					
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		3		3				3			3				3	3					
	コミュニケーション英語Ⅲ	4				4					4		4				4	4					
	英語表現Ⅰ	2	2			2			2		2		2				2	2					
	英語表現Ⅱ	4		2	2	4					2	2	4				2	4					
家庭	家庭基礎	2	2			2		2	2	2		2	2	2	2	2	2	2					
情報	社会と情報	2	1			1		1	1	1		1	1	1	1	1	1	1					
総合	総合社会	2				2		2	2	2			0					0					
グローバル・スキル	SGアクションⅠ	2	2			2		2	2	2			2	2			2	2					
	グローバル・スキルⅠ	1	1			1		1	1				1	1			1	1					
	グローバル・スキルⅡ	1		1		1		1			1		1		1		1	2					
共通教科・科目計	グローバル・スキルⅢ	2				△3	0・3			△3	0・3			△2	0・2								
	合計	31	30	28・30	89・91	89・91	31	30	30	91	91	31	30	30	91	91	31	30					
	家庭	子どもの発達と保育	2				0・2							0				0					
家庭	フードデザイン	2				0・2												0					
	合計	0	0	0・2	0・2	0・2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	小計	31	30	30	91	91	31	30	30	91	91	31	30	30	91	91	31	30					
総合的な探究の時間	3~6		1	1	2	2		1	1	2	2		1	1	2	2		1					
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	3	1	1	1	3	3	1	1	1	3	3	1	1					
合計	合計	32	32	32	96	96	32	32	32	96	96	32	32	32	96	96	32	32					

選 択 要 領	地理歴史の選択科目は、世界史Aを選択した者は日本史Bを、日本史Aまたは地理Aを選択した者は世界史Bを選択する。B科目は5、6年継続履修。 ◎から1科目を選択する。△から1科目を選択する。□から1科目を選択する。	地理歴史の選択科目は、世界史Aを選択した者は日本史Bを、日本史Aまたは地理Aを選択した者は世界史Bを選択する。B科目は5、6年継続履修。 △から1科目を選択する。□から1科目を選択する。	物理、生物は5、6年継続履修。 △から1科目を選択する。	物理、生物は5、6年継続履修。
類 型 の 特 色	文科系志望者を対象とし、外国語、芸術、家庭の履修に重点を置いた進学コース。			
備 考	4年次 数学Ⅰは4月から12月まで105時間実施する。 4年次 数学Ⅱは1月から3月まで35時間実施する。 4年次 社会と情報1単位と総合的な探究の時間1単位を減じ、SGアクションⅠを2単位実施する。 4年次 コミュニケーション英語Ⅰ1単位を減じ、グローバル・スキルⅠ1単位を実施する。 5年次 コミュニケーション英語Ⅱ1単位を減じ、グローバル・スキルⅡ1単位を実施する。	4年次 数学Ⅰは4月から12月まで105時間実施する。 4年次 数学Ⅱは1月から3月まで35時間実施する。 4年次 社会と情報1単位と総合的な探究の時間1単位を減じ、SGアクションⅠを2単位実施する。 4年次 コミュニケーション英語Ⅰ1単位を減じ、グローバル・スキルⅠ1単位を実施する。 5年次 コミュニケーション英語Ⅱ1単位を減じ、グローバル・スキルⅡ1単位を実施する。	4年次 数学Ⅰは4月から12月まで105時間実施する。 4年次 数学Ⅱは1月から3月まで35時間実施する。 4年次 数学Ⅲは1月から3月まで35時間実施する。 5年次 物理基礎は4月から9月まで70時間実施する。 5年次 物理は10月から3月まで70時間実施する。 5年次 生物基礎は4月から9月まで70時間実施する。 5年次 生物は10月から3月まで70時間実施する。 4年次 社会と情報1単位と総合的な探究の時間1単位を減じ、SGアクションⅠを2単位実施する。 4年次 コミュニケーション英語Ⅰ1単位を減じ、グローバル・スキルⅠ1単位を実施する。 5年次 コミュニケーション英語Ⅱ1単位を減じ、グローバル・スキルⅡ1単位を実施する。	4年次 数学Ⅰは4月から12月まで105時間実施する。 4年次 数学Ⅱは1月から3月まで35時間実施する。 4年次 数学Ⅲは1月から3月まで35時間実施する。 5年次 物理基礎は4月から9月まで70時間実施する。 5年次 物理は10月から3月まで70時間実施する。 5年次 生物基礎は4月から9月まで70時間実施する。 5年次 生物は10月から3月まで70時間実施する。 4年次 社会と情報1単位と総合的な探究の時間1単位を減じ、SGアクションⅠを2単位実施する。 4年次 コミュニケーション英語Ⅰ1単位を減じ、グローバル・スキルⅠ1単位を実施する。 5年次 コミュニケーション英語Ⅱ1単位を減じ、グローバル・スキルⅡ1単位を実施する。

令和元年度第1回宇和島南スーパーグローバルハイスクール運営委員会議事録

月 日	令和元年 9月 19日 (木)	時 間	15:30~16:35
場 所	愛媛県立宇和島南中等教育学校 会議室		
出席者			
運営指導委員等 (3名)		宇和島南中等教育学校 (8人)	
四国地区国立大学連合アドミッションセンター長	井上 敏憲	校 長	河野 昇治
木屋旅館マネージャー	グレブ・バルトロメウス	教 頭	小田原 寛
高校教育課指導主事	細川 昌弘	教 頭	佐々木 進
		事務長	二宮 立夫
(欠席)		S G H推進本部部長	竹田 智水
		S G H推進本部課長	吉田 遊
宇和島伊達文化保存理事長	伊達 宗信	S G H推進本部	浅尾 一元
宇和島自動車(株)代表取締役会長	廣瀬 了	S G H推進本部	堀内 智文
宇和島東高等学校長	松本耕太郎	事務係長	森田 千恵
		S G H推進本部(事務)	齊藤 実咲
議事進行	細川 昌弘	司 会	井上 敏憲 (委員長)
		記録係	齊藤 実咲

【あいさつ】

(井上委員長) 先生方が普段からの御指導等で大きな苦勞をされていることは十分承知している。その事業もいよいよ終わりに近づき、今日の発表の印象としては、質疑応答も増え、S G H事業が目標とするリーダーの育成が着実に進んでいると感じた。

(河野校長) 平成 27 年度から文部科学省から指定をいただき今年で最終年度という形を迎えた。この事業を通して、グローバルリーダーの育成が着実に進んでいると感じる。先日県内のスーパーハイスクールが集うコンソーシアムを見に行った。そこでは、一昔前では想像もつかないような生徒たちの堂々とした行動を見ることができた。このS G H事業も、本校では本年度をもって終了となる。本校の学校説明会でS G Hの説明をすると、児童たちが目を輝かせ、保護者も自分のお子さんが実際にこの事業に関わって活躍する姿を浮かべられるのか、すごくいい表情をされる。そういう意味でも、本校の魅力の一つに間違いなくなくなっている。この事業を通じて培ってきたものを、来年以降も、必ず続けていきたいという気持ちが強い。そのときにはまたお力をお貸しいただきたい。

(運営指導員自己紹介)

【夏季フィールドワークについて】

各運営委員の感想・提案及び質問

(グレブ委員) フィールドワーク (FW) はとても面白くて、素晴らしいと思った。プレゼンテーションの仕方もどんどん上達している。発表も元気な大きい声であったし、毎回よくなっている。ただ、質問に対して、より具体的な返事ができるよう研究のまとめ方にも少し工夫は必要だと思う。

(井上委員長) スライドが非常に見やすかった。体育館では、後ろの人は見えないだろうと思うが、枚数が多く、その分画像が大きく見やすく良かった。ちょっと危ないと思ったのが、オーストラリアのホームステイの発表で、でハグとかキスは愛情表現で一般的に西洋人はそうするのだという思い込みがあるが、実は性的な意味もあって、標準的にはどんなものなのか本人たちでもわからないということがある。海外では、自分の観察が正しいのかどうか、場合によっては犯罪に巻き込まれることも起こりうるということは十分に注意しておく必要がある。

【今年度のS G Hアクションについて】

(竹田教諭) S G H事業今年度で最終年度となったが、元々の始まりは宇和島市の過疎化をなんとか食い止め、市の活性化に寄与したいところからであった。平成 11 年は、約 9 万 3 千人であった宇和島市の人口は、今年の 8 月には約 7 万 7 千人ということで約 1 万 6 千人近く市外に流出している。去年から比べると約 1300 人減となっている。本校の活動のコンセプトとしては、宇和島の農産物・水産物を世界に販売展開し、地域産業を活性化して

人口減少を食い止めることだ。

〈令和元年度SGH前期の活動報告について〉

(吉田教諭)

SGアクションの内容は、年度初めに講演を行い基本的な知識を身に付け、県内・国内・海外での様々なFWを経て、それぞれ課題を見付け研究している。最終的に研究は3月の発表会で発表し、6年生になって論文にまとめるという流れである。今年5月・6月に3回、文化・柑橘・水産の分野で講演会を行った。今後は、3学期に福岡女子大学の馬場先生をお迎えして講演をしていただく予定である。

FWについては、八幡浜市と大分県別府市で観光町作りのテーマで実施した。市内FWとしては、夏休み期間中に4年生を中心に様々な事業所を訪問して、課題研究を進めている。今後の県内・県外FWの予定は、12月に愛媛飲料(株)、宇和島市が実施している「高校生まちづくり課」での活動がある。また水産に興味ある生徒に対しては、水産研究所の訪問を考えている。高校生まちづくり課に参加している宇和島の生徒を対象に、福井県鯖江市への視察参加者を募集している。宇和島市全体で20人、本校からは4名の生徒が応募希望で、この後宇和島市の選考を受ける予定である。次に海外FWだが、今年も台湾方面、シンガポール方面に、令和2年1月18日～1月22日の5日間を予定している。

〈グローバルスキルについて〉

英語運用能力の向上のため、地域の産業や文化を教材として授業を行っている。例えば海外の高校とスカイプで繋がり、宇和島のことを英語で紹介した。また英語に関わる三つのコンテストにも参加した。2学期にもこのような活動を予定している。

〈グローバルマインドについて〉

夏休み期間中に、オーストラリアのアデレード語学研修(16名)・台湾ホームステイ(1名)を行った。新たな取組の一つとして、宇和島市から、宇和島を訪れる外国の方々に宇和島歴史資料館をPRするものを作って欲しいと依頼を受け、本校教員とSGH部員でPR動画を作った。質の高い仕上がりで、愛媛新聞でも大きく取り上げられた。その他の新たな取組としては、

- ① 国の「アジア高校生架け橋留学生プロジェクト」に参画し、インドネシアからの留学生1名を、8月から来年の3月まで受け入れている。本校生徒の家でホームステイをしながら本校5年3組に在籍し、学校生活を楽んでいる。
- ② 宇和島市から依頼を受け、本校4年生の「まちづくり班」の生徒たちが、宇和島駅に設置された黒板に、外国人観光客のために、宇和島の情報を英語で載せている。美術部の生徒たちも協力し、楽しい案内板ができています。定期的書き替えているので機会があればご覧いただきたい。
- ③ 昨年、宇和島地区では大きな災害があり、本校の「まちづくり班」の研究テーマの中に防災に強いまちづくりという視点を組み入れ、本年度は、愛媛大学の山本教授に來校してもらって、指導を受けている。防災の研究にも力を入れていきたいと考えている。最後に令和元年度SGHの目標としては、この5年間で様々な研究方法を培ってきたが、そのレガシー(遺産)を次の年にどう繋げるかということだ。幸いにもその遺産は多く、どれを精選していくのか思案中のため、御意見を伺いたい。

【意見・質問・提言など】

(井上委員長) 例えば、愛媛飲料だったら何人ぐらい行くのか？

(吉田教諭) 大型バス1台を貸し切って約40名近くの生徒が参加する。

(井上委員長) 過去3カ所くらいあったと思うがその三つの内のどこかには必ず行くのか？または行かない生徒もいるのか？

(吉田教諭) 残念ながらすべての生徒が行くわけではなく、希望を聞いての参加となるが、希望に添うようにはしている。

(井上委員長) FWを経験しない人も、課題研究をするという機会があるのか？

(吉田教諭) 夏休みに必ず宇和島FWをしており、それですべての班の生徒が自分のテーマに沿った企業や役場を訪れてFWをしているので、ほぼすべての生徒はFWを経験している。

(グレブ委員) 毎年やっているためルーティーンやノウハウをわかっているし、慣れていると思う。しかしそれはいいことだと思う。これからどうするかが一番大事なところだ。私は日本の学校がどこまで自由に決めていいのかわからないが、セキュリティ関係は国から細かく決められているから、時間の使い方は厳しいと考える。どこまでできるか心配な部分だ。ハイスクールとしても決まったことをしなければいけないが、これからは自由になる。みなさんここまで苦労しながらも一生懸命頑張ったと感じる。これから自由になるとどこまでできるかチャレンジとなる。

(井上委員長) 最初に校長先生・教頭先生も言及していたが、後継事業に参画するということか？

(佐々木教頭) グレブ委員さんのおっしゃっていたように、国にはある程度のルールがあり、今現在SGH事業は特例としてカリキュラムを柔軟に組むことができています。そのため課題研究の時間も、SGH以外の学校であれば総合的な学習の時間であるところを、他の科目と組み合わせることで2時間確保できている。ただ、SGH事業終了後は、この特例がなくな

るので、従来の形で、例えば一週間に1時間、研究をする時間はあるが、プラスアルファは今後どうするのか、土日の活用や放課後の活用を考えている。国はSGH事業の後継のような大きな事業を、今年度から始めている。ただ、文部科学省の新たな事業では、今本校がSGHを展開しているが、SGHプラス新たな事業は認められていない。来年度、本校としても次なる事業に向けて、計画を立てている段階だ。もしその事業に採択されれば、もう少し自由のきく授業の組み方ができると考えている。

(グレブ委員) 松山東高校のSGH事業は去年終わったが、調べたことはあるか？

(佐々木教頭) 今日の発表会にも松山東高校の教員が来てくださっていたが、松山東高校は本校より1年早くSGHが終わり、今年度新たな後継事業である、地域との協働による高等学校教育改革推進事業のグローバル型に採択され活動している。本校も宇和島市との連携を深めつつSGHとして培った海外へ向けたまなざしを活かせるような同一事業のグローバル型を検討している。松山東高校が1年先輩として先に展開しているので情報交換をしながら進めていきたい。

(グレブ委員) 海外の学校の場合は力を入れているが、SGHで、例えば英語の授業だけではなくフランス語の授業などを入れたりするのはどうか。難しいとは思いますが、そこは普通の授業で、グローバル的なことを導入する。教科書だけではなくテーマを身近に絞ってみてはどうか。

(竹田教諭) 今、学校独自の科目として設定しているグローバル・スキルという授業が、グレブ委員のおっしゃっているものに近い。オールイングリッシュとまではいかないが、海外に出て必要な交渉力や、ディベート力を実践的に磨かせている。CLILも行っている。

(佐々木教頭) 英文を使って理科の授業を行う、英語を使って社会科を行うという展開をしている。その時には英語の教員と理科あるいは社会科の教員とが補いながら展開している。

(竹田教諭) ALTがいるのでALTの方と他教科の教諭が組んで行っている。

(井上委員長) 今度新しい事業に応募するとのことだが、その時SGHの成果がセールスポイントと思うが、その接点や事業の総括というようなストーリーを仕上げ、うまくつなげていけることができれば良いのではと思う。

(佐々木教頭) SGHで出来たことと、SGH事業を通しての我々の課題を明らかにして、その課題を、次なる事業でさらに検証していくというのを鮮明にしていきたい。

(グレブ委員) 例えば、宇和島は可能性がある。真珠や魚、ミカン、歴史などいろいろある。1番ネックなところは売り方が下手なところ。経営、マーケティングやセールスは力を入れる。例えば、マーケティングや営業の授業を大学の先生を呼んですることはあるか？

(吉田教諭) 企業の分野を課題研究の中にマーケティングに興味のある生徒がいて、例えば宇和島の特産物をどうやったら海外に売り出せるかという課題に取り組んでいる生徒はいる。

(井上委員長) 最後のスライドは防災につながっていく話か。

(吉田教諭) 次回につなげていく。特に今年は強く市役所と連携させていただいた。

(井上委員長) 宇和島東は避難経路をやっているが、防災のことについて他校との連携はあるか。

(吉田教諭) 宇和島東の防災キャンプに本校生徒も参加している。

(佐々木教頭) 先日9月15日に宇和島青年会議所が主催で、宇和島市内一円の高校生による防災に関する発表会に本校生徒も参加し、災害の多い台湾との交流の中で宇和島の避難の様子を紹介した取組を発表した。地域産業に加えて防災も来年以降は一つのテーマにしていこうと考えている。宇和島市自体は防災の機運を高めており、大事なテーマであるので、研究を深めていきたいと計画している。

(グレブ委員) クルーズ船に参加するのはどうか。子供たちに外国人を合わせるチャンスだと思う。

(佐々木教頭) 事務局と協力しクルーズ船に関することで共働関係を作ろうと考えている。来年度の文科の新しい新事業の中に、インフォメーションボード(案内板)のことやクルーズ船に対する対応をまとめたものを盛り込んで計画している。

(グレブ委員) 例えば朝、港にいて外国人と少しでも話せたら、いいチャンスだと思う。

【SGH事業を引き続き取り組めるようなことはあるか】

(井上委員長) 観光という視点は少ないのではないかな。生徒たちの発表が、例えば商店街の活性化の話だったとすると、今は便利な世の中で、車を使い郊外へ買い物に行く人が多い。商店街に人を呼び込むのを期待するが地元の人とは違うところに行く、という矛盾が起こる。商店街だけではないが、活性化して、人がたくさんいるような町を考えると他の地域の人を呼び込めるというような観点は外せないのではないかな。

(グレブ委員) FWの話聞いて気付いたことは、まちづくりはただ観光するだけ、観光客を増やすだけでなく、住んでいる人、これから住む人が元気や幸せにならないといけないと思う。

【閉会】

井上委員長 挨拶

2017「課題研究」ルーブリック評価(プロセス評価)

領域	評価項目	4(A)	3(B)	2(C)	1(D)	採点
テーマ設定	① 課題意識とテーマ設定	社会的な課題意識を基にテーマが設定されており、今後の研究により課題解決に結び付く可能性が高い。	社会的な課題意識を基にテーマが設定されており、今後の研究により課題解決に結び付くことが期待される。	社会的な課題意識を基にテーマが設定されているものの、課題解決に結び付く可能性が低い。	社会的な課題意識を伴わず、単なる思いつきによるテーマ設定である。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	② 計画・準備と進捗状況	データ収集、分析、原稿作成などの実施時期や方法を担当教員に相談し、計画に沿って主体的に研究を進めている。	データ収集、分析、原稿作成などの実施時期や方法を担当教員と相談し、本人なりに研究を進めている。	実施上の計画や方法に関する検討や担当教員との話し合いが不十分のまま、研究を進めている。	実施上の計画や方法を持ち合わせておらず、見直しを立てないまま、その場の成り行きで行っている。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
		③ 研究方法の妥当性	研究目的を達成するために、創造性のある研究方法を具体的に考えている。	研究目的を達成するために、よく検討して研究方法を考えている。	研究方法は考えているが、研究目的を達成するためには検討が不十分である。	研究方法は考えられているが、稚拙な域にとどまっている。
取組状況	④ 好奇心・興味関心・探究心	研究の内容に興味関心を持ち、関連事項にも探究心を持ち、研究に取り組んでいる。	研究の内容に興味関心を持ち、主体的に研究に取り組んでいる。	研究の内容に興味関心を覚え、取り組んでいる。	研究の内容に興味関心が薄く、探求する意欲に乏しい。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	⑤ 創意工夫・オリジナリティ	参考文献を踏まえた上で、調べた資料やデータから独創性のある結論を導き出している。	参考文献を踏まえながら、調べた資料やデータを自分なりに解釈し、結論を導き出している。	参考文献に引きずられ、調べた資料やデータを使った自分なりの結論を導き出せていない。	参考文献の丸写しであったり、調べた資料やデータの単なる羅列であったりする。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
⑥ グループ	役割分担と協力	自分の役割を積極的に果たすとともにグループ研究をリードしている。	自分の役割を十分果たすとともにグループ研究に貢献している。	自分の役割を果たそうとはするが、十分果たせていない。	自分の役割を果たそうとせず、他人に任せきりである。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)

「愛媛大学課題研究評価ルーブリック ver1.0(2017.3)」を改変

()年()組()番 名前()

2017「課題研究」ルーブリック評価(課題発表表評価)

領域	評価項目	4(A)	3(B)	2(C)	1(D)	採点
発表(ポスター発表・プレゼンテーション・論文)	① 目的と仮説	研究目的や仮説が論理的に述べられ、その意義がよく理解できる。	研究目的や仮説が述べられており、その意義が理解できる。	研究目的や仮説は述べられているが、その設定理由がよく分らない。	研究目的や仮説が述べられていないか、述べられていたとしても、その目的が適切でない。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	② 方法	研究目的に沿った研究方法が採用され、適切に表現されている。	研究目的におおむね沿った方法が採用され、表現されている。	研究目的に沿った研究方法として十分とはいえない。	研究目的に沿った研究方法が述べられていない。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	③ 分析と結果	豊富な資料やデータを扱い、適切な分析がなされている。	資料やデータを扱い、おおむね適切な分析がなされている。	資料やデータを用いているが、十分とは言えず、分析も適切さを欠いている。	資料やデータが不足しており、分析も稚拙である。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	④ 考察	目的で述べた課題意識に対する考察が、研究結果に基づいて客観的に考えられている。	目的で述べた課題意識に対する考察が、研究結果に基づいて考えられているが、その関連が明確ではない。	目的で述べた課題意識に対する考察が、課題意識との関連がない、あるいは飛躍しすぎている。	目的で述べた課題意識に対する考察が述べられていないか、考察として不適切である。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	⑤ 論理展開	客観性のあるデータに基づいて論理を明確に展開できている。	客観性のあるデータに基づいて論理を分かりやすく展開している。	データに基づいて論理を展開しているが、矛盾が見られる。	データがなく、論理の展開も矛盾している。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	⑥ 表示方法と文体	統一された表示と文体で必要な専門用語が用いられている。	表示と文体の統一感はあるが、より専門的な表現が望まれる。	表示と文体が統一されていない箇所がある。	表示と文体に統一感がない。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	⑦ 発表態度	原稿に頼らず自分の言葉で研究内容を説明しており、説得力のあるプレゼンテーションである。	原稿を参照する場面も見られるが、自分の言葉で発表しており、分かりやすいプレゼンテーションである。	内容は理解できるが、原稿を見ながら終始話だけのプレゼンテーションである。	発表内容が分からない、聞き取れないプレゼンテーションである。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
	⑧ 質疑応答	質問意図を的確に把握し、専門的な質問にも簡潔かつ的確に答えられている。	質問に対して、研究した内容に基づいた応答ができています。	質問内容を把握できないまま応答しているため、質問に答えが対応していない。	無言やあいまいな答えに終始し、質問に答えられていない。	4(A)・3(B)・2(C)・1(D)
チェック項目	(論文)文字数等	<input type="checkbox"/> 指定文字数等に達している。	<input type="checkbox"/> 指定文字数等に達していない。	(ポスター発表)紙面の活用	<input type="checkbox"/> 紙面を最大限に活用している。 <input type="checkbox"/> 紙面を最大限に活用していない。	
	提出期限	<input type="checkbox"/> 提出期限と提出方法を守っている。	<input type="checkbox"/> 提出期限と提出方法を守っていない。	引用文献	<input type="checkbox"/> 引用文献が正しく表記されている。 <input type="checkbox"/> 引用文献が正しく表記されていない。	
	提出物	<input type="checkbox"/> 提出すべきものが全てそろっている。	<input type="checkbox"/> 提出すべきものに不足がある。			

「愛媛大学課題研究評価ルーブリックver1.0(2017.3)」を改変

()年()組()番 名前()

令和元年度 SGH 校内ポスター発表会 評価表

課題研究テーマ【 】ポスター番号【 】

【評価】 評価基準：高い 4・3・2・1 低い に○をつける

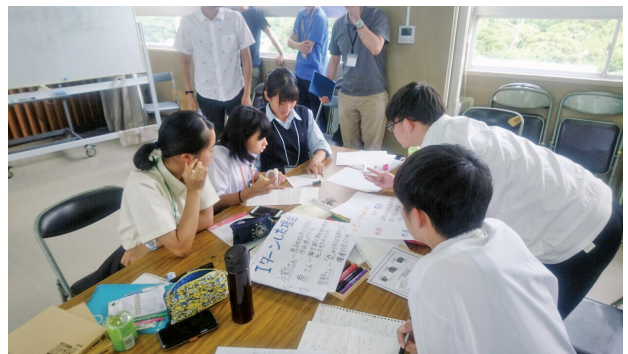
	評 価 項 目	高い	低い
①	発表態度は良いか。(声の大きさ・視線など)	4 3 2 1	1
②	伝えたいことをわかりやすく発表できているか。(発信力・展開力・説得力など)	4 3 2 1	1
③	ポスターは見やすくまとめられているか。(色・構成・デザインなど)	4 3 2 1	1
④	資料やデータを用いて、適切な分析がなされているか。(資料の使い方など)	4 3 2 1	1
⑤	研究結果がしっかりまとめられているか。(提言・今後の課題など)	4 3 2 1	1
⑥	質問に対して的確に答えられているか。(わかりやすさなど)	4 3 2 1	1

【アドバイス欄(改善点など)】

.....
.....

年 組 番 氏名()

4 活動の様子









平成27年度 文部科学省指定
 スーパーグローバルハイスクール
 愛媛県立宇和島南中等教育学校



Super Global High School
 『宇和島のうみ・やまから世界を考える』

令和元年度 SGH活動報告
 Vol.1

令和元年5月発行

平成27年度に文部科学省からSGH推進校の指定を受け、最終年度を迎えることとなりました。これまで「宇和島より世界へ」をテーマに、「グローバル時代に対応する持続可能な地域社会を支える人材」の育成するために生徒、教職員一同懸命に取り組んできました。

実際、SGH事業への取組で、生徒、教職員ともに格段の進歩を遂げています。国内外のフィールドワークやその報告会を通じての総合的な人間力の向上には目を見張るものがあります。今年度も、最後を飾るに相応しい成果を期待したいと思います。

学校長 河野 昇治

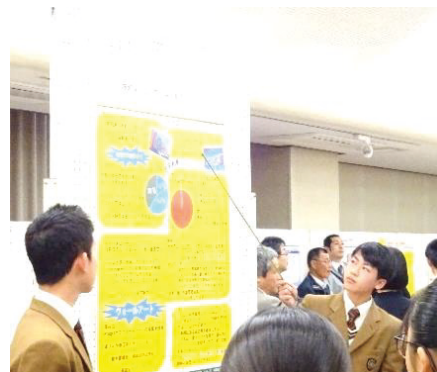
SGH事業研究成果発表会

(日時)平成31年3月14日(木)

(場所)宇和島市立南予文化会館

スーパーグローバルハイスクール事業の指定から4年目、講師の先生方や関係機関の皆様の御協力のもと、平成30年度も様々な課題研究(4・5年生ともにグループ研究)に取り組むことができました。

SGH運営指導委員の方々からは、プレゼンテーションはもちろん、その後の質疑応答も充実しており、内容のある発表会であったという評価をいただきました。



プログラム

- ◆ 課題研究ポスター発表
(代表 16組)
- ◆ 海外フィールドワーク報告
(台湾)
(シンガポール・マレーシア)
- ◆ SGH課題研究成果発表
(裏面に記載)



◆◇SGH課題研究成果発表◇◆

発表生徒の声

駆け上がれ！シンデレラ・ストーリー ～with 宇和島ブラッドオレンジ～

4年 林、大野、梶田、信國、山光
宇和島ブラッドオレンジを使ったスイーツを世に広めるためのプロジェクトについて発表しました。インタビュー、商品開発、資料作成など、少しでも良い発表をしようと準備してきました。質疑応答では焦ってしまい、上手に答えられませんでしたが、今回の貴重な経験を糧に、次も良い課題研究にしていきたいです。

UCATでyouのハートをCATっ千

4年 山崎、安野、小川、黒田、中川
UCATを使って宇和島を発展させる方法について発表しました。英語での発表ということで、何回も練習しました。自分の思うような発表ができず、少し後悔はありますが、3年生の時に、まさか自分がステージで発表できると思っていたなかったので、ここまで来ることができたという達成感の方が大きかったです。

宇和島のSGP ～Super Global Pamphlet～

4年 織井、大嘉田、二宮、野中、山下
宇和島の素晴らしい文化を世界へ発信するためのパンフレットのあり方について発表しました。当日はいつになく緊張していましたが、発表練習を重ねていたため、落ち着いて観客に対して視線を向けて発表することができました。今回のように大勢の観客の前で発表する機会はあまりなかったので、経験できてよかったです。

健康料理教室を広め隊 ～愛ファーマシーの取組～

5年 二宮、井関、山口
生活習慣の向上のために健康料理教室を開いている愛ファーマシーの取り組みについて発表しました。資料作成で苦労しましたが、多くの先生方にアドバイスをいただき、最終的にはより良いものに仕上げることができました。発表準備を入念にしていたので、本番では良いイメージをもって発表することができました。

今年度の活動予定

国内 FW…7月/8月

夏季 FW 報告…9/19 (木)

海外 FW (台湾、シンガポール・マレーシア) …1 月末

校内ポスター発表会 (4年・5年4組) …2/6 (木)

研究成果発表会…3/12 (木)

平成 27 年度 文部科学省指定
 スーパーグローバルハイスクール
 愛媛県立宇和島南中等教育学校



Super Global High School
 『宇和島のうみ・やまから世界を考える』

令和元年度 SGH活動報告
 Vol.2・3増刊号
 令和元年 12 月発行

今後の活動予定

1月 18日(土)～22日(水)

海外フィールドワーク(台湾・シンガポール)

2月 6日(木)

SGH 課題研究校内発表会

(3～5年: 5～7限目)

3月 13日(金)

令和元年度SGH事業研究成果発表会

〔会場: 南予文化会館〕

◆◇SGH夏季FW報告会◇◆

9月19日(木)の5～7限に、3～6年生がSGH夏季フィールドワーク発表会に参加しました。発表では隠岐、八幡浜・別府の国内フィールドワーク、アデレード短期語学留学、Ocean's47参加報告が行われ、参加した生徒はフィールドワークや短期留学等で学んだことを伝えるために、早々に発表資料の作成に取りかかり、発表練習を重ねてきました。その他の生徒も、真剣な眼差しで発表を聴き、その後の質疑応答も活発に行われました。

隠岐FW

(実施日) 令和元年7月12日(金)～7月15日(月)
 (場所) 島根県隠岐郡海士町

2年ぶりに隠岐で行われたまちづくり甲子園に本校生徒3人が参加しました。



八幡浜・別府FW

(実施日) 令和元年8月4日(日)～8月7日(水)
 (場所) 愛媛県八幡浜市・大分県別府市

今年は、観光を通じたまちづくりについて、八幡浜市と別府市で学んできました。



アデレード短期語学留学

(実施日) 令和元年7月29日(月)～8月14日(水)

(場所) オーストラリア 南オーストラリア州 アデレード市

本校生徒16人が、ホームステイを通して、英語だけでなく日本との文化の違いを学びました。



Ocean's47

(実施日) 令和元年8月8日(木)

(場所) 衆議院第一議員会館多目的ホール (東京都千代田区長田町2-2-1)

本校からは1名の生徒が参加し、海洋プラスチック問題について各都道府県の代表とともに学び、協議してきました。



留学生がやってきました!

8月26日(月)に、国のAFSアジア高校生架け橋プロジェクトの一環で、本校にインドネシアから留学生がやってきました。始業式の後に留学生の紹介が行われ、全校生徒に向けて日本語で自己紹介をしてくれました。これから来年の3月まで、本校でともに学びます。



平成27年度 文部科学省指定
スーパーグローバルハイスクール
愛媛県立宇和島南中等教育学校



Super Global High School
『宇和島のうみ・やまから世界を考える』

令和元年度 SGH活動報告

Vol.4

令和2年2月発行

冬季

Taiwan



Singapore



海外フィールドワーク

①台湾 (期間) 令和2年1月18日(土)~22日(水) 5日間

〈参加者〉4年生4名・5年生6名

〈生徒の声〉

☆言葉が違うということは大きな壁ではあるものの、ジェスチャーなどを使って伝えたいという思いがあれば相手に自分の意志が伝わることが分かりました。

☆日本とは異なる文化を知ることで、自分の視野が確実に広がりました。日本と台湾との相違点や共通点を探ることで、これからの日本・愛媛・宇和島をよりよくする方法を考えられそうです。



②シンガポール (期間) 令和2年1月18日(土)~22日(水) 5日間

〈参加者〉4年生6名・5年生4名

〈生徒の声〉

☆シンガポールの歴史や経済、最新技術を知ることが、自分自身の知識や世界への視野を広げることに繋がりました。また、これからの日本、自分が社会にとってどのような存在であるべきか、ということをも今まで以上に深く考えるきっかけになりました。

☆現地では、完全キャッシュレスのスーパーや、自国で水をつくり出す技術など、日本では見ることのできない最新技術を見ることができました。また、日々英語に触れ、様々な場所で現地の方と交流することで、もっと英語で色々な人とコミュニケーションをとれるようになりたいと思いました。



◆◆SGH校内ポスター発表会◆◆

2月6日（木）、5・6限に、3～5年生がSGH校内ポスター発表会に参加しました。4年生と5年4組の生徒は、これまでの研究成果をまとめたポスターを用いて堂々と発表し、視聴していた生徒も、真剣に話を聞いて積極的に質問するなど、素晴らしい発表会になりました。



今後の活動予定

3月13日（金）

令和元年度SGH事業研究成果発表会〔会場：南予文化会館〕

平成 27 年度 文部科学省指定
 スーパーグローバルハイスクール
 愛媛県立宇和島南中等教育学校



Super Global High School
 『宇和島のうみ・やまから世界を考える』

令和元年度 SGH活動報告
 Vol.5 (最終版)
 令和2年3月発行

平成 27 年度に文部科学省から SGH 推進校の指定を受け、これまで「宇和島のうみ・やまから世界を考える」をテーマに、「グローバル時代に対応する持続可能な地域社会を支える人材」を育成するために生徒、教職員一同懸命に取り組んできました。

ここまで SGH 事業を継続してこられたのは、運営委員の方々をはじめ、各 SGH 活動に御尽力いただいた大学の諸先生方、企業の皆様、そして平素より本校の教育活動に御理解をいただいている保護者の皆様のお陰です。御協力・御支援いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

SGH 事業研究成果発表会

スーパーグローバルハイスクール事業の指定から 5 年目、講師の先生方や関係機関の皆様の御協力のもと、令和元年度も様々な課題研究（4 年生・5 年 1～3 組…グループ研究、5 年 4 組…個人研究）に取り組むことができました。

しかしながら、中国の武漢に端を発した新型コロナウイルスの感染拡大を防止するための措置として、本校は 3 月 3 日（火）から臨時休業することとなり、3 月 13 日（金）に開催予定であった本研究成果発表会についても、誠に残念ではありますが、**中止**することと致しました。

そこで、本来ならばステージ上で発表する予定であった代表生徒とその研究について、紹介させていただきます。

	代表生徒	研究テーマ
①	4 年 2 組 3 班 西村虎太郎 山本京波 今西恵太 壽崎亜音	「地域でハザードマップを作ろう ～防災意識の高いまちを作るために～」
②	4 年 4 組 1 班 木崎莉子 櫻井心 濱田菜奈 濱田菜月 水田真緒	「トレジャーハントで観光客をハント！」
③	5 年 4 組 坂本葵	「香りのまち、宇和島」
④	5 年 4 組 兵頭柚衣	「Wedding with citrus」
	台湾フィールドワーク参加生徒 (4 年生…4 名、5 年生…6 名)	海外フィールドワーク報告
	シンガポールフィールドワーク参加生徒 (4 年生…6 名、5 年生…4 名)	海外フィールドワーク報告

① 「地域でハザードマップを作ろう ～防災意識の高いまちを作るために～」

地域でハザードマップを作ろう
～防災意識の高いまちを作るために～

4203
愛媛県立宇和島南中等教育学校 西村茂太郎 山本忍 今野嘉太 藤原真吾

背景
防災意識の低さ

目的
地域住民でハザードマップを作ること
防災意識を高める

アンケート結果(現状を把握するための)
本校生徒490人対象
Q1(現在のマップで安全に逃げられらると思うか) Q2(地域の防災訓練に参加したことがあるか)

56% はい 34% いいえ
42% はい 58% いいえ

方法
・インタビュー(市役所危機管理課)
・アンケート(探訪の調査)
・ハザードマップの作成

研究
宇和島市の取組
・FM放送
・防災ラジオ・長距離スピーカーの設置
・ハザードマップ

手作りハザードマップの作り方!
1. マップのテーマを決める
2. 計画する
3. 実際に街を歩く
4. パソコン等で作成

まとめ
・地域でハザードマップ作りのイベント
・地域の「つながり」も強化

子どもから大人まで協力して
マップを作ることができれば
防災意識の高まりが期待できる

参考文献「宇和島市ホームページ」<http://www.city.yuwa.mie.ac/>

② 「トレジャーハントで観光客をハント！」

トレジャーハントで観光客をハント!

4401
愛媛県立宇和島南中等教育学校 本橋莉子 柳村 遥田晴香 渡田那月 水田真穂

<背景・目的>
宇和島は深刻な人口減少が進んでいる
その一方で外国人観光客は年々増加している
これを利用すれば、宇和島が活性化していくための糸口になるのではないかな

<方法>
①本校の3・4・5年生男女を対象としたアンケート
外国人にオススメしたい場所・お土産・食べ物の宇和島の魅力
②宇和島市役所・本島旅館にインタビュー

<結果>
1. アンケート結果 (場所・魅力)
2. インタビュー(宇和島市役所・本島旅館)

宇和島に訪れる外国人観光客の割合
多くが中国、台湾、韓国などのアジア国
目的・写真などインスタ映えするような場所に行くこと
↓
その中でも欧米からの観光客も多い
目的・世界的に見て、日本は日本で
秘境的な地として自分だけの特別な体験をすること
→欧米の観光客の方が宇和島の魅力を深く知ってもらえる

<提案・まとめ>
ターゲット: 欧米の観光客
・自分だけの特別な体験
・地域住民との交流
ツアア制作
善なればきれいなコース
お土産をプレゼント!
如の食べ物を巡るコース など
→トレジャーハント(お宝さがし)を用いた体験型観光で楽しんでもらおう

(欧米の観光客)
リピーターになってもらう
↓
宇和島の魅力を発信してもらう
↓
情報の拡散
(宇和島市民)
どうすれば楽しんでもらえるのか
↓
市民や地元企業が協力
↓
市民の意識活性化

宇和島が抱える根本的な問題解決につながる
外国人と市民の作り出す新たな町づくり!!

参考文献「宇和島市観光の未来」<http://www.city.yuwa.mie.ac/>

③ 「香りのまち、宇和島」

香りのまち、宇和島

5408
愛媛県立宇和島南中等教育学校 坂本 夏

序論
香りが新機に香りやすい
身近なアロマを制作して...

提案
1. 香りを楽しんでもらおう
方法: ディフューザー、ルームエッセンス、ルームスプレー など
場所: 道の駅、観光地、ホテル、ロビー、学校、内街
2. 効能を生かす
オレンジの精油を使って...
・入浴剤、バスバス、バスソルト、シャンプー、ボディソープ、洗剤
・石鹸、トイレットペーパー、おしぼり、お風呂敷、お風呂敷、お風呂敷、お風呂敷
・除菌剤、消毒剤、殺菌剤、殺菌剤、殺菌剤、殺菌剤

研究
1. なぜ香り記憶に惹かれる?
嗅覚・聴覚・触覚・味覚 → 大脳皮質 → 知覚運動
嗅覚 → 大脳辺縁系 → 記憶や感情
ブルースト効果...特定の香りによって、特定の記憶や感情を喚起

2. インタビュー
Q 精油...植物に含まれている香りのある天然の物質
Q オレンジの精油...手製にしたい、殺菌作用、消臭作用、消臭作用、消臭作用
Q 心の不安を軽減...自分の好きな香りを調製する

まとめ
・宇和島でオレンジの香りがたくさん感じる
・記憶に喚起
・オレンジの香りで宇和島を思い出す
・お土産に、香り高いお土産を贈る

参考文献「香り」<http://www.city.yuwa.mie.ac/>

④ 「Wedding with citrus」

Wedding with citrus

5438
愛媛県立宇和島南中等教育学校 森村 林希

序論
みかんの花言葉「純白」「親愛」「花嫁の喜び」
柑橘モチ、フの結婚式!
シトラス婚

ねらい
宇和島、愛媛柑橘のPR
若年層...結婚式を挙げる人減少?
一般的な結婚式を好む?
アンバーサリー婚

提案
招待状に香りと押し花
柑橘の香り...リラックス効果
アロマテラピーにも使用
会場を柑橘の花や実、葉で飾る
愛媛県...柑橘生産No.1
30種類以上の柑橘
産家さんとの連携
柑橘の料理や飲み物
みかんぷり、みかん鯛、ゼリー、ジュース、マーマレード
引き出物に柑橘カタログ
好きな品を選ばせ、リピーターをつくる
旬の時期に配達
結果→工夫すれば若年層もねらえる...

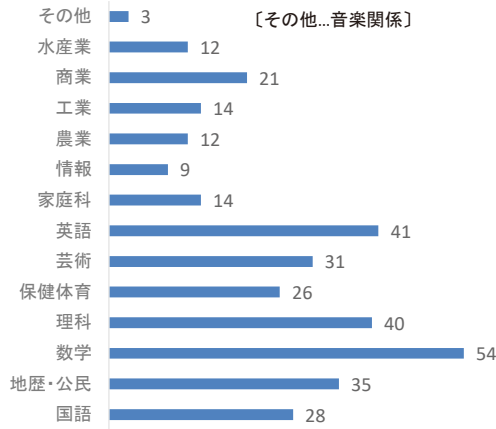
展望
結婚するならシトラス婚
浸透させることができれば
宇和島の活性化
柑橘の消費量増加
に繋がる...!

参考文献「愛媛県庁/農林水産部」<https://www.pref.ehime.jp/h35118/1707/sizes/>

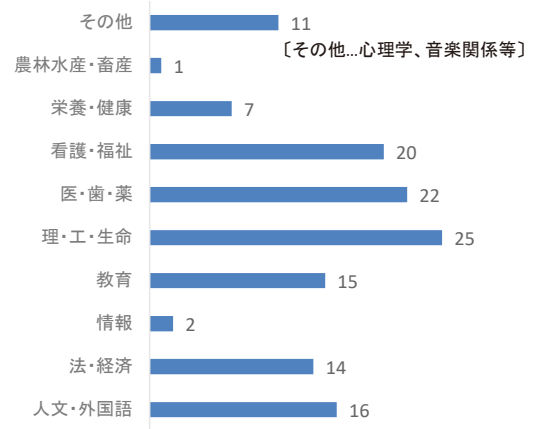
4年(7月) SGHに関する調査(SGアクション)調査結果

設問1 以下の質問について、答えてください。

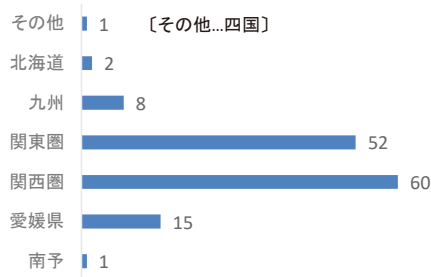
(1)あなたは現在、どの分野に関心がありますか。
(複数回答可)



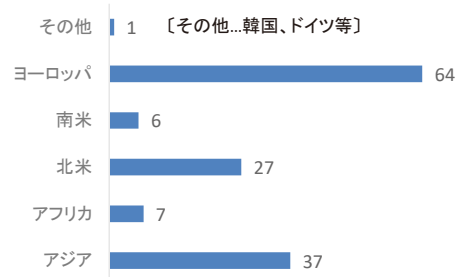
(2)あなたは将来、どのような分野への進学を希望していますか。一つ選んでください。



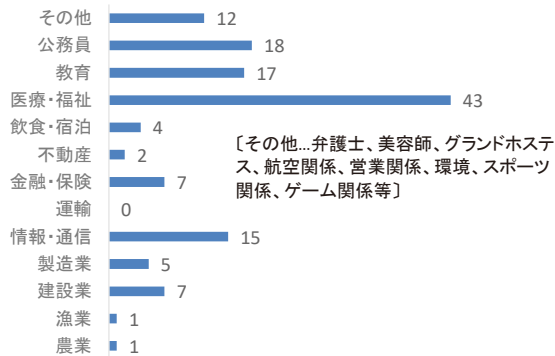
(3)あなたは現在、国内でどのような地域に関心がありますか。一つ選んでください。



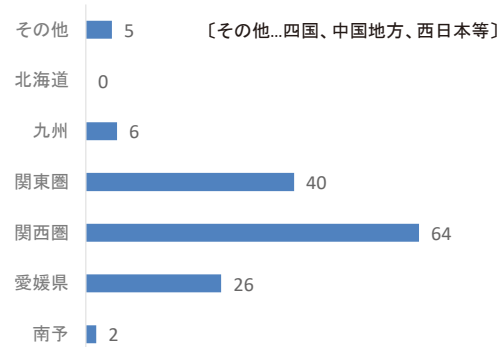
(4)あなたは現在、海外でどのような地域に関心がありますか。一つ選んでください。



(5)あなたは将来どのような仕事(業種)に就きたいと思っていますか。一つ選んでください。



(6)あなたは、学校卒業後、どこで就職を希望しますか。一つ選んでください。



(7) (6)で「1 南予地方」と答えた人に聞きます。どのような業種を考えていますか、一つ選んでください。

(8) (6)で「2 愛媛県」と答えた人に聞きます。どのような業種を考えていますか、一つ選んでください。

設問	業種													
	農業	漁業	建設業	製造業	情報通信	運輸	金融保険	不動産	飲食宿泊	医療福祉	教育	公務員	その他	
(7)南予地方	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
(8)愛媛県	38	2	0	1	1	1	0	0	0	15	8	7	3	

設問2 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…ある 4…ややある 3…どちらともいえない 2…ややない 1…ない

(1)将来のことなどについて

設 問	5	4	3	2	1
ア 本校在籍時に海外研修・留学をしたいか	33.3%	20.3%	13.1%	11.8%	21.6%
イ 海外の大学に進学したいか	2.0%	6.5%	19.0%	19.0%	53.6%
ウ 将来、留学したいか	16.3%	19.0%	19.6%	12.4%	32.7%
エ 将来、仕事で国際的に活躍したいか	8.5%	22.2%	23.5%	17.6%	28.1%
オ フィールドワークをしたことがあるか	10.5%	0.0%	4.6%	3.9%	81.0%
カ 日本に愛着があるか	70.6%	15.0%	11.1%	2.6%	0.7%
キ 愛媛に愛着があるか	51.0%	25.5%	15.0%	3.9%	4.6%
ク 宇和島(出身地)に愛着があるか	51.6%	24.2%	15.0%	5.2%	3.9%
ケ 宇和島南中等教育学校に愛着があるか	31.4%	28.1%	27.5%	7.2%	5.9%
コ 自己肯定感があるか	11.8%	23.5%	43.8%	13.7%	7.2%

(2)関心のある分野について

設 問	5	4	3	2	1
ア 地元の水産業(養殖・漁業)に関心があるか	8.5%	30.7%	26.8%	22.9%	11.1%
イ 地元の柑橘業に関心があるか	7.8%	37.3%	26.8%	18.3%	9.8%
ウ 地元企業について関心があるか	7.2%	25.5%	30.7%	23.5%	13.1%
エ 地域おこしや町おこしに関心があるか	17.6%	30.7%	26.8%	13.7%	11.1%
オ 東アジアや東南アジアに関心があるか	7.8%	20.3%	31.4%	25.5%	15.0%
カ 愛媛と海外の貿易について関心があるか	7.2%	17.6%	27.5%	25.5%	22.2%
キ 外国の文化や歴史に関心があるか	17.6%	34.6%	17.6%	15.7%	14.4%
ク 日本の文化や歴史に関心があるか	20.3%	35.9%	19.0%	15.0%	9.8%
ケ 愛媛の文化や歴史に関心があるか	12.4%	26.8%	30.7%	17.6%	12.4%
コ 宇和島(もしくは出身地)の歴史や文化に関心があるか	12.4%	30.7%	26.1%	17.6%	13.1%
サ 世界から見た日本の印象に関心があるか	28.1%	39.9%	18.3%	7.8%	5.9%
シ 日本から見た宇和島の印象に関心があるか	20.9%	34.0%	24.2%	14.4%	6.5%
ス 国際社会で起こっている諸問題への関心があるか	18.3%	29.4%	30.7%	14.4%	7.2%
セ 社会貢献への意識があるか	17.6%	32.0%	31.4%	11.1%	7.8%
ソ 国際社会のために貢献する意識があるか	10.5%	33.3%	34.0%	11.8%	10.5%
タ 海外での異文化体験に興味があるか	29.4%	25.5%	17.6%	15.0%	12.4%

(3)資質・能力について

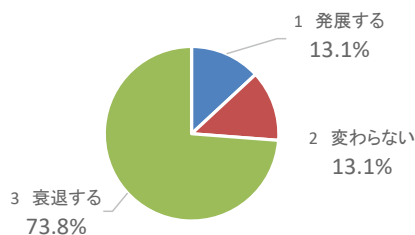
設 問	5	4	3	2	1
ア グローバルな視点で物事を見る必要があるか	40.5%	33.3%	15.0%	6.5%	4.6%
イ 外国の人とコミュニケーションをとる力が必要か	60.1%	20.9%	13.1%	3.9%	2.0%
ウ 海外の高校生と交流したい気持ちがあるか	28.1%	34.0%	14.4%	9.8%	13.7%
エ 海外の高校生と協力して課題解決に取り組みたい気持ちがあるか	12.4%	32.0%	26.1%	13.7%	15.7%
オ ものごとを多角的にみる力があるか	3.9%	26.8%	37.9%	17.0%	14.4%
カ チャレンジ精神があるか	20.9%	32.0%	21.6%	17.6%	7.8%
キ 困難に耐える力があるか	19.6%	35.3%	24.2%	13.7%	7.2%
ク 企画する力があるか	3.3%	23.5%	32.0%	24.8%	16.3%
ケ 人と交渉する力があるか	12.4%	27.5%	27.5%	19.0%	13.7%
コ リーダーシップがあるか	5.9%	19.6%	32.0%	21.6%	20.9%
サ 現状を分析し、課題を発見する能力があるか	3.3%	26.1%	45.8%	15.7%	9.2%
シ 論理的思考力があるか	2.0%	26.8%	40.5%	17.6%	13.1%
ス 自分の意見を論理的に主張する力があるか	2.6%	21.6%	34.0%	25.5%	16.3%
セ 課題を解決する能力があるか	0.0%	23.5%	44.4%	19.0%	13.1%
ソ 探究心があるか	17.0%	34.0%	30.7%	9.8%	8.5%
タ 研究結果をまとめ、発表する能力があるか	2.6%	12.4%	53.6%	15.7%	15.7%
チ 自分と違う意見にも耳を傾ける気持ちがあるか	32.7%	35.3%	24.2%	2.6%	5.2%
ツ グローバルな視点で物事を見る力があるか	3.9%	19.6%	45.1%	20.3%	11.1%

設問3 以下の質問に教えてください。

(1) 宇和島(もしくは出身地)の誇れるところを挙げてください。

- 水産業(鯛・ブリ・真珠)
- 優しい人が多い
- 宇和島城がある
- 柑橘が有名
- 景観が良い

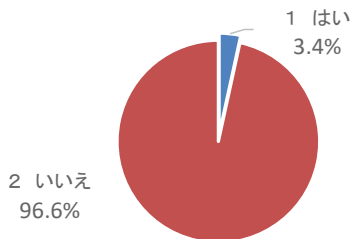
(2) あなたは、宇和島(愛媛県)の今後をどのように考えますか。



(3) (2)で答えた理由はなぜですか。

- 1 発展する
 - 新しい建物や店が増えてきているから
 - 地域活性化の取組が行われているから
 - 高校生や地域の人が活性化を図っているから
- 2 変わらない
 - 注目している人が少ないから
 - ずっと町並みが変わらないから
 - イベントに持続性がないから
- 3 衰退する
 - 人口が年々減少し、観光地もあまりないから
 - 過疎地域が増加しているから
 - 宇和島のセールスポイントが少ないから

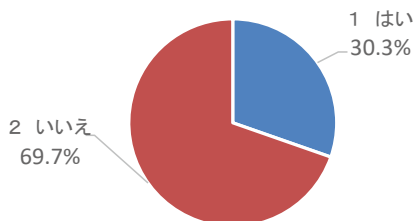
(4) 世界を相手に貿易をしている宇和島の企業を知っていますか。



(5) (4)で「1 はい」と答えた人に聞きます。具体例を教えてください。

- ㈱宇和島プロジェクト
- ㈱アスモ
- ㈱カネコ

(6) 愛媛県や地元の産物で海外に輸出しているものを知っていますか。



(7) (6)で「1 はい」と答えた人に聞きます。具体例を教えてください。

- 真珠
- 柑橘類
- じゃこ天
- 今治タオル

(8) 海外に輸出したい愛媛県や地元の産物を挙げるとすれば何ですか。具体例を教えてください。

- じゃこ天
- 真珠
- 鯛飯
- 柑橘類
- 甘とろ豚
- キウイフルーツ
- きびなご
- しらす
- かまぼこ
- キジ肉
- フルーツフィッシュ

(9)あなたが現在学びたいと思う分野を希望の強い順に並べてください。 強い > 弱い

水産業 > 柑橘業 > アジアの文化 > 海外貿易 > 地元企業 > 地域おこし > その他

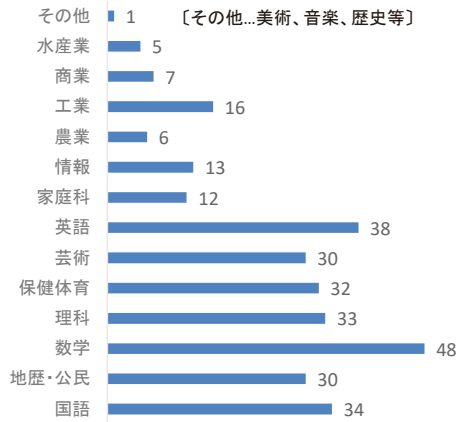
(10)地域を活性化するための方策を考え、自由に書いてください。

- 新しい料理の開発
- 商店街の有効利用
- 子どもの住みやすい環境づくり
- 特産品やイベントをSNSでPRする

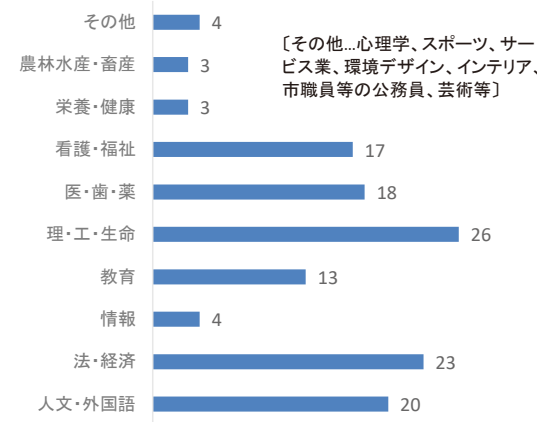
4年(12月) SGHに関する調査(SGアクション)調査結果

設問1 以下の質問について、教えてください。

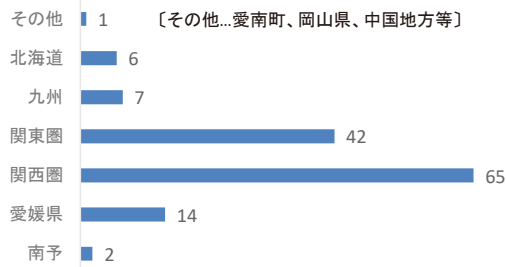
(1)あなたは現在、どの分野に関心がありますか。
(複数回答可)



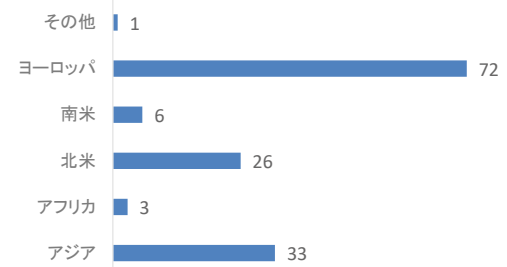
(2)あなたは将来、どのような分野への進学を希望していますか。一つ選んでください。



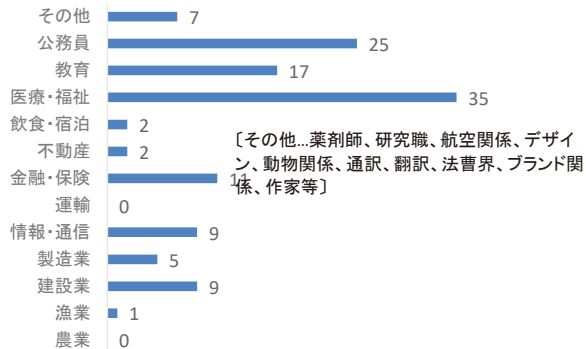
(3)あなたは現在、国内でどのような地域に関心がありますか。一つ選んでください。



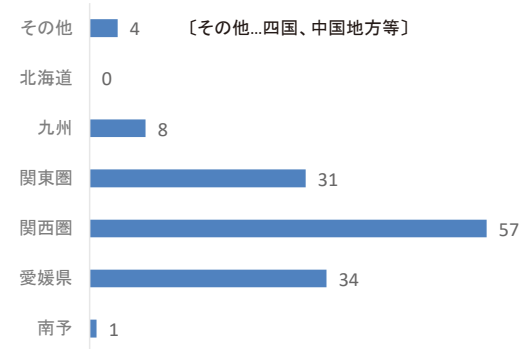
(4)あなたは現在、海外でどのような地域に関心がありますか。一つ選んでください。



(5)あなたは将来どのような仕事(業種)に就きたいと思っていますか。一つ選んでください。



(6)あなたは、学校卒業後、どこで就職を希望しますか。一つ選んでください。



(7) (6)で「1 南予地方」と答えた人に聞きます。どのような業種を考えていますか、一つ選んでください。

(8) (6)で「2 愛媛県」と答えた人に聞きます。どのような業種を考えていますか、一つ選んでください。

設問	業種	農業	漁業	建設業	製造業	情報通信	運輸	金融保険	不動産	飲食宿泊	医療福祉	教育	公務員	その他
(7) 南予地方	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0
(8) 愛媛県	32	0	1	0	1	1	0	0	0	0	15	4	8	2

設問2 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…ある 4…ややある 3…どちらともいえない 2…ややない 1…ない

将来のことなどについて

設 問	5	4	3	2	1
ア 本校在籍時に海外研修・留学をしたいか	34.4%	20.1%	13.0%	9.1%	23.4%
イ 海外の大学に進学したいか	1.3%	9.7%	11.0%	12.3%	65.6%
ウ 将来、留学したいか	17.5%	16.2%	18.2%	13.6%	34.4%
エ 将来、仕事で国際的に活躍したいか	10.4%	14.9%	24.0%	16.2%	34.4%
オ フィールドワークをしたことがあるか	49.4%	3.9%	9.7%	2.6%	34.4%
カ 日本に愛着があるか	66.2%	21.4%	10.4%	0.6%	1.3%
キ 愛媛に愛着があるか	39.6%	32.5%	19.5%	4.5%	3.9%
ク 宇和島(出身地)に愛着があるか	38.3%	29.9%	20.8%	4.5%	6.5%
ケ 宇和島南中等教育学校に愛着があるか	24.0%	31.2%	27.3%	7.1%	10.4%

設問3 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…関心が高まった 4…どちらかといえば関心が高まった 3…変化なし
2…どちらかといえば関心が低くなった 1…関心が低く

関心のある分野について

設 問	5	4	3	2	1
ア 地元の水産業(養殖・漁業)に関心があるか	14.9%	39.0%	40.3%	3.2%	2.6%
イ 地元の柑橘業に関心があるか	20.8%	35.1%	40.3%	1.3%	2.6%
ウ 地元企業について関心があるか	11.7%	34.4%	48.7%	2.6%	2.6%
エ 地域おこしや町おこしに関心があるか	17.5%	35.1%	44.2%	0.6%	2.6%
オ 東アジアや東南アジアに関心があるか	10.4%	27.9%	55.2%	3.2%	3.2%
カ 愛媛と海外の貿易について関心があるか	6.5%	22.7%	64.9%	1.9%	3.9%
キ 外国の文化や歴史に関心があるか	13.6%	32.5%	46.8%	3.2%	3.9%
ク 日本の文化や歴史に関心があるか	14.3%	36.4%	43.5%	1.3%	4.5%
ケ 愛媛の文化や歴史に関心があるか	11.7%	31.8%	50.0%	1.9%	4.5%
コ 宇和島(もしくは出身地)の歴史や文化に関心があるか	11.7%	29.2%	51.3%	1.9%	5.8%
サ 世界から見た日本の印象に関心があるか	17.5%	33.8%	42.2%	3.9%	2.6%
シ 日本から見た宇和島の印象に関心があるか	12.3%	31.2%	50.6%	3.2%	2.6%
ス 国際社会で起こっている諸問題への関心があるか	18.2%	31.8%	45.5%	1.9%	2.6%
セ 社会貢献への意識があるか	16.9%	34.4%	46.1%	0.0%	2.6%

設問4 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…付いた 4…どちらかといえば付いた 3…変化なし 2…どちらかといえば落ちた 1…落ちた

資質・能力について

設 問	5	4	3	2	1
ア ものごとを多角的にみる力があるか	11.0%	45.5%	42.9%	0.0%	0.6%
イ コミュニケーション力があるか	20.8%	44.8%	32.5%	1.3%	0.6%
ウ チャレンジ精神があるか	16.9%	47.4%	33.1%	1.9%	0.6%
エ 困難に耐える力があるか	11.7%	46.8%	36.4%	3.2%	1.9%
オ 企画する力があるか	9.7%	35.7%	48.1%	4.5%	1.9%
カ 人と交渉する力があるか	13.6%	37.7%	44.2%	3.2%	1.3%
キ リーダーシップがあるか	10.4%	28.6%	54.5%	5.2%	1.3%
ク 現状を分析し、課題を発見する能力があるか	6.5%	42.9%	48.1%	1.3%	1.3%
ケ 論理的思考力があるか	3.9%	34.4%	59.1%	1.3%	1.3%
コ 自分の意見を論理的に主張する力があるか	7.8%	33.1%	55.8%	1.3%	1.9%
サ 課題を解決する能力があるか	8.4%	38.3%	50.6%	1.3%	1.3%
シ 探究心があるか	11.0%	43.5%	42.9%	0.6%	1.9%
ス 研究結果をまとめ、発表する能力があるか。	10.4%	39.0%	46.8%	2.6%	1.3%
セ 自分と違う意見にも耳を傾ける気持ちがあるか	29.2%	46.8%	22.1%	0.6%	1.3%

設問5 以下の質問に答えてください。

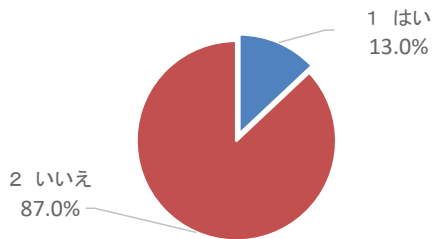
(1) 宇和島(もしくは出身地)の誇れるところを挙げてください。

- 現存する天守、宇和島城
- 郷土料理がおいしい
- 特産品が豊か
- 世界に誇れる段々畑
- 自然が豊かで人柄が良い

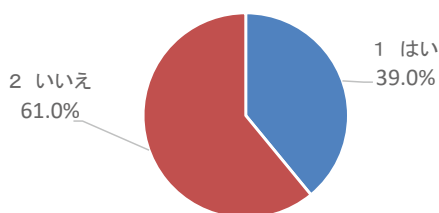
(3) (2)で答えた理由はなぜですか。

- 1 発展する
 - 宇和島を活性化させるために努力しているから
 - 様々な企画や催しが増えているから
 - 企業や市役所が町を盛り上げようとしているから
- 2 変わらない
 - 人口が減っても何も変わらないと思うから
 - 発展する要素が少ないから
 - 全国的に注目度が低いから
- 3 衰退する
 - 若者が減少し続けているから
 - 労働人口が減少しているから
 - 地域課題が解決に向かっていないから

(4) 世界を相手に貿易をしている宇和島の企業を知っていますか。



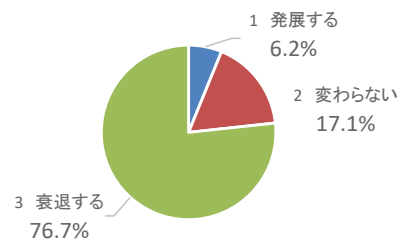
(6) 愛媛県や地元の産物で海外に輸出しているものを知っていますか。



(8) 海外に輸出したい愛媛県や地元の産物を挙げるとすれば何ですか。具体例を教えてください。

- | | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|
| <input type="radio"/> フリードライ鯛飯 | <input type="radio"/> 柚 | <input type="radio"/> ブリ | <input type="radio"/> ちりめん |
| <input type="radio"/> 干物 | <input type="radio"/> 遊子ジャガイモ | <input type="radio"/> 牛鬼 | <input type="radio"/> 三間米 |
| <input type="radio"/> じゃこ天 | <input type="radio"/> 練り物 | <input type="radio"/> 今治タオル | <input type="radio"/> キウイフルーツ |
| <input type="radio"/> フルーツ魚 | <input type="radio"/> 鯛 | <input type="radio"/> 真珠 | |

(2) あなたは、宇和島(愛媛県)の今後をどのように考えますか。



(5) (4)で「1 はい」と答えた人に聞きます。具体例を教えてください。

- (株)イヨスイ
- (株)ダイニチ
- (株)ベルグアース

(7) (6)で「1 はい」と答えた人に聞きます。具体例を教えてください。

- みかん(柑橘類)
- 真珠
- 養殖鯛
- 真鯛、ブリ
- みかんフィッシュ、みかんブリ
- 今治タオル
- 宇和島水産高校の缶詰

(9)あなたが現在学びたいと思う分野を希望の強い順に並べてください。 強い > 弱い

地元企業 > アジアの文化 > 柑橘業 > 海外貿易 > 水産業 > 地域おこし > その他

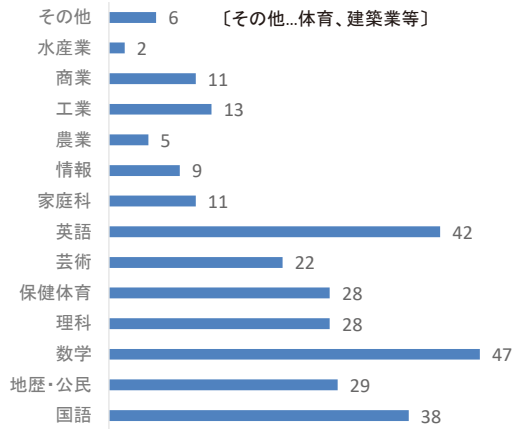
(10)地域を活性化するための方策を考え、自由に書いてください。

- 若者を地域に呼ぶ
- お祭りなどを増やす
- 新規就労者への補助制度の充実
- 企業誘致
- 商業施設・宿泊施設の誘致
- 外国人労働者を増やし、国際色豊かにする
- 空き店舗の活用
- 県外からの観光客を増やす

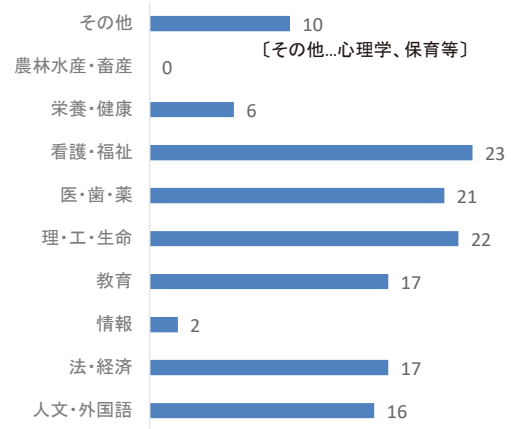
5年(12月) SGHに関する調査(SGアクション)調査結果

設問1 以下の質問について、教えてください。

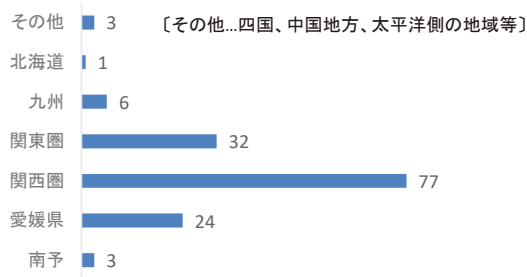
(1)あなたは現在、どの分野に関心がありますか。
(複数回答可)



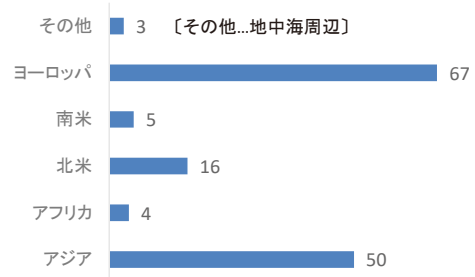
(2)あなたは将来、どのような分野への進学を希望していますか。一つ選んでください。



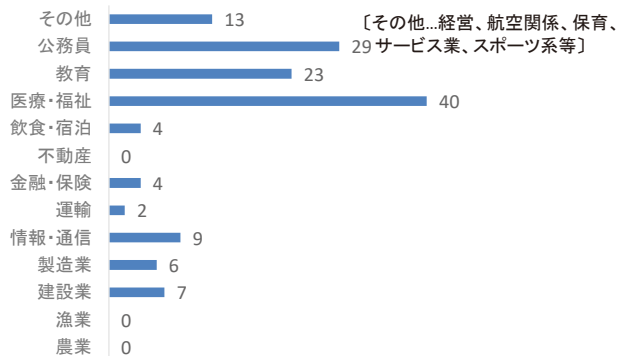
(3)あなたは現在、国内でどのような地域に関心がありますか。一つ選んでください。



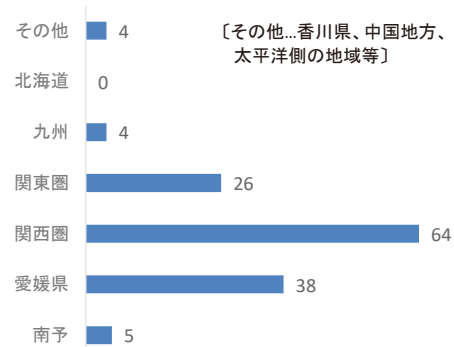
(4)あなたは現在、海外でどのような地域に関心がありますか。一つ選んでください。



(5)あなたは将来どのような仕事(業種)に就きたいと思っていますか。一つ選んでください。



(6)あなたは、学校卒業後、どこで就職を希望しますか。一つ選んでください。



(7) (6)で「1 南予地方」と答えた人に聞きます。どのような業種を考えていますか、一つ選んでください。

(8) (6)で「2 愛媛県」と答えた人に聞きます。どのような業種を考えていますか、一つ選んでください。

設問	業種													
	農業	漁業	建設業	製造業	情報通信	運輸	金融保険	不動産	飲食宿泊	医療福祉	教育	公務員	その他	
(7)南予地方	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0
(8)愛媛県	35	0	3	0	1	1	0	2	0	0	12	7	7	2

設問2 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…ある 4…ややある 3…どちらともいえない 2…ややない 1…ない

将来のことなどについて

設 問	5	4	3	2	1
(1) 本校在籍時に海外研修・留学をしたいか	20.0%	14.2%	23.2%	12.3%	30.3%
(2) 海外の大学に進学したいか	5.8%	10.3%	18.7%	14.2%	51.0%
(3) 将来、留学したいか	27.1%	13.6%	21.9%	11.6%	25.8%
(4) 将来、仕事で国際的に活躍したいか	14.2%	20.0%	27.7%	12.9%	24.5%
(5) フィールドワークをしたことがあるか	57.4%	14.8%	9.7%	1.3%	16.8%
(6) 日本に愛着があるか	71.6%	18.1%	9.0%	0.0%	1.3%
(7) 愛媛に愛着があるか	47.1%	29.1%	17.4%	3.2%	3.2%
(8) 宇和島(出身地)に愛着があるか	39.4%	29.7%	17.4%	5.2%	8.3%
(9) 宇和島南中等教育学校に愛着があるか	28.6%	33.8%	22.7%	5.8%	9.1%

設問3 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…関心が高まった 4…どちらかといえば関心が高まった 3…変化なし
2…どちらかといえば関心が低くなった 1…関心が低く

関心のある分野について

設 問	5	4	3	2	1
(1) 地元の水産業(養殖・漁業)に関心があるか	20.0%	36.8%	36.1%	3.2%	3.9%
(2) 地元の柑橘業に関心があるか	20.7%	40.6%	31.0%	3.2%	4.5%
(3) 地元企業について関心があるか	16.1%	39.4%	37.4%	2.6%	4.5%
(4) 地域おこしや町おこしに関心があるか	22.6%	38.7%	32.2%	3.9%	2.6%
(5) 東アジアや東南アジアに関心があるか	12.3%	32.9%	45.1%	3.2%	6.5%
(6) 愛媛と海外の貿易について関心があるか	13.5%	32.3%	45.8%	1.9%	6.5%
(7) 外国の文化や歴史に関心があるか	18.7%	38.7%	36.2%	1.9%	4.5%
(8) 日本の文化や歴史に関心があるか	17.4%	43.9%	32.3%	1.9%	4.5%
(9) 愛媛の文化や歴史に関心があるか	13.5%	40.0%	39.4%	2.6%	4.5%
(10) 宇和島(もしくは出身地)の歴史や文化に関心があるか	11.6%	41.9%	39.4%	1.9%	5.2%
(11) 世界から見た日本の印象に関心があるか	19.4%	41.9%	32.9%	1.9%	3.9%
(12) 日本から見た宇和島の印象に関心があるか	11.6%	45.8%	34.8%	2.6%	5.2%
(13) 国際社会で起こっている諸問題への関心があるか	20.6%	42.6%	30.3%	3.9%	2.6%
(14) 社会貢献への意識があるか	14.8%	43.2%	36.2%	0.6%	5.2%

設問4 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…付いた 4…どちらかといえば付いた 3…変化なし 2…どちらかといえば落ちた 1…落ちた

資質・能力について

設 問	5	4	3	2	1
(1) ものごとを多角的にみる力があるか	15.5%	55.5%	27.7%	1.3%	0.0%
(2) コミュニケーションをとる力があるか	25.2%	42.6%	28.4%	1.9%	1.9%
(3) チャレンジ精神があるか	18.7%	45.8%	32.9%	1.3%	1.3%
(4) 困難に耐える力があるか	16.8%	47.1%	35.5%	0.6%	0.0%
(5) 企画する力があるか	15.5%	43.9%	40.0%	0.6%	0.0%
(6) 人と交渉する力があるか	16.8%	45.8%	34.2%	1.3%	1.9%
(7) リーダーシップがあるか	10.3%	32.9%	51.0%	3.2%	2.6%
(8) 現状を分析し、課題を発見する能力があるか	11.0%	44.5%	41.9%	2.6%	0.0%
(9) 論理的思考力があるか	13.0%	34.8%	48.4%	3.2%	0.6%
(10) 自分の意見を論理的に主張する力があるか	12.3%	40.0%	44.5%	1.3%	1.9%
(11) 課題を解決する能力があるか	12.3%	47.7%	38.8%	0.6%	0.6%
(12) 探究心があるか	15.5%	49.7%	33.5%	0.0%	1.3%
(13) 研究結果をまとめ、発表する能力があるか	13.6%	47.7%	36.8%	1.3%	0.6%
(14) 自分と違う意見にも耳を傾ける気持ちがあるか	26.5%	49.0%	23.9%	0.0%	0.6%

設問5 以下の質問に教えてください。

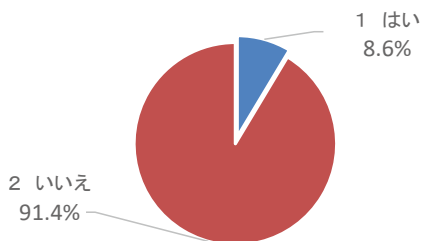
(1) 宇和島(もしくは出身地)の誇れるところを挙げてください。

- 自然が豊かなところ
- 海と山に囲まれているところ
- 水産業が盛んなところ
- 外国人観光客が多いところ

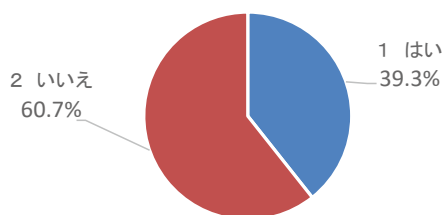
(3) (2)で答えた理由はなぜですか。

- 1 発展する
 - 若者が頑張っているから
 - ブランド魚が人気になると思うから
 - 最近パフィオができたり新しい建物が建っているから
- 2 変わらない
 - 昨年と変化が見られないから
 - 自分が生まれてからこれまで変化したことが少ないから
 - 衰退しつつも何とか立ち直っているから
- 3 衰退する
 - 少子化が進んでいくと思うから
 - 将来のことを考えると、宇和島より都会が良いから
 - 職の跡継ぎが少ないと思うから

(4) 世界を相手に貿易をしている宇和島の企業を知っていますか。



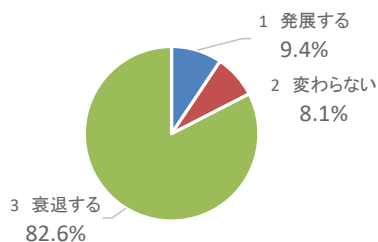
(6) 愛媛県や地元の産物で海外に輸出しているものを知っていますか。



(8) 海外に輸出したい愛媛県や地元の産物を挙げるとすれば何ですか。具体例を教えてください。

- 砥部焼
- チョコブリ
- 紅まどんな
- 鯛飯
- ポンジュース
- ブラッドオレンジ
- じゃこ天
- 真珠
- みかんの花の蜂蜜
- 今治タオル
- スマ
- 三間米

(2) あなたは、宇和島(愛媛県)の今後をどのように考えますか。



(5) (4)で「1 はい」と答えた人に聞きます。具体例を教えてください。

- 土居真珠
- 中田水産
- 宇和島プロジェクト
- ウオンズ
- ㈱キシモト
- 愛ファーマシー
- ㈱カネコ
- ベルグアース
- ㈱イヨスイ
- ヨンキュウ

(7) (6)で「1 はい」と答えた人に聞きます。具体例を教えてください。

- みかんフィッシュ、みかんブリ
- 真珠
- キウイフルーツ
- 真珠
- ブラッドオレンジ
- 今治タオル
- キジ肉

(9)あなたが現在学びたいと思う分野を希望の強い順に並べてください。 強い > 弱い

海外貿易 > アジアの文化 > 地元企業 > 地域おこし > 柑橘業 > 水産業 > その他

(10)地域を活性化するための方策を考え、自由に書いてください。

- 大型ショッピングモールや映画館をつくる
- 若手が活躍できるような職種を市の資金で起業する
- 高齢者に優しいまちづくり
- 空き家を改築し、外国人観光客に貸し出す
- 地元の人々の結びつきを強めるイベントを開催する
- 子どもを育てやすいまちづくり
- 移住プロジェクトの強化

6年(2月) SGHに関する調査(SGアクション)調査結果

設問1 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…ある 4…どちらかといえばある 3…どちらともいえない 2…どちらかといえばない 1…ない

設 問	5	4	3	2	1
(1) 将来、留学をしたい気持ちがありますか。	20.3%	29.1%	11.5%	8.8%	26.4%
(2) 将来、仕事で国際的に活躍したい気持ちがありますか。	8.8%	25.7%	25.7%	11.5%	24.3%
(3) 日本に愛着がありますか。	43.2%	36.5%	13.5%	1.4%	1.4%
(4) 愛媛に愛着がありますか。	31.1%	32.4%	20.9%	6.1%	5.4%
(5) 宇和島(もしくは出身地)に愛着がありますか。	27.0%	26.4%	24.3%	10.1%	8.1%
(6) 宇和島南中等教育学校に愛着がありますか。	15.5%	24.3%	29.7%	15.5%	10.8%

設問2 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…関心が高まった 4…どちらかといえば関心が高まった 3…変化なし
2…どちらかといえば関心が低くなった 1…関心が低くなった

設 問	5	4	3	2	1
(1) 地元の水産業(漁業・養殖業)について関心が高まりましたか。	7.4%	42.6%	48.0%	0.7%	1.4%
(2) 地元の柑橘業に関心が高まりましたか。	8.8%	43.9%	44.6%	1.4%	1.4%
(3) 地元企業について関心が高まりましたか。	13.5%	50.7%	33.1%	0.7%	2.0%
(4) 地域おこしや町おこしについて関心が高まりましたか。	20.3%	47.3%	30.4%	0.7%	1.4%
(5) 東アジアや東南アジアについて関心が高まりましたか。	9.5%	31.1%	52.7%	4.7%	2.0%
(6) 愛媛と海外の貿易について関心が高まりましたか。	4.7%	36.5%	54.1%	2.7%	2.0%
(7) 外国の文化や歴史に関心が高まりましたか。	11.5%	41.9%	41.2%	4.1%	1.4%
(8) 日本の文化や歴史に関心が高まりましたか。	12.2%	38.5%	45.9%	2.0%	1.4%
(9) 愛媛の文化や歴史に関心が高まりましたか。	8.1%	38.5%	49.3%	2.7%	1.4%
(10) 宇和島(もしくは出身地)の歴史や文化に関心が高まりましたか。	8.8%	39.2%	48.0%	2.7%	1.4%
(11) 世界から見た日本の印象に関心が高まりましたか。	15.5%	39.9%	43.9%	0.7%	0.0%
(12) 日本から見た宇和島の印象に関心が高まりましたか。	8.8%	40.5%	48.0%	2.0%	0.7%
(13) 国際社会で起こっている諸問題への関心が高まりましたか。	16.2%	50.7%	30.4%	2.0%	0.7%
(14) 社会貢献への意識が高まりましたか。	19.6%	43.9%	33.1%	2.0%	1.4%

設問3 以下の質問について、それぞれ5段階で教えてください。

5…付いた 4…どちらかといえば付いた 3…変化なし 2…どちらかといえば落ちた 1…落ちた

設 問	5	4	3	2	1
(1) ものごとを多角的にみる力が付きましたか。	15.5%	53.4%	25.7%	0.7%	0.0%
(2) コミュニケーション力が付きましたか。	19.6%	46.6%	25.7%	1.4%	1.4%
(3) チャレンジ精神が付きましたか。	16.2%	43.9%	33.1%	1.4%	0.7%
(4) 困難に耐える力が付きましたか。	18.2%	43.2%	31.8%	1.4%	0.7%
(5) 企画する力が付きましたか。	10.1%	41.9%	41.2%	2.0%	0.0%
(6) 人と交渉する力が付きましたか。	14.9%	42.6%	35.8%	1.4%	0.7%
(7) リーダーシップが付きましたか。	11.5%	29.7%	49.3%	4.1%	0.7%
(8) 現状を分析し、課題を発見する能力が付きましたか。	8.1%	54.1%	31.8%	1.4%	0.0%
(9) 論理的思考力が付きましたか。	9.5%	46.6%	38.5%	0.7%	0.0%
(10) 自分の意見を論理的に主張する力が付きましたか。	8.8%	47.3%	37.2%	1.4%	0.7%
(11) 課題を解決する能力が付きましたか。	6.8%	54.1%	32.4%	2.0%	0.0%
(12) 探究心が付きましたか。	15.5%	46.6%	31.8%	1.4%	0.0%
(13) 研究結果をまとめ、発表する能力が付きましたか。	11.5%	49.3%	33.1%	1.4%	0.0%
(14) 自分と違う意見にも耳を傾ける気持ちが付きましたか。	22.3%	45.3%	26.4%	1.4%	0.0%
(15) 異文化理解力が付きましたか。	15.5%	44.6%	34.5%	0.7%	0.0%
(16) 自ら考え行動する力が付きましたか。	12.8%	50.7%	30.4%	0.7%	0.7%
(17) 自分の考えたことを発信する語学力が付きましたか。	10.1%	39.9%	39.2%	2.0%	0.0%

設問4 論文作成に関して、自己評価をしてください。

達成度(高い) 5・4・3・2・1(低い)

設 問	5	4	3	2	1
(1) ローカルとグローバルな視点をもって研究に取り組むことが出来た。	10.8%	39.2%	36.5%	2.0%	1.4%
(2) 計画的にデータ収集や分析などを行うことが出来た。	12.2%	37.2%	37.2%	2.0%	2.0%
(3) 研究内容に興味関心を持ち、研究に取り組むことが出来た。	19.6%	38.5%	27.0%	2.0%	3.4%

SGH事業活動に関する調査(4年生保護者)

設問1 次のことがらについて教えてください。あてはまるものに○をつけてください。

設 問	はい	いいえ
(1) 県内・国内・海外等へのフィールドワークが実施されていることを知っていますか。	98.0%	2.0%
(2) 家庭で、SGHの活動について話す機会がありますか。	68.7%	31.3%
(3) SGHの活動は、学習活動に良い影響を与えていると思いますか。	90.9%	9.1%

設問2 次のことがらについて、お子様は、どの程度興味があると思いますか。

保護者の意見をお聞かせください。あてはまるものに○をつけてください。

1 興味がある 2 どちらでもない 3 興味がない 4 わからない

設 問	1 興味がある	2 どちらでもない	3 興味がない	4 わからない
(1) 愛媛や宇和島市(あるいは、出身地)の文化について	27.3%	49.5%	11.1%	12.1%
(2) 愛媛や宇和島市(あるいは、出身地)の産業について	24.2%	52.5%	13.1%	10.2%
(3) 日本の文化や産業について	37.4%	46.5%	6.1%	10.0%
(4) 外国の様々な文化について	34.3%	46.5%	10.1%	9.1%
(5) 海外留学について	37.4%	32.3%	22.2%	8.1%
(6) 海外ボランティアなどの国際的な活動について	22.2%	36.4%	31.3%	10.1%
(7) 海外での国際的な仕事について	24.2%	39.4%	27.3%	9.1%

設問3 お子様は、次の力がどの程度あると思いますか。保護者の意見をお聞かせください。

あてはまるものに○をつけてください。

1 十分にある 2 ある 3 ない 4 全くない

設 問	1 十分にある	2 ある	3 ない	4 全くない
(1) コミュニケーション力	16.2%	64.6%	17.2%	2.0%
(2) チャレンジ精神・困難に耐える力	14.1%	69.7%	15.2%	1.0%
(3) 企画立案力・交渉力	7.1%	54.5%	36.4%	2.0%
(4) リーダーシップ	5.1%	53.5%	38.4%	3.0%
(5) 現状を分析し、課題を発見する能力	11.2%	53.5%	33.3%	2.0%
(6) 論理的思考力	9.1%	63.6%	26.3%	1.0%
(7) 課題を解決する能力	11.1%	67.7%	20.2%	1.0%
(8) 探究心	8.1%	61.6%	28.3%	2.0%
(9) 研究結果をまとめ、発表する能力	9.1%	58.6%	30.3%	2.0%
(10) 英語でのディスカッション力・ディベート力	0.0%	34.3%	50.5%	15.2%
(11) 世界に通用する語学力・表現力	1.1%	23.2%	54.5%	21.2%
(12) 本校の魅力をアピールする力	2.0%	48.5%	43.4%	6.1%
(13) 愛媛県や宇和島市(あるいは、出身地)の魅力をアピールする力	7.1%	51.5%	37.4%	4.0%
(14) 日本の魅力をアピールする力	5.1%	53.5%	36.4%	5.0%

設問4 次のことがらについて、保護者の意見をお聞かせください。

あてはまるものに○をつけてください。

1 強くそう思う 2 そう思う 3 思わない 4 全く思わない

設 問	1 強くそう思う	2 そう思う	3 思わない	4 全く思わない
(1) チャンスがあるなら、将来、留学させたいと思う	18.2%	51.5%	24.2%	6.1%
(2) 将来、仕事で国際的に活躍してもらいたいと思う	10.1%	46.5%	38.4%	5.0%
(3) 将来、地元で働いてもらいたいと思う	7.1%	29.3%	53.5%	10.1%
(4) 英語力を高めさせたいと思う	41.5%	54.5%	2.0%	2.0%
(5) 将来、英語力は必要だと思う	52.6%	43.4%	1.0%	3.0%

SGH事業活動に関する調査(5年生保護者)

設問1 次のことがらについて答えてください。あてはまるものに○をつけてください。

設 問	はい	いいえ	変わらない
(1) 県内・国内・海外等へのフィールドワークが実施されていることを知っていますか。	98.9%	1.1%	0%
(2) 家庭で、SGHの活動について話す機会がありますか。	64.4%	35.6%	0%
(3) SGHの活動は、学習活動に良い影響を与えていると思いますか。	89.8%	10.2%	0%

設問2 次のことがらについて、お子様は、昨年と比べ、どの程度変化したと思いますか。

保護者の意見をお聞かせください。あてはまるものに○をつけてください。

1 関心が増した 2 変化なし 3 関心が減った 4 わからない

設 問	1 関心が増した	2 変化なし	3 関心が減った	4 わからない
(1) 愛媛や宇和島市(あるいは、出身地)の文化について	30.0%	47.8%	15.6%	6.7%
(2) 愛媛や宇和島市(あるいは、出身地)の産業について	33.7%	44.9%	13.5%	7.9%
(3) 日本の文化や産業について	28.9%	51.1%	10.0%	10.0%
(4) 外国の様々な文化について	43.3%	34.4%	13.3%	8.9%
(5) 海外留学について	35.6%	16.7%	32.2%	15.6%
(6) 海外ボランティアなどの国際的な活動について	23.3%	30.0%	28.9%	17.8%
(7) 海外での国際的な仕事について	25.6%	30.0%	27.8%	16.7%

設問3 お子様は、昨年と比べ、次の力がどの程度付いたと思いますか。保護者の意見をお聞かせください。

あてはまるものに○をつけてください。

1 付いた 2 変化なし 3 減った 4 わからない

設 問	1 付いた	2 変化なし	3 減った	4 わからない
(1) コミュニケーション力	22.2%	57.8%	17.8%	2.2%
(2) チャレンジ精神・困難に耐える力	23.3%	55.6%	18.9%	2.2%
(3) 企画立案力・交渉力	12.5%	46.6%	37.5%	3.4%
(4) リーダーシップ	14.6%	49.4%	32.6%	3.4%
(5) 現状を分析し、課題を発見する能力	18.2%	61.4%	20.5%	0.0%
(6) 論理的思考力	20.5%	58.0%	21.6%	0.0%
(7) 課題を解決する能力	16.9%	67.4%	14.6%	1.1%
(8) 探究心	16.9%	55.1%	25.8%	2.2%
(9) 研究結果をまとめ、発表する能力	13.6%	54.5%	29.5%	2.3%
(10) 英語でのディスカッション力・ディベート力	9.2%	35.6%	46.0%	9.2%
(11) 世界に通用する語学力・表現力	5.7%	20.7%	64.4%	9.2%
(12) 本校の魅力をアピールする力	6.9%	49.4%	37.9%	5.7%
(13) 愛媛県や宇和島市(あるいは、出身地)の魅力をアピールする力	6.0%	58.3%	33.3%	2.4%
(14) 日本の魅力をアピールする力	8.3%	46.4%	42.9%	2.4%

設問4 次のことがらについて、保護者の意見をお聞かせください。

あてはまるものに○をつけてください。

1 強くそう思う 2 そう思う 3 思わない 4 全く思わない

設 問	1 強くそう思う	2 そう思う	3 思わない	4 全く思わない
(1) チャンスがあるなら、将来、留学させたいと思う	25.3%	44.8%	23.0%	6.9%
(2) 将来、仕事で国際的に活躍してもらいたいと思う	20.7%	36.8%	37.9%	4.6%
(3) 将来、地元で働いてもらいたいと思う	12.9%	24.7%	47.1%	15.3%
(4) 英語力を高めさせたいと思う	42.5%	52.9%	2.3%	2.3%
(5) 将来、英語力は必要だと思う	57.0%	37.2%	2.3%	3.5%

SGH事業活動に関する調査(6年生保護者)

設問1 次のことがらについて、お子様は、昨年と比べ、どの程度変化したと思いますか。

保護者の意見をお聞かせください。あてはまるものに○をつけてください。

1 関心が増した 2 変化なし 3 関心が減った 4 わからない

設 問	1 関心が増した	2 変化なし	3 関心が減った	4 わからない
(1) 愛媛や宇和島市(あるいは、出身地)の文化について	20.7%	44.8%	27.6%	6.9%
(2) 愛媛や宇和島市(あるいは、出身地)の産業について	20.7%	44.8%	24.1%	10.3%
(3) 日本の文化や産業について	34.5%	37.9%	19.0%	8.6%
(4) 外国の様々な文化について	29.3%	43.1%	19.0%	8.6%
(5) 海外留学について	22.4%	24.1%	46.6%	6.9%
(6) 海外ボランティアなどの国際的な活動について	15.5%	32.8%	44.8%	6.9%
(7) 海外での国際的な仕事について	19.0%	32.8%	41.4%	6.9%

設問2 お子様は、昨年と比べ、次の力がどの程度付いたと思いますか。保護者の意見をお聞かせください。

あてはまるものに○をつけてください。

1 付いた 2 変化なし 3 減った 4 わからない

設 問	1 付いた	2 変化なし	3 減った	4 わからない
(1) コミュニケーション力	10.3%	63.8%	24.1%	1.7%
(2) チャレンジ精神・困難に耐える力	13.8%	62.1%	20.7%	3.4%
(3) 企画立案力・交渉力	6.9%	43.1%	46.6%	3.4%
(4) リーダーシップ	3.4%	44.8%	48.3%	3.4%
(5) 現状を分析し、課題を発見する能力	10.3%	56.9%	27.6%	5.2%
(6) 論理的思考力	13.8%	51.7%	31.0%	3.4%
(7) 課題を解決する能力	10.3%	65.5%	20.7%	3.4%
(8) 探究心	15.5%	60.3%	22.4%	1.7%
(9) 研究結果をまとめ、発表する能力	6.9%	50.0%	37.9%	5.2%
(10) 英語でのディスカッション力・ディベート力	3.4%	31.0%	51.7%	13.8%
(11) 世界に通用する語学力・表現力	3.6%	25.0%	55.4%	16.1%
(12) 本校の魅力をアピールする力	5.2%	41.4%	43.1%	10.3%
(13) 愛媛県や宇和島市(あるいは、出身地)の魅力をアピールする力	5.2%	43.1%	43.1%	8.6%
(14) 日本の魅力をアピールする力	3.4%	51.7%	37.9%	6.9%

設問3 次のことがらについて、保護者の意見をお聞かせください。

あてはまるものに○をつけてください。

1 強くそう思う 2 そう思う 3 思わない 4 全く思わない

設 問	1 強くそう思う	2 そう思う	3 思わない	4 全く思わない
(1) チャンスがあるなら、将来、留学させたいと思う	19.6%	30.4%	37.5%	12.5%
(2) 将来、仕事で国際的に活躍してもらいたいと思う	7.3%	27.3%	52.7%	12.7%
(3) 将来、地元で働いてもらいたいと思う	8.9%	35.7%	39.3%	16.1%
(4) 英語力を高めさせたいと思う	32.7%	45.5%	16.4%	5.5%
(5) 将来、英語力は必要だと思う	49.1%	35.1%	8.8%	7.0%

SGH事業活動に関する調査(教員) 2月 調査結果

設問 次のことがらについて、5段階で答えてください。

5…とても思う 4…思う 3…どちらでもない 2あまり思わない 1…全く思わない

【全体】

設 問	5	4	3	2	1
(1) 本校のSGHの取組が、地域に対する理解と愛情を育むことに効果があると思いますか。	41.7%	54.2%	4.2%	0.0%	0.0%
(2) 本校のSGHの取組が、グローバルな観点から物事を見たり、異文化を理解する力の育成に効果があると思いますか。	43.8%	47.9%	6.3%	2.1%	0.0%
(3) 本校のSGHの取組が、チャレンジ精神や企画立案・交渉力の育成に効果があると思いますか。	41.7%	52.1%	4.2%	2.1%	0.0%
(4) 本校のSGHの取組が、生徒の論理的思考力・分析力の育成に効果があると思いますか。	25.0%	60.4%	12.5%	2.1%	0.0%
(5) 本校のSGHの取組が、生徒の資質・能力の向上に効果があると思いますか。	33.3%	54.2%	10.4%	2.1%	0.0%
(6) 本校のSGHの取組が、生徒の英語による表現力や国際感覚など国際性の育成に効果があると思いますか。	22.9%	52.1%	20.8%	4.2%	0.0%
(7) 本校のSGHの取組が、生徒の地域・社会へ貢献する使命感や地域のリーダーとしての自覚につながる効果があると思いますか。	25.0%	54.2%	12.5%	6.3%	2.1%
(8) 本校のSGHの取組が、高大連携の推進に効果があると思いますか。	25.0%	50.0%	22.9%	2.1%	0.0%
(9) 本校のSGHの取組に、積極的に関わっていると思いますか。	23.4%	40.4%	27.7%	8.5%	0.0%
(10) 本校のSGHの取組が、教員の協力関係強化に効果があると思いますか。	10.4%	47.9%	27.1%	8.3%	6.3%
(11) SGHに指定され、生徒のグローバル化への対応が必要だと思うようになりましたか。	25.0%	52.1%	16.7%	4.2%	2.1%
(12) SGHに指定され、グローバルに対するあなたの意識が変わったと思いますか。	27.1%	43.8%	25.0%	0.0%	4.2%

愛媛県立宇和島南中等教育学校
平成27年度指定スーパーグローバルハイスクール研究開発実施報告書
(第5年次)

発行 令和2年3月

編集 愛媛県立宇和島南中等教育学校

SGH推進本部

〒798-0066 愛媛県宇和島市文京町5番1号

TEL (0895) 22-0262

FAX (0895) 23-7080

